

神戸大学 教養教育院
学際教育部会 外部評価報告書

2023年3月

第1部 自己点検・評価報告書

1. 学際教育部会の組織構成と運営体制
 - 1.1 目標
 - 1.2 沿革
 - 1.3 構成
 - 1.4 運営体制
 - 1.5 開講科目
 - 1.6 前回の自己点検・評価で指摘された課題と改善状況
2. 学際教育部会の内部質保証
 - 2.1 前回の外部評価委員会で指摘された課題と改善状況
 - 2.2 評価項目と改善状況
3. 学際教育部会の教育課程と学習成果
 - 3.1 前回の外部評価委員会で指摘された課題と改善状況
 - 3.2 評価項目と改善状況
4. 今後の課題

第2部 外部評価報告書

1. 外部評価委員会次第
2. 外部評価委員会抄録
3. 外部評価委員報告書

参考資料

1. 部会構成
2. 令和4年度（2022年度）開講科目一覧
3. 令和4年度（2022年度）シラバス
4. 令和3年度（2021年度）後期、同4年度（2022年度）前期
授業振り返りアンケート結果
5. 令和3年度（2021年度）後期、同4年度（2022年度）前期
履修者数および成績分布

第1部 自己点検・評価報告書

作成者：近田政博

1. 学際教育部会の組織構成と運営体制

1.1 趣旨

学際教育部会については、教養教育院 HP に下記のように紹介されている。ただし、目標が具体的に明示されていない点に課題が残る。

学際教育部会は、他の教育部会とは異なり、複数の学問分野にまたがる学際的な授業科目、実習型の授業科目、集中講義型の授業科目など、個性的な科目が集まり、内容は多岐にわたっています。教養教育の意義の一つは、専門教育が「深める」ことを目的とするのに対して、「広げる」ことを目的とすることにあります。

1.2 沿革

教養教育院と学際教育部会の沿革は次の通りである（平成と令和をまたぐため、便宜的に西暦で統一表記する）。学際教育部会の前身は総合教養教育部会であり、2015年4月に国際教養教育院の発足に伴って学際教育部会に名称変更されている。

- 2005年7月 大学教育推進機構が発足
 - 全学共通授業科目の実施主体として全学共通教育部が発足
 - 従来の教科集団が教育部会に再編され、総合教養教育部会が発足（教養原論に属する科目の一部を担当）
- 2006年4月 総合科目Ⅰ、総合科目Ⅱが発足し、これらを総合教養教育部会が担当
- 2015年2月 総合教養教育部会の外部評価を実施（3月に外部評価報告書を作成）
- 2015年4月 全学共通教育部を改組し、国際教養教育院が発足
 - 総合教養教育部会が学際教育部会に名称変更
- 2016年4月 従来の教養原論を基礎教養科目と総合教養科目に再編
- 2018年4月 国際教養教育院と各学部により高度教養科目を開始
- 2022年4月 大学教育推進機構を再編
 - 国際教養教育院を教養教育院に改称

*備考：大学教育推進機構は、2022年4月現在、教養教育院（改称）、グローバル教育センター（旧国際教育総合センターを改組・移管）、国際コミュニケーションセンター、異分野共創型教育開発センター（新設）、大学教育研究センター（旧大学教育研究推進室を改組）の1院4センターからなる（旧大学教育推進本部は廃止）。2023年4月からは、高大接続卓越グローバル人材育成センター（旧アドミッションオフィスを改組・移管）が加わる予定。

*備考：総合科目Ⅰ、総合科目Ⅱとは、「全学部又は複数学部を対象とし、他の全学共通授業科目の授業科目区分に属さない授業科目を新たに全学共通授業科目として開講する場合」の科目名称。開講科目のテーマと内容がおおむね人文・社会系の場合は総合科目Ⅰ、自然・その他系の場合は総合科目Ⅱとして開講する。開講から原則として2年を経過した場合は基礎教養科目、総合教養科目への移行を検討するとされている。

1.3 構成

2022年4月1日現在、教養教育院には22の教育部会が存在し、821人の専任教員が属している（参考資料1.1）。ただし、教育部会によって構成員の人数は大きく偏っている。2022年10月1日現在、学際教育部会に属する専任教員は125名であり（参考資料1.2）、教育部会のなかで最も大所帯となっている（次に多いのは化学の74名）。これは、本部会ではオムニバス形式の授業を多く開講していることによるところが大きい。教員の主配置先内訳を見ると、26の部局等（機構、研究科、センター等）にわたっており、他の教育部会と比較すると際立っている。部局別内訳は、大学教育推進機構22名、国際協力研究科19名、海事科学研究科11名などが比較的多い。

*備考：科目担当もしくはオムニバス形式で数回分の授業を担当する教員は、非常勤講師を除いて当該分野の教育部会に所属する原則となっている。

1.4 運営体制

直近8年間の部会長と幹事は表1の通りである。

学際教育部会の運営については、長年にわたり旧大学教育研究推進室（現大学教育研究センター）から複数名の幹事を出して主要な業務を担ってきた。しかし、令和4年度に同室が大学教育研究センターに改組されてミッション再定義するに際し、従来の運営方式を改め、大学教育推進機構全体で学際教育部会を運営する体制とした。令和4年度には部会長が交代した。現在の幹事3名は大学教育推進機構の異分野共創型教育開発センター、グローバル教育センター、大学教育研究センターに属している。

部会長は毎月開催される教養教育委員会に出席し、幹事と連携しながら、部会が提供する科目担当者またはコーディネイターと連絡をとりつつ、日常の部会運営をしている。具体的には、TA・SAの任用、非常勤講師の要求、開講形態（対面かオンラインか）の照会、部会構成員名簿の更新、毎年度末に実施する担当教員の自己点検・評価のとりまとめ等を行っている。

なお、「神戸大学大学教育推進機構の教育部会に関する内規」により、部会長は各部会が推薦する部会長候補者（原則として幹事経験者の教授）を選考する仕組みになっている。ただし、学際教育部会のみは教養教育院長が指名する教授をもって充てると

明記されている（第4条の5）。これは教育部会が発足した当時、全学共通教育部長（現在の教養教育院長の前身）が学際教育部会の前身である総合教養教育部会長を兼務していた歴史的経緯によると思われる。

表1 学際教育部会の部会長と幹事（平成27年度以降）

	平成27年度 2015年度	平成28年度 2016年度	平成29年度 2017年度	平成30年度 2018年度
部会長	山内乾史教授	山内乾史教授	山内乾史教授	山内乾史教授
幹事	米谷淳 教授 近田政博教授	米谷淳 教授 近田政博教授	米谷淳 教授 近田政博教授	米谷淳 教授 近田政博教授 河島真 准教授 鶴田宏樹准教授

	令和元年度 2019年度	令和2年度 2020年度	令和3年度 2021年度	令和4年度 2022年度
部会長	山内乾史教授	山内乾史教授	山内乾史教授	近田政博教授
幹事	米谷淳 教授 近田政博教授 鶴田宏樹准教授 黒田千晴准教授	米谷淳 教授 近田政博教授 鶴田宏樹准教授 黒田千晴准教授	近田政博教授 鶴田宏樹准教授 黒田千晴准教授	鶴田宏樹准教授 黒田千晴准教授 葛城浩一准教授

1.5 開講科目

学際教育部会が開講する科目は、総合教養科目、高度教養科目、総合科目の3カテゴリーに分けられる（参考資料2）。令和4年度（2022年度）の開講数は次の通りである。同一科目を複数開講する場合は、のべクラス数をカッコ書きで記載した。

総合教養科目：34科目（37クラス）

うちグローバルチャレンジ実習：10科目（10クラス）

高度教養科目：6科目（7クラス）

総合科目Ⅰ：7科目（7クラス）（総合教養科目として開講分を除く）

総合科目Ⅱ：3科目（3クラス）（同上）

合計 50科目（54クラス）

「グローバルチャレンジ実習」は、神戸グローバルチャレンジプログラム（神戸GCP）の開講コースの要件を満たした履修者を単位認定するものである。新型コロナの感染拡大により令和4年度（2022年度）は11科目が不開講となった。また、学際教育部会の特徴は、学際的な授業目標に関係なく、さまざまな分野に関する総合科目も属していることである。

令和2年度と3年度は新型コロナの影響により遠隔授業が大半を占めたが、4年度からは対面授業が復活した。ただし、一部の科目については教育効果の観点から完全オンライン型（オンデマンド型もしくはリアルタイム型）、ブレンド型、ハイフレックス型で実施している。

学際教育部会の開講形態は多様であり、およそ次の5タイプに大別できる。単独の教員が担当するタイプ①は少なく、コーディネイター教員を配した上で複数の教員で授業を行うタイプ②が多い。タイプ③④のような授業もみられる。

タイプ①：単独の教員が担当

「社会と人権」など

タイプ②：複数の専任教員が担当（コーディネイター教員あり）

「神戸大学の研究最前線」、「大学教育論」など

タイプ③：複数の非常勤講師が担当（コーディネイター教員あり）

「日本酒学入門」など

タイプ④：専任教員と非常勤講師が共同担当（コーディネイター教員あり）

「神戸大学史」、「男女共同参画とジェンダー」など

1.6 前回の自己点検・評価で指摘された課題と改善状況

平成26年度までの運営体制については、神戸大学 大学教育推進機構編（2015）『総合教養教育部会 外部評価報告書』に記載されている。同部会の自己点検・評価では、組織構成と運営体制の現状と課題について次のように指摘している（37頁）。

- ①様々な部局の支援・協力で支えられた質の高い授業は今後も続けていけるか。他の教養教育と比べて別次元のコスト・施設・設備等を必要とするエデュケーションは持続可能なか。
- ②大学教育支援研究推進室教員が他の役職（室長や全学教務委員長）と兼務しながら部会長として多岐にわたる煩雑で日常的な実務をひとりでこなすのは無理ではないか。
- ③良質で本学らしいグッドプラクティスをさらに学内外にアピールし、外部資金獲得等につなげて財政的基盤を確立するにはどうするか。

出典：神戸大学 大学教育推進機構編（2015）『総合教養教育部会 外部評価報告書』

こうした課題については、次のように対応している。

①については、各学部から多くの教員が担当する「神戸大学の研究最前線」、学外の専門家による「日本酒学入門」、乗船実習を含む「海への誘い」「瀬戸内海学入門」、一泊二日の合宿と国際学生交流シンポジウムの企画立案を行う「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」など、工夫を凝らした（すなわち、コーディネイター教員が大きな労力を要する）科目を多く開講している。

ただし、運営コストと学習効果のバランスを十分に考慮しなければならない。たとえば、「神戸大学の研究最前線」はもともと新生に神戸大学と各学部について理解を深めてもらうための初年次教育（「神戸大学の成り立ち」）として位置づけられていた。しかし、現在は各学部内で割り当てられた教員が自分の研究内容について紹介する形態になっている。授業実施に大きな労力を要する一方で、全体としてアドホックで体系的に欠ける内容となってしまった。こうした状況をふまえ、同科目は今年度を限りに廃止する予定である。

②については、上記報告書では学際教育部会長が「神戸大学の研究最前線」のオーガナイザー役を兼務することの負荷の大きさが指摘されていた。そこで令和4年度は部会長の交代に伴い、部会長としての運営業務と「神戸大学の研究最前線」のオーガナイザー役を切り離すこととし、後者を幹事の葛城浩一准教授に担当いただいた。同科目の廃止に伴い、オーガナイザー業務も今年度で終了する。

学際教育部会長の職務の特殊性は、科目担当者がさまざまな部局に属し、各科目がオムニバス形式になっているケースが多いので、担当教員の全貌を把握しにくいという点にある。部会長と幹事の間でどのように合理的に業務を分担できるのかを今後検討する必要がある。

③については、現行の教養科目（基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目）を再編し、2025年度から新カリキュラム導入を目指している。現在の三科目ごとに設けられている履修要件を撤廃し、教養科目全体での必修単位を定め、柔軟な履修と運用を可能にすることをねらいとしている。高度教養科目についてはいくつかの科目群に再編することを検討中である。「その他必要と認める科目」（総合科目）は廃止を視野に入れて検討している。

2. 学際教育部会の内部質保証

2.1 前回の外部評価委員会で指摘された課題と改善状況

2015年2月に実施された総合教養教育部会の外部評価委員会では、内部質保証について次の課題を指摘している（71-72頁）。

- ①授業評価アンケート（現在の授業振り返りアンケート）の回答率が著しく低い。有効なPDCAサイクルを回すためには、一定の回答率を確保することが不可欠である。
- ②教育部会の運営と大学教育研究支援の部署は別々にすべきではないか。部会長（当時は米谷淳教授）の本務は大学教育支援研究推進室（現在の大学教育研究センター）である。大学教育研究支援の専門的部署が日常的な教育部会の運営に忙殺されるのは好ましくないのではないか。

①については、上記の外部評価委員会実施時には全学共通授業科目の回答率は10%程度であった。そこで、平成30年度（2018年度）に全学評価・FD委員会が原則として各授業の時間内に授業振り返りアンケートを実施する方針として位置づけたことで回答率は大きく改善した。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年度と令和3年度の2年間は遠隔授業が大半となり、回答率は再び落ち込んだ。令和4年度に対面型授業が復活したことで再び回復傾向にある。国際教養教育院の令和3年度後期の授業振り返りアンケート回答率は37.0%、令和4年度前期の授業振り返りアンケート回答率は47.6%であった。

教養教育院における授業振り返りアンケートの実施については、教養教育院に設置された評価・FD専門委員会が所管し、担当教員に対して周知・徹底を図っている。

②については、令和4年度（2022年度）に大学教育研究推進室が大学教育研究センターに改組されるに伴い、実質的に同推進室の主要業務の一つとなっていた学際教育部会の運営業務を、大学教育推進機構内のセンター群に所属する部会長と幹事によって進める方式に改めた。

2.2 評価項目と改善状況

教養教育院では各教育部会の内部質保証について、次のような評価項目モデルを設定している。

- ①自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか
- ②学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか
- ③授業の内容及び方法の改善を図るためのFDを組織的に実施しているか
- ④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるとともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか

出典：「自己点検・評価及び外部評価の評価項目モデル」平成30年6月14日 評価・FD専門委員会決定

①については上記に述べたように前回の自己点検・評価および外部評価委員会で指摘を受けた点について改善を図ってきた。

②については、入学時アンケート、授業振り返りアンケート、卒業時アンケートの自由記述意見、大学教育推進機構が主催する学生との教育懇談会での意見聞き取りによって学生の意見を継続的に収集している。

③については、教養教育院として独自のFDは行っていないが、大学教育推進機構が主催するFDを毎年実施している。また各部会が7年おきにピアレビューを実施している。代表的な科目の授業実施風景を見学し、後日、授業担当教員と見学した教員が集まってピアレビュー検討会を実施している（学際教育部会は令和3年度に実施）。

④については、学際教育部会はアクティブ・ラーニング型の科目を多く含むので、TAやSAを積極的に雇用するように担当教員に促している。ただし、TA・SA予算には制約があり、実際に予算が配分されている科目は非常に限られる。

令和4年度（2022年度）のTA・SA雇用状況をみると、乗船実習を伴う「海への誘い」（48時間）と「瀬戸内海学入門」（64時間）では複数のTA・SAを雇用している。これに加えて、「職業と学び」（16時間）、「神戸大学史A」（15時間）、「神戸大学史B」（15時間）、「神戸大学の研究最前線B」（15時間）、「神戸大学の研究最前線A」（8時間+7時間）の計8クラスにTA・SAを配置している。その他の授業科目ではTA・SAの雇用はなかった。すなわち、学際教育部会が開講する授業のおよそ8割以上にはTA・SAはついていない。

3. 学際教育部会の教育課程と学習成果

3.1 前回の外部評価委員会で指摘された課題と改善状況

2015年2月に実施された総合教養教育部会の外部評価委員会では、教育課程と学習成果について次の課題を指摘している（71-72頁）。

- ①ESDと総称される環境教育について、一定の科目群を設けてはどうか。
- ②オムニバス形式の授業の質保証ができているか。担当教員間で十分な連携がとれているか、全体の体系性を確保できているか。
- ③シラバスの不備が目立つ。ガイドラインを定めるなり、FDを行うなど、学生に対してより良いシラバスを提供するための工夫が必要である。

①については、国際教養教育院（現教養教育院）では、平成27年度（2015年度）にESDに関する科目群をまとめ、ESD部会として分離・独立している。

②については、十分とは言えない。オムニバス形式の授業の質保証は、もっぱらシラバス（参考資料3）、授業振り返りアンケート結果（参考資料4）、成績分布（参考資料5）の3点を部会長・幹事が確認する仕組みになっているが、実質的には部会長が一人で点検することが多い。現状においては、他の科目と比較して質保証が難しいオムニバス形式の授業を十分に点検できているとは言いがたい。

③については、翌年度のシラバス作成依頼時に、全学教務委員会を通じて詳細なガイドラインを各授業担当教員に周知している。特に授業目標、成績評価基準、成績評価方法の関係について詳しく周知を図ってきた。この試みにより、シラバスの内容は年々改善されているが、十分とはいえないケースも散見される。

3.2 評価項目と改善状況

教養教育院では各教育部会の教育課程と学習成果について、次のような評価項目モデルを設定している。

- ①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか
- ②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか
- ③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか
- ④単位の実質化への配慮がなされているか
- ⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか
- ⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか
- ⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか
- ⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか
- ⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか
- ⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか

出典：「自己点検・評価及び外部評価の評価項目モデル」平成30年6月14日 評価・FD専門委員会決定

①～③については、部会長がシラバスに目を通し、適切でない個所については担当者に修正を依頼している。ただし、根本的な問題は学際教育部会としてのミッションや目標がはっきりしていないことである。

④については、授業時間外の学習活動を促すように担当教員に周知している。シラバスの「成績評価の方法」欄において、授業への積極的な参加、授業中の課題の他、授業時間外に作成するレポートや試験等を総合的に評価するように授業担当教員に促している。

⑤については、それぞれの授業の目的と性格に相応しい形式で授業を実施するように周知している。オムニバス形式で毎回異なる担当者が講義する大人数授業（「神戸大

学の研究最前線」、「国際協力の現状と課題」など)がある一方、小集団に分かれてグループワークやフィールドワークをする少人数授業(「海への誘い」、「瀬戸内海学入門」など)がある。「瀬戸内海学入門」では班ごとに履修者を分けて実験・測定させている。「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」では授業時間外のグループワークを支援している。

⑥については、部会長がすべてのシラバスを点検し、所定の欄に必要なして十分な内容が書き込まれていることを毎年確認している。

⑦⑧については、オフィスアワーをシラバスに明示して学生からの相談にのっている科目(「神戸大学史」、「瀬戸内海学入門」、「環境学入門」、「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」)もあれば、担当者、コーディネイター、TAがメール等で学生からの質問や相談に適宜対応している科目もある。「神戸大学史」ではうりぼーネットの掲示板を利用して学生とのコミュニケーションを図っている。

ただし、現在の学際教育部会の開講科目では、履修人数(参考資料5)に大きな偏りがみられる。令和3年度後期と令和4年度前期の開講科目を見ると、履修者が10人に満たない授業が12科目あった(うちグローバルチャレンジ実習科目は5科目)。他方では、履修者が200名近い科目も多く存在する。学生の履修希望をできるだけ尊重し、時間割上の制約を考えるとやむを得ない面はあるが、現状では教員の授業負担に大きな偏りがあると言わざるを得ない。

⑨については、成績評価方法、成績評価基準をシラバスに明示するとともに、すべての科目の成績分布を点検している。一部科目で秀や優の評価が非常に多い事例が散見された(参考資料5)。担当教員に事情を確認したところ、いずれも成績評定の趣旨を十分に理解していないことがわかったので、周知を図ったところである。

成績申し立て制度に対応するため成績評価についての資料を5年間保存するとともに、申し立てがあった場合には採点の基準や理由を含め、成績評定の根拠を調査し、適切に回答している。

⑩については、成績分布と授業振り返りアンケートの結果から、総じて学習成果が得られていると考える。

4. 今後の課題

以上の自己点検・評価をふまえて、今後の課題をいくつか指摘したい（部会長案）。

・部会としての目標をどう設定するか

学際教育部会は何を目指すのかという共通の目標がないため、現状はグローバルチャレンジ実習や総合科目を含めて、「その他すべて」の科目が配属される部会になっている。このため部会としてのまとまりに欠け、開講科目全体を俯瞰することが難しい状況にある。将来的には、目標に即していくつかの部会に再編することも視野に入れてはどうだろうか。

・履修人数の下限を設定できないか

科目によって履修人数の偏りが非常に大きく、採点や成績評定の負担が大きく異なる状況となっている。教学運営上のコストを考えると、履修人数の下限を設けることを検討してはどうだろうか。

・成績評定の趣旨を共有する必要がある

成績評定の趣旨が十分に伝わっていないため、一部科目において秀や優が非常に多いケースが散見された。成績評定の趣旨を担当教員全体に周知する必要がある。

・総合科目のあり方を再考する

総合科目として3年以上継続している授業科目がいくつかあり、中途半端な開講状態が続いている。何のために総合科目を設けているのかを再考する必要がある。

以上

第 2 部 外部評価報告書

1. 外部評価委員会次第

日時：令和5年（2023年）1月24日（火）午後3時00分～5時00分

会場：神戸大学鶴甲第一キャンパス C棟409演習室

出席者

外部評価委員

大野 隆 名誉教授（放送大学 兵庫学習センター前所長）

山内乾史 名誉教授（佛教大学教授）

自己点検・評価委員

近田政博 学際教育部会長（大学教育推進機構 教授）

鶴田宏樹 同 幹事（神戸大学Vスクール准教授）

黒田千晴 同 幹事（大学教育推進機構 准教授）

葛城浩一 同 幹事（大学教育推進機構 准教授）

陪席者

菊池 誠 教養教育院長（大学教育推進機構 副機構長）

鈴木広隆 教養教育院 評価・FD専門委員会 委員長（工学研究科 教授）

当日のスケジュール

3時00分 開会あいさつ、参加者自己紹介

3時10分 自己点検評価の報告と直面する課題について

3時40分 質疑応答

4時00分 休憩

4時10分 外部評価委員による講評

4時30分 全学共通授業科目の改革方針と今後の課題に関する意見交換

5時00分 閉会のあいさつ、終了

2. 外部評価委員会抄録

○自己点検・評価報告および直面する課題に関する報告

近田部会長より、「自己点検・評価報告書」に則って報告がなされた。

・学際教育部会が複数の学問分野にまたがる学際的な授業科目が多数開講されていることから、部会の教育目標が具体的に明示されていないことが指摘された。

・学際教育部会は、125名の教員が所属しており、その背景として多くの授業がオムニバス形式で開講されていることがあると説明がなされた。そのため、授業を1～2回のみ担当する教員も構成員に含まれており、教養教育院の教育部会の中でも最も大所帯の部会となっていると説明がなされた。

・部会の運営体制について、歴史的経緯により山内神戸大学名誉教授（元大学教育推進機構教授）が長年部会長を務めておられたが、現在の運営体制は、大学教育推進機構の選任教員が部会長、幹事を務め、機構全体で部会を支えていく仕組みとなっていると説明がなされた。

・開講科目について、現在、教養教育院では、総合教養科目、高度教養科目、総合科目の3つのカテゴリで開講されており、配布資料に則って学際教育部会で開講されている各カテゴリの授業開講数について説明がなされ、合計50科目（54クラス）が開講されていると説明があった。この内、グローバルチャレンジプログラムは、コロナ禍により不開講となったと説明がなされた。さらに、コロナ禍における授業の実施形態が遠隔授業（オンラインライブ型・オンデマンド型）、ブレンド型、ハイフレックス型で実施されていたが、令和4年度より対面授業が再開された旨、説明がなされた。また、学際教育部会の開講形態については、5つの開講形態がみられ開講形態が多様であり、単独の専任教員が開講するケースが最も少ないと指摘がなされた。

・前回の自己点検・評価で指摘された課題と改善状況について説明がなされた。学際教育部会で開講されている特色のある授業が多く開講されているが、運営コストと学習効果のバランスを考慮したうえで、「神戸大学の研究最前線」は今年度限りとする説明がなされた。また、総合科目については、開講後2年以内に総合教養科目あるいは高度教養科目に移行することが原則となっているが、総合科目のままで開講されている授業科目が複数あることの指摘がなされた。この点については、現在、教養教育院で全学共通授業科目の開講区分の見直し、再編が予定されているため、新たな改革の方向性に則

って整理がなされる予定である旨、説明された。

・最後に、学際教育部会の今後の課題として以下の4点が挙げられた。1点目として、部会としての共通の目標が明確に定められていないこと、2点目として、履修人数の偏りが大きいこと、また履修人数の下限を設けることの必要性、3点目として、成績評定の趣旨が担当教員に十分周知されておらず、一部科目において秀や優の比率が高くなっていること、4点目として、総合科目として3年以上継続している授業科目があることである。

○質疑応答

・大野委員から、非常勤講師のみで開講している授業科目があるかとの問いかけがなされた。部会長から、非常勤講師が単独で開講している授業科目は、「社会と人権」の2科目のみであるが、何回かの授業を非常勤講師が担当しているケースや、1回のみ非常勤講師が担当しているケースなどは非常に多くみられるとの回答があった。菊池教養教育院長より、学際教養部会で雇用している非常勤講師担当時間数は、123時間となっている旨、補足説明がなされた。

・山内委員から、部会の運営体制で記載されている学際教育部会長の業務について、「社会と人権」の担当者選定が漏れているため、記載するよう指摘がなされた。

・大野委員より、総合科目は、新規の授業を立ち上げる際の枠組みであり、総合科目として開講後、2年後には、総合教養科目に移行するか、廃止するか決めることとなっているが、当初の趣旨が守られていないのはなぜかとの問いがなされた。この経緯について、山内委員より、総合科目の授業担当者より、諸般の事情により総合科目のままで据え置いておきたいという希望があり、それが認められてきた経緯があるとの説明がなされた。菊池教養教育院長より、新制度に移行後は、総合科目は廃止される予定である旨、補足説明がなされた。

・大野委員より、学際教育部会の前身の総合教養部会が設置された当時、大学構成員の多くが全学共通教育に参画するようとの趣旨があったため、当該部会に多様な授業科目が設置され、さらにオムニバス授業が多くなるということにつながっていると説明がなされた。このような、部会設置当時の事情により、他の部会とは性質が異なるため、部会として目標を立てにくいということに繋がっているのではないかとの指摘がなされた。

・山内委員より、平成3年当時、神戸大学の全教員の内、約25%しか全学共通教育に関

わっていなかったが、神戸大学の全学の教員が全学共通教育に関わることを目指す、「全学出動体制」が敷かれ、その結果、学際教育部会に多くの授業科目が設置され、全学共通教育に参画する教員の比率が大幅に上昇したとの説明がなされた。「全学出動体制」に則り、全学の教員に全学共通教育での授業科目開講を呼び掛けた結果、学際教育部会が受け皿となり、当該部会で多様な授業科目が開講されることとなった。

- ・大野委員より、学際教育部会の運営体制に拘泥するのではなく、各授業を適切に運営することに焦点を当て、部会長・幹事と各授業のコーディネイターが適切な連携を取ることが重要であるとの指摘がなされた。

- ・大野委員より、神戸スタンダードと学際教育部会の開講科目との関係について質問がなされた。これに対して、近田部会長より、神戸スタンダードと各学部・学科が掲げているディプロマ・ポリシー（以下、DP）との関連が曖昧な点があり、各学部学科のDPの測定が十分になされていない現状があるとの説明がなされた。また、葛城幹事より、神戸大学ではあまりDPが認識されておらず、神戸スタンダードのほうにむしる意識されているという説明がなされ、全学DP、学部DP、神戸スタンダードという3層構造になっているとの指摘がなされた。菊池教養教育院長より、全学のDPに記載されているのは、教育憲章に掲げられている人間性、創造性、国際性、専門性である。—神戸スタンダードは、教養科目と関連付けられており、神戸スタンダードの3本柱が、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目の3つの科目群に反映されているとの説明があった。

- ・大野委員より、現在検討されている全学共通授業科目の改革案では、神戸スタンダードの3つの柱と基礎・総合教養・高度教養の科目群との関連付けが取り払われる予定であることだが、なぜそのような案となっているのかとの問いかけがなされた。これに対して、菊池教養教育院長より、基礎教養科目と総合教養科目、高度教養科目のそれぞれのカテゴリーで卒業に必要な単位数が指定されているが、カテゴリーごとに単位を揃えることが困難なケースがみられ（例：履修登録時の抽選に外れてしまい留年の恐れがあるなど）、神戸スタンダードの理念を実現するために、カテゴリーを守ろうとするものの弊害について説明がなされた。

○外部評価委員による講評

- ・山内委員からは、学際教育部会の運営体制についてどのように考えているのかとの問いかけがなされた。部会長からは、令和6年度からの教養教育の再編の議論が現在進んでおり、（学際に限らず）教育部会をどうするか議論までなされていない旨の回答がなされた。なお、菊池委員から、学際教育部会再編の展望についての私案が紹介

された。

- ・大野委員からは、学生の立場に立っていないシラバスが見受けられるとの指摘がなされた。また、成績評価について、(合否科目でない大多数の科目について)そもそも段階評価することが適当なのかどうかの検討をする必要があるとの指摘がなされた。なお、授業振り返りアンケート結果に重複している部分があるとの指摘もなされた。部会長からは、すぐに修正する旨の回答がなされた。

○全学共通授業科目に関する意見交換

- ・各委員より、過去の学内事情に詳しい外部評価委員の先生方に質問がなされる形で進められた。詳細は以下の通りである。
- ・鈴木専門委員会委員長から、教養部解体の後の全学出動体制が順守されなくなったのはなぜかとの質問がなされた。大野委員からは、当初は教養部からの分属がなかった学部では教養教育をやらなくてよいという気風があり、その気風は公募書類に共通教育を担当する旨記載するなどしたことによって変わってきたが、全教員がいずれかの教育部会に入らないといけないときっちり決めてしまわないと全学出動体制は実現できないとの見解が示された。
- ・菊池教養教育院長から、70歳以上は非常勤講師に雇わないというのが教養教育院の申し合わせとして引き継がれているのだが、どういう経緯でこうなったのかとの質問がなされた。大野委員からは、年齢的にみて科目を担当するのが適切でないケースがあったためにこのような申し合わせを設けたが、70歳以上でも科目を担当することが可能な場合には、ぜひやっていただいたらよいとの見解が示された。
- ・菊池院長から、非常勤講師とゲストスピーカーの違いについて議論されたことがあるのかとの質問がなされた。大野委員からは、特に議論はなされていないが、(厳密な)成績評価に責任を持てるのか否かを判断基準としてはいかがかとの見解が示された。
- ・菊池院長から、部会というのは共通教育を担当する教員の集団なのか、その分野に係る教員の集団なのかとの質問がなされた。大野委員からは、前者を原則としたが、部会によってはそのように運用されてこなかったとの回答がなされた。これを受けて、部会長からは、その曖昧な運用が顕著に生じているのが学際教育部会であるとの認識が示された。

作成者：黒田千晴、葛城浩一

3. 外部評価委員報告書

令和5年2月6日

国立大学法人神戸大学
大学教育推進機構 教養教育院
学際教育部会 御中

神戸大学元副学長・名誉教授
大野 隆

外部評価委員として国立大学法人神戸大学 大学教育推進機構 教養教育院 学際教育部会が実施した自己点検・評価書を審査し、当該組織の活動に関して次のとおり報告いたします。

意見

○特に優れている点

- ・幅広い教養を身に着けることを目指し、従前の学問領域・分野にこだわらず主として複数の学問領域・分野にまたがる学際的な授業科目を多く開講している。
- ・「国際協力の現状と課題」、「EU 基礎論」、「グローバルチャレンジ実習」のようなグローバルな視点を養う科目や「神戸大学史」、「ひょうご神戸学」、「地域社会形成基礎論」のようなローカルな視点を養う科目が開講されている。
- ・「社会と人権」、「男女共同参画とジェンダー」など人権やダイバーシティに関する重要な科目が開講されている。
- ・「企業社会論」や「職業と学び-キャリアデザインを考える」のようにキャリア形成の基礎となる科目が開講されている。
- ・「海への誘い」、「瀬戸内海学入門」など海に開けた神戸大学に相応しいユニークな科目が開講されている。
- ・「職業と学び-キャリアデザインを考える」や「日本酒学入門」などのようにアカデミアに限定しない企業人を多く招いて社会人としての視野を拓ける科目が開講されている。
- ・神戸大学のほぼすべての部局・センター等の教員が講義を担当することで共通（教養）教育の全学支援体制に最も寄与している。
- ・授業の到達目標に合わせて通常の講義の他演習、実習など適切な授業形態を採用している。

○特に改善を要する点

- ・総合科目は試行期間の経過後は、ルールに基づき総合教養科目（または教養原論）へ移行するか、廃止するか、適切に措置する必要がある。（再度後述）
- ・グローバルチャレンジ実習科目については、独自の教育部会または教育部会内に担当部門を形成するなどの扱いとしてはどうか。（再度後述）
- ・オムニバス授業については、担当教員同士の連絡調整、シラバス作成や成績評価集計などのためコーディネイター教員の負担が非常に大きいと考えられるため、連絡調整会議（遠隔でもよい）の設置やコーディネイターにインセンティブを与えるなどの措置が必要と思われる。
- ・多くのシラバスが学生・履修者の視点を考慮して作成されていないように思われる。例えば、オムニバスの場合の各授業の担当教員や所属（特にに非常勤教員）が明記されていないなかったり、各授業時間の内容記述が不十分であったり、テーマの解説が抽象的すぎたり、逆に冗長で分かり難かったりして履修意欲を持たせる良いシラバスとは言えないものがある。
- ・科目による履修者数の不均衡および成績評価分布の改善が必要と思われる。

○全体的講評

☆学際教育部会の運営について

- ・他の教育部会と異なり、学問領域の異なる教員の集合体であるため機構として統括する必要があり、そのため部会長を機構の専任教授から選出していた経緯がある。長年にわたって旧大学教育研究推進室所属の専任教授には多大な負荷がかかっていたはずであるが、よくその困難に耐えて円滑に部会を運営してこられたことには敬意を表します。
- ・今後の部会運営については、機構内に多くのセンターが配置されたことを活用し、幹事をさらに増やすなど協力体制を強化していくことが必要であろう。

☆今後の課題として部会長が指摘されている課題について

- ・「部会としての目標をどう設定するか」については、「複数の学問領域・分野にまたがる学際的な授業科目を履修し、幅広い教養を身に着けることを目指す」で良いと思われるが、いくつかの科目、例えばグローバルチャレンジ実習などは独自の学修目標を持つと思われることから別のカテゴリーとして再編することも検討してはどうか。
- ・「履修人数の下限を設定できないか」については、その通りであると思う。しかし、その前に数年に渡って履修者の少ない科目は、その存続の必要性も検討するべきではないだろうか。
- ・「成績評定の趣旨を共有する必要がある」については、当然のことである。なお、実習を伴う科目など一部の科目については、そもそも厳密な4段階評価が相応しいとは考えられず合否科目とすることも検討すべきであろう。

・「総合科目のあり方を再考する」については、当該科目群は時勢や社会的なニーズ、また学内教員からの提案に応じて試行する授業科目であり、一定の期間実施後は総合教養科目などへ移行するか、または廃止するかを速やかに検討すべきであろう。

☆組織としての大学教育推進機構について

・大学教育に関わる大多数の部門を傘下に組み込み統括する組織として拡大・充実してきたことは評価できるが、あくまでも中核は学生全体（学部生・院生）の教養教育を担う「教養教育院」である。現状のように統合・拡大されたことによって教養教育院の重要性と位置づけが相対的に低められている懸念がある。特に従前の全学共通教育部長、国際教養教育院長が部局長会議の重要なメンバーであったが、現行の教養教育院長が部局長とされていない点は、神戸大学は大学教育における教養教育を軽視していると思わざるを得ない。そのような意向ではないにしても、肥大化した教育推進機構は外部から見ると教養教育院の位置づけが”One of them”に見えることには留意する必要があるだろう。いずれにしろ、現状の大学教育推進機構を教育担当理事・機構長 1 名と副機構長 2 名で統括することはかなり困難と思われ、理事を補佐する人員を増やし、組織の運営体制を強化する必要があると思われる。

令和5年2月8日

国立大学法人神戸大学
大学教育推進機構 教養教育院
学際教育部会 御中

神戸大学名誉教授
山内 乾史

外部評価委員として国立大学法人神戸大学 大学教育推進機構 教養教育院 学際教育部会が実施した自己点検・評価書を審査し、当該組織の活動に関して次のとおり報告いたします。

意見

○特に優れている点

・幅広い教養を身に着けることを目指し、複数の学問分野にまたがる（他の教育部会には収まりきらない）多種多様な科目を多く含む点、また座学ではなくアクティブ・ラーニングを含むユニークな授業内容・方法の科目を多く含む点である。すなわち学際教育部会の提供する科目群が、教養教育院の提供する教育の個性を形作るうえで大きく貢献しているということである。ことに「海への誘い」、「瀬戸内海学入門」など、神戸大学以外の国立大学では（東京海洋大学を除いて）開講することができないような、神戸大学ならではのユニークな科目が開講されている。

・座学が中心である場合でも、当該科目の授業内容がユニークである。例えば「神戸大学の研究最前線」、「神戸大学史」のような、神戸大学についての「自校教育」の科目において、複数の学問分野の教員が神戸大学の歴史、および研究の現状について講義を行っている。これらの科目では神戸大学に関する理解を深め、自部局だけではなく他部局も含めて神戸大学全体への愛着を強める役割を果たしている。

・1992年10月に（旧）大学教育研究センターが発足したときには、神戸大学全教員の約25%しか全学共通授業科目を担当していなかったが、現在では諸々のセンター等を中心とするほとんどすべての部局が何らかの科目を提供するようになり、私の退職時（2022年3月）で全教員の約50%が担当するようになっていた。このような科目の少なからぬ部分はオムニバス科目なので、教員は8回のうち1回だけ担当するなど柔軟な担当方法になっている。これらのオムニバス科目等の受け皿となるのが主として学際教育部会であり、神戸大学の全学共通授業科目の理念、すなわち「全学出動態勢」を貫徹するうえで大きく貢献している。

○特に改善を要する点

・学際教育部会は、もともと他の特定の教育部会に収まりきらない少数の科目、例えば

「社会と人権」などを中心に構成されていた。しかし、学際的な科目が次々と設置される中、科目数が急激に増加し、部会長と幹事が、個々の授業の状況・事情を十分に把握するのがきわめて難しくなっている。その結果、部会の事情をよく把握している特定教員が長く部会の部会長、幹事を務めるようになってしまっている。

- ・上記の点と関係するが、本来、教育部会は部会構成員の総会を年数度開催する必要があるにもかかわらず、現状では部会長が各科目のオーガナイザー、コーディネイターと年数度連絡を取るだけになっている。

- ・総合科目については、従来すべての総合科目が学際教育部会に所属することになっていた。そのため、総合教養科目と総合科目の二つの看板を持つ科目において、事実上同一科目であるにもかかわらず、前者はある（学際教育部会以外の）教育部会に所属し、後者は学際教育部会に所属するという、わかりづらい状況が発生していた。

- ・授業シラバスが授業の目的・方法・内容等を示しているかどうかについて、適切なものと不適切なものとの格差が激しい。不適切なものについては（全学教務委員長であった私の責任も大きい）、シラバスを何のために書いているのかという目的意識の問題ではないかと考える。つまり、シラバスを認証評価に耐えるかどうかという観点からのみとらえがちである点が問題ではないだろうか。本来、認証評価等に耐えるためではなく、学生の科目選択、学習指導のために書くという観点から、フォーマットや書き方を検討する必要があると考える。

- ・また、科目による履修者数の不均衡が著しい。また成績評価分布の不均衡も著しい。これらの実態にはそれなりの事情があると推察されるが、部会として改善が必要である。

○全体的講評

☆学際教育部会の運営について

- ・他の教育部会と異なり、ほぼすべての部局にまたがる教員が所属するため、当初は全学共通教育部長（現在の教養教育院長）が教育部会長を兼任していた。その後、大野隆部長の時代に、大学教育支援研究推進室（現在の（新）大学教育研究センター）の教員が教育部会長になるように変更された。ただこの部署の専任教員は3名しかいないため、今後は少なくとも大学教育推進機構全体で担当していくように方式を見直し、体制を強化する必要がある。これまでは様々な事情から部会長がすべてを取り仕切り、幹事でさえ学際教育部会の全貌を十分に把握しているわけではなかった。つまり、まだまだ部会長にかかる負荷が大きすぎると考える。

☆今後の課題として部会長が指摘されている課題について

- ・「部会としての目標をどう設定するか」については、「複数の学問領域・分野にまたがる学際的な授業科目を履修し、幅広い教養を身に着けることを目指す」で問題はないのだが、学際教育部会に所属する科目をもう少しブレイクダウンして、より具体的な、独

自性を表現した目標を立てることが重要であると考え。

・「履修人数の下限を設定できないか」については、私が部会長の時に提案させていただいた課題である。多くの私立大学では「5名未満の場合には不開講」など具体的な数値を設定している。こういったことを定めることは、教室他、種々のリソースの有効活用につながる。

また、それと合わせて、各科目の存在意義を十分に再考する必要もある。例えば、年度によって、受講者数が極端に増減する科目がある。この場合、ある年度の受講生が少ないからと言って、当該科目を即廃止にするのは適切ではないだろうが、もしも受講生数が少ない状況がしばらく続くようであれば、科目名や内容、シラバスの見直しなどの措置をとることが必要であると考え。場合によっては科目の廃止などもあり得よう。このような議論はこれまでなされてこなかったと認識している。

・「成績評定の趣旨を共有する必要がある」については、当然のことである。ただ、学際教育部会の科目はアクティブ・ラーニング系の科目を多く含む関係上、除外科目に設定されているものもあり、成績評定をめぐる議論の際の状況から見て、「趣旨を共有する」必要があるのはもちろんだけれども、「趣旨を共有する」こと以上のことは難しいのではないかと考える。

・「総合科目のあり方を再考する」については、このカテゴリーが存在する積極的な意義が過去の例を検証して確認されるのかどうかを検証する必要があると考えられる。総合教養科目と総合科目とが異なることでさえ、教養教育院の全教員が十分に理解しているわけではないことも問題である。総合科目が創設された頃から教員はかなり入れ替わっているわけであるから、趣旨の周知徹底を図るとともに、趣旨が活かされてきたのかどうかを再考していただきたいと考える。

○その他

・私案だが、学際教育部会をいくつかのサブ部会に分割するのも有効な手立てであろう。例えば「文系を中心とする科目」、「理系を中心とする科目」、「国際共修科目」などに区分し、それぞれの科目群を三名の幹事が統括するという方法である。これはすでに外国語第Ⅱ教育部会がとっている手立てであり、部会長にかかる荷重を減らすことが可能になる。現在の大学執行部は役職手当の見直しを企図しているため新たな部会を増やすことは、部会長手当の総額が増えることにつながるために、困難であると考えられる。もしそうだとすれば、部会内を分割し、幹事に「副部会長」的な役割を果たしていただくというのは有効な手立てであろう。またサブ部会を設ければ「何を目指すのか」という共通の目標も設定しやすくなると考える。

・教養教育院全体として総合教養科目がどんどん増えていく状況にあり、すでに藤田誠一理事の時代に、「総合教養科目の精選」が謳われた。しかし、「精選」が行われないうころか、科目数の増加が続いているのが現状である。「精選」については先述の「履修

人数の下限を設定」することと「総合科目のあり方を再考する」ことによって対応可能であろう。

・これと関連して、学際教育部会の10の高度教養科目は、「大学教育論」を除いて、いずれもほぼ常時少人数であり、インタラクティブな授業が行われ、教育効果は高いかもしれない。しかし、高度教養科目をめぐる、全学的な問題の解消にはほとんど貢献していない。自己点検・評価報告書を見てもシラバスは載せられているが、2.「授業振り返りアンケート結果」、5.「履修者数及び成績分布」には科目名は出てこない。存在感の薄い科目になっているのである。もしも、記載漏れであるということであれば、学際教育部会における高度教養科目を大幅に見直すことが必要ではないだろうか。

○2022年度から実施される高校の学習指導要領との関連において

2022年度から高校で実施される「総合的な探求の時間」（探求学習と略記）の目的として、学習指導要領では「高度化」と「自律性」を掲げている。私は現在、岡山大学において外部評価委員を仰せつかっているが、この高校での探求学習に対応して、岡山大学では共通教育に「探求班」（「班」は神戸大学の教育部会に相当する）を設けて、高校以下の学習との教育内容面での高大接続を図り、探求学習で修得した能力のさらなる伸長を図ろうとしている。ちなみに班長（神戸大学の教育部会長に相当する）は副学長補佐である。

神戸大学の学際教育部会においては、すでに「探求学習」に対応可能な科目が多く含まれている。自己点検・評価報告書を読む限り、学際教育部会全体として科目の廃止等、縮小の方向を志向しているように見えるが、何を核として再編するのかを明瞭にする必要もあろう。

また学際教育部会という名称は、無難ではあるが、その「核」となる理念に基づく名称に変更するのが適切であると考ええる。

以上

参考資料 目次

1. 部会構成
 - 1.1 教育部会構成員表
 - 1.2 令和4年度（2022年度）学際教育部会名簿
- 2 令和4年度（2022年度）開講科目一覧
3. 令和4年度（2022年度）シラバス
 - 3.1 総合教養科目
 - 3.2 高度教養科目
 - 3.3 総合科目
4. 令和4年度（2022年度）TA・SA配分時間
5. 令和3年度（2021年度）後期、同4年度（2022年度）前期
授業振り返りアンケート結果
6. 令和3年度（2021年度）後期、同4年度（2022年度）前期
履修者数および成績分布

1. 部会構成

1.1 教育部会構成員表

1.2 令和4年度（2022年度）学際教育部会名簿

【参考】

教育部会部局・集団別構成員表

2022年10月1日現在

	学長・理事	大学教育推進機構	人文学研究科	国際文化学研究科	人間発達環境学研究科	法学研究科	経済学研究科	経営学研究科	理学研究科	医学研究科	医学研究科附属感染症センター	保健学研究科	医学部附属病院	工学研究科	システム情報学研究科	農学研究科	農学研究科附属食資源教育研究センター	海事科学研究科	海事科学研究科附属練習船海神丸	海事科学研究科附属国際海事研究センター	国際協力研究科	科学技術イノベーション研究科	経済経営研究所	バリユスクル	バイオシグナル総合研究センター	内海城環境教育研究センター	都市安全研究センター	分子フォトサイエンス研究センター	海洋底探査センター	社会システムイノベーションセンター	数理・データサイエンスセンター	先端膜工学研究センター	未来医工学研究開発センター	次世代光散乱イメーシング科学研究センター	環境保全推進センター	産官学連携本部	地域連携推進本部	DX・情報統括本部	計			
情報科学				5	2	1	1	1	1			2	1	5	4	1		4																						5	33	
健康・スポーツ科学	1				16							15						1				1																				34
人間形成と思想		1	8	3	21							3																														36
文学と芸術			14	5	5																																				24	
歴史と文化	1		12	5	4																																				22	
人間と社会		1	7	10	13																																				31	
法と政治				4	3	4												1		1																					13	
経済と社会							19	2								5	4		9		1								1												41	
数学					7			17							10		5														2									41		
物理学	1	1			5			20						17	2	11	1	4										2					1							65		
化学	1	1			2			13						25		14		3			3				2	1		4		1	3									74		
生物学	1	1			5			13				3				13								8	3											1				48		
地球惑星科学					1			14																			2		3											20		
図形科学					1									1																											2	
応用科学技術														11				3	1																					15		
医学									15	2	17	7																													41	
農学																39	5							5																49		
ESD	1		1		7	1	1	1		1						1	1									2			1											18		
データサイエンス		1		1	2		1	1	5					4	1											2				7									1	26		
学際	2	24	3	7	8	8	5	5	2	1		2		5	1	4		11	1	1	19	1	1		6			2	1		1	1	2	1	1				125			
外国語第Ⅰ(英語)		11	1	23														1																						36		
外国語第Ⅱ(独語)		3	2	6																																				11		
外国語第Ⅱ(仏語)		2	1	4																																				7		
外国語第Ⅱ(中国語)		2		3																																				5		
外国語第Ⅱ(ロシア語)				1																																				1		
計	8	48	49	77	102	14	27	10	85	17	2	42	8	68	18	88	7	36	3	1	29	5	1	1	#	10	6	6	3	4	#	4	1	1	1	3	1	1	6	818		

学際教育部会名簿（2022年10月1日現在）

番号	職名	氏名	主配置部局	備考
1	学長	藤澤 正人		
2	理事	奥村 弘		
3	准教授	西原 圭志	産官学連携本部	
4	特命准教授	松下 正和	地域連携推進本部	
5	教授	石川 慎一郎	大学教育推進機構	
6	教授	柏木 治美	大学教育推進機構	
7	教授	GREER TIMOTHY	大学教育推進機構	
8	教授	島津 厚久	大学教育推進機構	
9	教授	朱 春躍	大学教育推進機構	
10	教授	近田 政博	大学教育推進機構	部会長
11	教授	大和 知史	大学教育推進機構	
12	教授	横川 博一	大学教育推進機構	
13	教授	保田 幸子	大学教育推進機構	
14	教授	HARRISON RICHARD JOHN	大学教育推進機構	
15	准教授	木原 恵美子	大学教育推進機構	
16	准教授	廣田 大地	大学教育推進機構	
17	准教授	高橋 康德	大学教育推進機構	
18	准教授	葛城 浩一	大学教育推進機構	幹事
19	准教授	黒田 千晴	大学教育推進機構	幹事
20	准教授	齊藤 美穂	大学教育推進機構	
21	准教授	橋田 力	大学教育推進機構	
22	講師	安田 麗	大学教育推進機構	
23	講師	川上 尚恵	大学教育推進機構	
24	講師	朴 秀娟	大学教育推進機構	
25	助教	濱田 真由	大学教育推進機構	
26	助教	芹澤 円	大学教育推進機構	
27	助教	石村 理知	大学教育推進機構	
28	特命助教	永井 敦	大学教育推進機構	
29	教授	平井 晶子	人文学研究科	
30	准教授	菊地 真	人文学研究科	
31	准教授	原口 剛	人文学研究科	
32	教授	青山 薫	国際文化学研究科	
33	教授	岡田 浩樹	国際文化学研究科	
34	教授	長 志珠絵	国際文化学研究科	
35	教授	池上 裕子	国際文化学研究科	
36	准教授	石田 圭子	国際文化学研究科	
37	講師	新川 匠郎	国際文化学研究科	
38	講師	工藤 晴子	国際文化学研究科	
39	教授	伊藤 真之	人間発達環境学研究科	
40	教授	丑丸 敦史	人間発達環境学研究科	

41	教授	河崎 佳子	人間発達環境学研究科	
42	教授	津田 英二	人間発達環境学研究科	
43	教授	渡邊 隆信	人間発達環境学研究科	
44	教授	太田 和宏	人間発達環境学研究科	
45	教授	源 利文	人間発達環境学研究科	
46	准教授	谷 篤史	人間発達環境学研究科	
47	教授	池田 千鶴	法学研究科	
48	教授	島村 健	法学研究科	
49	教授	増島 建	法学研究科	
50	教授	安井 宏樹	法学研究科	
51	教授	井上 典之	法学研究科	
52	教授	木下 昌彦	法学研究科	
53	教授	田中 洋	法学研究科	
54	教授	前田 健	法学研究科	
55	教授	吉井 昌彦	経済学研究科	
56	教授	清水 崇	経済学研究科	
57	教授	壘谷 整克	経済学研究科	
58	教授	松林 洋一	経済学研究科	
59	教授	勇上 和史	経済学研究科	
60	教授	國部 克彦	経営学研究科	
61	教授	松井 建二	経営学研究科	
62	教授	松尾 貴巳	経営学研究科	
63	准教授	中村 絵理	経営学研究科	
64	准教授	平野 恭平	経営学研究科	
65	教授	福山 克司	理学研究科	
66	准教授	津田 明彦	理学研究科	
67	教授	掛地 吉弘	医学研究科	
68	教授	中澤 港	保健学研究科	
69	准教授	入子 英幸	保健学研究科	
70	教授	石田 謙司	工学研究科	
71	教授	荻野 千秋	工学研究科	
72	教授	田中 剛	工学研究科	
73	教授	北村 雅季	工学研究科	
74	准教授	梶並 昭彦	工学研究科	
75	教授	横川 三津夫	システム情報学研究科	
76	教授	星 信彦	農学研究科	
77	教授	中塚 雅也	農学研究科	
78	教授	田中丸 治哉	農学研究科	
79	准教授	藤本 龍	農学研究科	
80	教授	齋藤 勝彦	海事科学研究科	
81	教授	竹林 幹雄	海事科学研究科	
82	教授	平山 勝敏	海事科学研究科	
83	教授	三村 治夫	海事科学研究科	

84	教授	若林 伸和	海事科学研究科	
85	准教授	岡田 順子	海事科学研究科	
86	准教授	世良 亘	海事科学研究科	
87	准教授	廣野 康平	海事科学研究科	
88	准教授	三輪 誠	海事科学研究科	
89	助教	小西 宗	海事科学研究科	
90	助教	猪野 杏樹	海事科学研究科	
91	准教授	湊 真輝	海事科学研究科附属国際海事研究センター	
92	教授	藤本 昌志	海事科学研究科附属練習船海神丸	
93	教授	四本 健二	国際協力研究科	
94	教授	小川 啓一	国際協力研究科	
95	教授	内田 雄一郎	国際協力研究科	
96	教授	陳 光輝	国際協力研究科	
97	教授	島村 靖治	国際協力研究科	
98	教授	樹神 昌弘	国際協力研究科	
99	教授	山崎 幸治	国際協力研究科	
100	教授	土佐 弘之	国際協力研究科	
101	教授	柴田 明穂	国際協力研究科	
102	教授	林 美香	国際協力研究科	
103	教授	松並 潤	国際協力研究科	
104	教授	木村 幹	国際協力研究科	
105	准教授	岡田 陽平	国際協力研究科	
106	准教授	斉藤 善久	国際協力研究科	
107	准教授	伊藤 高弘	国際協力研究科	
108	准教授	井上 武	国際協力研究科	
109	准教授	川畑 康治	国際協力研究科	
110	准教授	西谷 真規子	国際協力研究科	
111	准教授	赤星 聖	国際協力研究科	
112	准教授	中川 敬三	科学技術イノベーション研究科	
113	准教授	鶴田 宏樹	バリュースクール	幹事
114	教授	上井 進也	内海域環境教育研究センター	
115	教授	岡村 秀雄	内海域環境教育研究センター	
116	教授	奥田 昇	内海域環境教育研究センター	
117	准教授	林 美鶴	内海域環境教育研究センター	
118	准教授	堀江 好文	内海域環境教育研究センター	
119	講師	大沼 亮	内海域環境教育研究センター	
120	教授	三古 展弘	社会システムイノベーションセンター	
121	教授	金子 由芳	社会システムイノベーションセンター	
122	教授	吉岡 朋久	先端膜工学研究センター	
123	特命教授	和氣 弘明	次世代光散乱イメージング科学研究センター	
124	准教授	神尾 英治	環境保全推進センター	
125	助教	吉村 知里	環境保全推進センター	

2 令和4年度（2022年度）開講科目一覧

学際教育部会>総合教養科目

時間割 コード	開講科目名称	主担当教員	主担当教員所属	曜日	時限	開講区分	備考
1U081	社会と人権 A	武 寛子	非常勤	火	2	第1クォーター	
1U082	国際協力の現状と課題 A	木村 幹	国際協力研究科	木	1	第1クォーター	
1U099	神戸大学史 A	菊地 真	人文学研究科	月	2	第1クォーター	
1UG01	グローバルチャレンジ実習(アジア・フィールドワークコース(浙江省・プログラム))	源 利文	人間発達環境学研究科	他	0	前期	不開講
1UG02	グローバルチャレンジ実習(理学グローバルチャレンジプログラムNanyang/Sciコース)	富永 圭介	理学研究科	他	0	前期	不開講
1UG03	グローバルチャレンジ実習(理学グローバルチャレンジプログラムSHTTコース)	大西 洋	理学研究科	他	0	前期	不開講
1UG04	グローバルチャレンジ実習(サマースクールチャレンジコース(ハノイ貿易大学))	永井 敦	大学教育推進機構	他	0	前期	
1UG05	グローバルチャレンジ実習(フィールドワークチャレンジコース(ルーマニア))	永井 敦	大学教育推進機構	他	0	前期	不開講
1UG06	グローバルチャレンジ実習(フィールドワークチャレンジコース(マレーシア、タイ、ベトナム))	永井 敦	大学教育推進機構	他	0	前期	不開講
1UG07	グローバルチャレンジ実習(インターンシップチャレンジコース(インド))	永井 敦	大学教育推進機構	他	0	前期	不開講
1UG08	グローバルチャレンジ実習(シンガポール サステナビリティプログラム(オンライン))	横川 博一	大学教育推進機構	他	0	前期	
1UG09	グローバルチャレンジ実習(ギャップターム海外協定校派遣コース・2021年度)	小池 淳司	工学研究科	他	0	前期	後期に変更
1UG10	グローバルチャレンジ実習(ギャップターム海外協定校派遣コース・2020年度)	小池 淳司	工学研究科	他	0	前期	後期に変更
2U078	社会と人権 B	武 寛子	非常勤	火	2	第2クォーター	
2U079	国際協力の現状と課題 A	木村 幹	国際協力研究科	木	1	第2クォーター	
2U099	神戸大学史 B	菊地 真	人文学研究科	月	2	第2クォーター	
2U103	企業社会論 A	鶴田 宏樹	Vスクール	水	5	第2クォーター	
2U104	神戸大学の研究最前線 B	葛城 浩一	大学教育推進機構	火	5	第2クォーター	
2U105	ひょうご神戸学	田中丸 治哉	農学研究科	月	5	第2クォーター	
2U106	地域社会形成基礎論	奥村 弘	人文学研究科	木	5	第2クォーター	
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	
2U109	海への誘い	廣野 康平	海事科学研究科	他	0	第2クォーター	
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	
3U081	社会と人権 A	塚田 哲之	非常勤	水	2	第3クォーター	
3U101	E U 基礎論	吉井 昌彦	経済学研究科	月	5	第3クォーター	2022をもって廃止
3U102	ひょうご神戸学	松下 正和	地域連携推進本部	月	5	第3クォーター	
3U104	環境学入門 A	神尾 英治	工学研究科	火	5	第3クォーター	
3U105	神戸大学の研究最前線 A	葛城 浩一	大学教育推進機構	火	5	第3クォーター	2022をもって廃止
3U107	企業社会論 B	鶴田 宏樹	Vスクール	水	5	第3クォーター	
3U109	日本酒学入門	石村 理知	大学教育推進機構	水	5	第3クォーター	
3U110	男女共同参画とジェンダー A	工藤 晴子	国際文化学研究科	木	5	第3クォーター	

3U111	グローバルリーダーシップ育成基礎演習	黒田 千晴	大学教育推進機構	木	5	後期	ハイフレックス型
3U113	地域社会形成基礎論	松下 正和	地域連携推進本部	木	5	第3クォーター	
3UG01	グローバルチャレンジ実習 (アメリカ南部コース)	井上 弘貴	国際文化学研究所	他	0	後期	不開講
3UG02	グローバルチャレンジ実習 (理学グローバルチャレンジプログラムUPLBコース)	茶谷 絵理	理学研究科	他	0	後期	
3UG03	グローバルチャレンジ実習 (UPLB農学英語コース)	金丸 研吾	農学研究科	他	0	後期	
3UG04	グローバルチャレンジ実習 (EUフィールドワークコース (KUPESコース))	橋田 力	大学教育推進機構	他	0	後期	不開講
3UG05	グローバルチャレンジ実習 (フィールドワークチャレンジコース (フィリピン))	永井 敦	大学教育推進機構	他	0	後期	不開講
3UG06	グローバルチャレンジ実習 (フィールドワークチャレンジコース (インドネシア))	永井 敦	大学教育推進機構	他	0	後期	不開講
3UG07	グローバルチャレンジ実習 (ボランティアチャレンジコース (ルワンダ))	永井 敦	大学教育推進機構	他	0	後期	
3UG08	グローバルチャレンジ実習 (フィールドワークチャレンジコース (ルーマニア・オンライン))	永井 敦	大学教育推進機構	他	0	後期	
3UG09	グローバルチャレンジ実習 (フィールドワークチャレンジコース (アメリカ))	永井 敦	大学教育推進機構	他	0	後期	
3UG10	グローバルチャレンジ実習 (ユネスコ文化研修)	林 良子	国際文化学研究所	他	0	後期	
4U078	社会と人権 B	塚田 哲之	非常勤	水	2	第4クォーター	
4U104	環境学入門 B	神尾 英治	工学研究科	火	5	第4クォーター	
4U110	男女共同参画とジェンダー B	工藤 晴子	国際文化学研究所	木	5	第4クォーター	
4U112	職業と学び-キャリアデザインを考える B	北村 雅季	工学研究科	木	5	第4クォーター	

学際教育部会 > 高度教養科目

時間割 コード	開講科目名称	主担当教員	主担当教員所属	曜日	時限	開講区分	備考
1U953	国際協力アクティブ・ラーニング A	川畑 康治	国際協力研究科	火	2	前期	
1U954	国際協力アクティブ・ラーニング B	土佐 弘之	国際協力研究科	木	2	前期	
1U971	海外インターンシップ実習 A	横川 博一	大学教育推進機構	他	0	前期	
3U951	国際協力アクティブ・ラーニング C	四本 健二	国際協力研究科	木	5	後期	
3U956	高等外国語教育論	保田 幸子	大学教育推進機構	金	4	第3クォーター	
3U957	大学教育論	近田 政博	大学教育推進機構	月	5	第3クォーター	
4U956	高等外国語教育論	芹澤 円	大学教育推進機構	金	4	第4クォーター	

学際教育部会>総合科目

時間割 コード	開講科目名称	主担当教員	主担当教員所属	曜日	時限	開講区分	備考	総合教養科目で の開講 (有りなら○)	総合科目として の開講開始年度
1U903	総合科目Ⅰ(神戸GCP基礎論)	永井 敦	大学教育推進機構	木	5	第1クォーター			2020後期
2U901	総合科目Ⅰ(CreativeSchool基礎編(課題解決の考え方の考え方))	鶴田 宏樹	Vスクール	火	5	第2クォーター			2018前期
2U902	総合科目Ⅰ(CreativeSchool応用編(オープンイノベーションコース))	鶴田 宏樹	Vスクール	他	0	第2クォーター			2018後期
2U903	総合科目Ⅰ(ひょうご神戸学)	田中丸 治哉	農学研究科	月	5	第2クォーター		○	2017後期
2U904	総合科目Ⅰ(地域社会形成基礎論)	奥村 弘	人文学研究科	木	5	第2クォーター		○	2017後期
3U901	総合科目Ⅰ(アクセシビリティリーダー論1)	村中 泰子	インクルーシブキャンパスアンドヘルスケアセンター	火	5	第3クォーター	ブレンド型		2017後期
3U902	総合科目Ⅰ(EU基礎論)	吉井 昌彦	経済学研究科	月	5	第3クォーター		○	2022をもって廃止
3U903	総合科目Ⅰ(ひょうご神戸学)	松下 正和	地域連携推進本部	月	5	第3クォーター		○	2017後期
3U904	総合科目Ⅰ(日本酒学入門)	石村 理知	大学教育推進機構	水	5	第3クォーター		○	2018後期
3U905	総合科目Ⅰ(グローバルリーダーシップ育成基礎演習)	黒田 千晴	大学教育推進機構	木	5	後期		○	2016以前
3U906	総合科目Ⅰ(地域社会形成基礎論)	松下 正和	地域連携推進本部	木	5	第3クォーター		○	2017後期
3U907	総合科目Ⅱ(データサイエンス基礎演習B)	中村 匡秀	数理・データサイエンスセンター	月	5	第3クォーター		○	2019後期
3U908	総合科目Ⅱ(統計学基礎A)	福山 克司	理学研究科	水	5	第3クォーター	ハイフレックス型		2021後期
4U901	総合科目Ⅱ(データサイエンス基礎演習B)	中村 匡秀	数理・データサイエンスセンター	月	5	第4クォーター		○	2019後期
4U908	総合科目Ⅱ(統計学基礎B)ハイフレックス型	福山 克司	理学研究科	水	5	第4クォーター	ハイフレックス型		2021後期
4U911	総合科目Ⅰ(多文化共生のための日本語コミュニケーション)	黒田 千晴	大学教育推進機構	月	5	第4クォーター			2018前期
3U909	総合科目Ⅱ(価値創造の考え方)	玉置 久	システム情報学研究科	月	5	第3クォーター			2022後期
3U910	総合科目Ⅰ(海外留学のすすめA)	橋田 力	大学教育推進機構	月	5	第3クォーター			2022後期
4U910	総合科目Ⅰ(海外留学のすすめB)	橋田 力	大学教育推進機構	月	5	第4クォーター			2022後期

*備考:ピンクのマークは総合科目としての開講が2年以上経過している科目、黄色のマークはすでに総合教養科目に移行したが、経過措置としての総合科目の開講が3年以上経っている科目

総合科目→総合教養科目への移行は規則改正を伴うので、すでに2023年度授業には間に合わない。総合教養科目(表)と総合科目(裏)の二枚看板を総合教養科目に一本化することは(規則改正を伴わないので)可能。

3. 令和4年度（2022年度）シラバス

3.1 総合教養科目

3.2 高度教養科目

3.3 総合科目

3.1 総合教養科目

開講科目名	社会と人権 A				
成績入力担当	武 寛子、武 寛子	開講区分		単位数	
		第1クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	火2	時間割コード	1U081

授業のテーマ

本講義では、社会における人権に関する歴史や課題について知識を深め、グローバル社会における人権について議論することを目的とする。身近な人権に関する課題に目を向けることで、どのような解決方策があるのかを考えていくことを目指す。

授業の到達目標

本講義を受けることにより、次の学習効果が期待できる。

- ①社会における人権に関する課題について理解し、批判的に考察する能力を身につける
- ②人権に関わる課題について自分自身の考えをもつことができる
- ③論理的思考力を身に着ける

授業の概要と計画

1. オリエンテーション
2. 欧米諸国における人権の歴史
3. アジアにおける人権の歴史
4. 教育と人権について考える
5. ジェンダーと人権について考える
6. 国際的人権条約と人権について考える
7. インターネットと人権について考える
8. シティズンシップと人権について考える

*講義の順番は変更することもある

成績評価方法

各授業のリアクション・ペーパーによる評価

成績評価基準

リアクション・ペーパーでは、次の点に着目して評価します。

- ① 授業内容の理解度
- ② 自分の意見を問われる項目について、自分自身の考えを持っているか
- ③ 論理的に記述できているか

各授業でのリアクション・ペーパーの提出を出席の確認とします。ただし、出席していないのに他者にリアクション・ペーパーの作成および提出を依頼していたことが判明した場合、また他者と全く同じ内容の記述が判明した場合、インターネットや書籍などから文章の盗用が判明した場合、評価の対象としません。

履修上の注意（関連科目情報）

本講義は、オンデマンド形式で行います。

BEEFを通じて毎回の講義内容や課題を掲示しますので、確認するようにしてください。

事前・事後学修

事前学修：各回の授業で取り扱う項目について、BEEFに事前掲載した資料に関係する部分を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと

事後学修：教科書の授業で取り扱った部分を再読し、授業で学んだことについてまとめること

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

授業について不明な点があれば、BEEFを通じて担当教員に連絡してください。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

オンデマンド型授業に加えて、プリント教材とリアクション・ペーパーの使用によって、学修成果を高める。

教科書

生協にてプリント教材「社会と人権A」を購入し、使用すること。

資料配布等にLMS BEEFを使う回がありえるので、その場合は事前にダウンロードして予習しておくこと。

参考書・参考資料等

資料配布等にLMS BEEFを使う回がありえるので、その場合は事前にダウンロードして予習しておくこと。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	国際協力の現状と課題A				
成績入力担当	斉藤 善久、木村 幹		開講区分	単位数	
			第1クォーター	1.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	木1	時間割コード	1U082

授業のテーマ

現代の社会における「国際協力」を巡る問題について、国際的観点と国内的観点の双方から考える。

授業の到達目標

現代の社会における「国際協力」を巡る問題について理解し、実際の社会での活動において役立つ知識を獲得する。

授業の概要と計画

前半と後半に分けて、大きく二つのテーマにより行われる。前半は、国際貢献の建前のもとで人権侵害的な実態が指摘されている外国人技能実習制度の問題点について考える。後半は、今日の日韓関係を題材に、何故にグローバル化が進展する今日において、むしろ、日韓関係が悪化しているのか、そしてその背景にはどのような今日の国際状況が存在するのかについて考える。

成績評価方法

前半と後半に分けて評価を行い、その合計点を最終的な成績評価とする。前半は講義におけるパフォーマンス(20%)とレポート(80%)、後半は同じく講義におけるパフォーマンス(20%)と最終講義において行われる筆記試験(80%)により評価する。

成績評価基準

講義でのパフォーマンスは、期待される授業におけるディスカッションや課題への貢献度により評価する。筆記試験は与えられた課題に対する事実に対する理解度と、論述における論理性の二つを主たる評価基準とする。

履修上の注意（関連科目情報）

単に受け身で授業を聞くだけでなく、具体的な事例をイメージしながら、事象に対する説明の論理関係をきちんとチェックする事。

※現状では対面方式で行う予定であるが、感染症に関わる状況が深刻な場合には全面的にオンデマンド方式のオンライン等に移行することがある。

事前・事後学修

事前学習としては、講義前日までにレジюмеをBEEF上に準備するので、事前にそれを読んで臨む事。事後学習としては、各講義における内容をまとめ疑問点を整理する事。

オフィスアワー・連絡先

木曜日5限もしくは火曜日5限。連絡はkan_kimura@yahoo.com まで。

学生へのメッセージ

アクティブな参加を期待しています。

今年度の工夫

具体的な社会的事象をクローズアップし、初心者にもわかりやすい構成で行う。

教科書

前半と後半で教科書等が異なる為に注意する事。

ルポ技能実習生 / 澤田晃宏 : 筑摩書房, 2020, ISBN:9784480073075

誤解しないための日韓関係講義 / 木村幹 : PHP研究所, 2022, ISBN:978-4-569-85140-2

参考書・参考資料等

前半と後半で教科書等が異なる為に注意する事。

ふたつの日本: 「移民国家」の建前と現実 / 望月優大 : 講談社, 2019, ISBN:978-4-06-515110-5

日韓歴史認識問題とは何か 歴史教科書・「慰安婦」・ポピュリズム (叢書・知を究める) / 木村幹 : ミネルヴァ書房, 2014, ISBN:978-4-623-07175-3

授業における使用言語

日本語

日本語

キーワード

国際協力 グローバル化 外国人労働者

開講科目名	神戸大学史 A				
成績入力担当	菊地 真、河島 真	開講区分		単位数	
		第1クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	月2	時間割コード	1U099

授業のテーマ

近代日本の高等教育の特質を、神戸大学前身校等の歴史を通して学びます。

授業の到達目標

神戸大学前身校等についての知識を身に付けるだけでなく、日本における高等教育の歴史的展開を理解し、そこで行われる教育・研究の役割や機能について理解することを目標とします。

授業の概要と計画

対面で実施予定。詳細はBEEFに提示。

この授業は、「神戸大学百年史」（全4巻）の成果と経験に基づき、上記の到達目標を得るために行います。各回の内容は次の通り。都合により順番が変更となる場合があります。

1. ガイダンスと大学文書史料室（見学あり）
2. 日本における高等教育の成立
3. 神戸高等商業学校の設立
4. 神戸商業大学・神戸高等工業学校・姫路高等学校の沿革
5. 神戸高等商船学校
6. 兵庫県下の医学教育と師範教育
7. 戦争と教育
8. まとめと試験

成績評価方法

毎回の小レポート（10点*7回）、期末試験（30点）の結果に基づいて評価します。小レポートはその日の授業の内容に即して書いてもらいます。期末試験は最終回に実施予定です。課題等の情報は授業中に発表しますので注意してください。

成績評価基準

小レポートではその日の授業の内容を理解できているかどうかを問います。期末試験では知識を問うと同時に、講義の流れをよく理解できているか、テーマについて考察が深められているかどうかを問います。

履修上の注意（関連科目情報）

毎回の授業の内容を自分でまとめ直し、課題に備えるようにしてください。また、できれば第2Q開講の「神戸大学史B」をあわせて受講することを推奨します。配布資料を他所に使わないでください。変更等はBEEFにて連絡します。

事前・事後学修

事前に参考文献に目を通しておくことが望ましい。また、毎回よく復習をして課題に備えてください。本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

質問等はBEEFで、メールにて受け付けます。

学生へのメッセージ

神戸大学史Aと神戸大学史Bは両方受講することが望ましい。この授業がを通しての高等教育への理解がみずからの学問・研究の礎となることを期待します。なお、規則で認められた理由以外の欠席による不利益については、原則として救済措置を行いません。

今年度の工夫

大きな変更はありません。大学文書史料室の協力を得て施設紹介を行っています。

教科書

使用しません。必要に応じてプリントを配布し補足します。

参考書・参考資料等

以下を参考文献として指定します。

神戸大学百年史・前身校史 / 神戸大学百年史編集委員会 : 神戸大学, 2002, ISBN:

神戸大学百年史・写真集 / 神戸大学百年史編集委員会 : 神戸大学, 2002, ISBN:

ビジュアル版神戸大学物語 第二版 / 神戸大学物語刊行委員会 : 神戸学術事業会, , ISBN:9784898120798

授業における使用言語

日本語

キーワード

神戸大学史 神戸大学 大学 高等教育 歴史 日本史 実務 対面と遠隔授業の併用

開講科目名	グローバルチャレンジ実習（サマースクールチャレンジコース（ハノイ貿易大学））				
成績入力担当	永井 敦			開講区分	単位数
				前期	1.0単位
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	他	時間割コード	1UG04

授業のテーマ

本授業は、「神戸グローバルチャレンジプログラム」の「サマースクールチャレンジコース：ハノイ貿易大学」として開講します。
「神戸グローバルチャレンジプログラム」とは、1つのクォーターや長期休暇を「チャレンジターム」として設定し、その期間に学生が国際的なフィールドで学外活動を行うプログラムです。

授業の到達目標

本プログラムは、参加学生が国際的なフィールドで行う学外活動を通して、異文化環境の下での自らの体験に基づき、グローバル人材として必要な「課題発見・解決能力」の必要性に気づき、学びの動機づけを得ることを目的としています。具体的には、実践型グローバル人材として成長するための基盤となる3つの能力「チームワーク力」「自己修正力」「課題挑戦力」の修得を目標としています。

本コースの目標は、様々な国籍の学生と共に講義やセミナー、企業訪問やグループワークを通じ、様々なバックグラウンドを持つ人たちと連携し、課題を解決していく力を伸ばすほか、国際的な知見や視野を養いグローバルパーソンとなるための素地を形成することです。

学生ごとの学修目標については、担当教員の指示に従い、事前学修で各自設定します。

授業の概要と計画

<学外学修先>ハノイ貿易大学(FTU)>

<受講決定後の授業の流れ>

- ・事前学修（令和4年8月上旬～令和4年8月下旬）
 - ①渡航準備に関するガイダンス、学修目標設定
 - ②ベトナムの政治、経済、歴史、社会及びASEANに関する学修
 - ③3つのチカラ「チームワーク力」「自己修正力」「課題挑戦力」についての自己評価の方法について
 - ④海外渡航に際しての危機管理学修
 - ⑤渡航前オリエンテーション

なお、英語学修は自律学修とします。

- ・学外学修（令和4年9月上旬～令和4年9月中旬）

※例年6月頃にFTUより具体的な日程の連絡があるので、連絡があり次第正式に案内します。

FTUが主催する”International Summer Program”に参加し、様々な国から参加する学生と共にベトナムの経済や起業家精神を育成する講義を受講します。そのほか、企業訪問(日系・外資・現地のいずれか2社程度)、グループプロジェクトとその発表を通し、経済やビジネスに関する実践的な知識やスキルを身につけます。また、ハロン湾、ニンビン省、ホーチミン市へのフィールドトリップやFTUのホーチミン市キャンパスを訪問したり、そのほかベトナム料理教室やベトナム語授業や農村訪問したりするなど、短期間で様々な体験ができるようなプログラムになっています。プログラム日程期間中は、FTUの学生がバディとしてこれらの活動をリードしたり、ベトナム滞在中のサポートをしてくれます。

- ・事後学修（令和4年9月下旬～令和4年9月下旬）

- ①活動成果報告発表
- ②目標達成度の査定
- ③3つのチカラについての自己評価

※事前・事後学修の日程は受講者と相談の上決定します。

※事前・事後学修の形態は対面を予定していますが、新型コロナウイルス感染拡大により形態が変更となる場合はBEEFでお知らせします。

成績評価方法

成績評価は、コース及び学生ごとの学修目標に基づいて、事前学修、事後学修における「チャレンジシート」及び「リフレクションシート」の記載内容20%、学外学修に取り組む姿勢と学修成果80%で評価する。

成績評価基準

①事前・事後の課題シート、②学外学修への準備状況や取り組む姿勢、そして学修成果を合計して評価します。具体的な評価基準は以下の通りです。

①課題シート（20点）

ーチャレンジシート（10点）

現状分析が十分にできており、具体的な目標設定ができているかどうか

ーリフレクションシート（10点）

十分に目標が達成できたかどうか

②学外学修に取り組む姿勢、学修成果（80点）

ー渡航国について十分に理解しているかどうか

ー学修に取り組む意欲が十分かどうか

ー渡航先での活動内容を十分に記録できているかどうか

ー帰国後に活動内容を十分に報告できているかどうか

履修上の注意（関連科目情報）

・「神戸グローバルチャレンジプログラム」は、「事前学修」「学外学修」「事後学修」で構成されています。受講生は、全ての学修に参加する必要があります。

・学外学修において、活動期間中の活動時間とその内容をBEEFに登録します。

事前・事後学修

・事前学修において、学修目標を記載した「チャレンジシート（企画書・計画書）」を作成し、BEEFに登録します。

・事後学修において、学修の振り返りを行い、その結果を記載した学修成果に関する「リフレクションシート（報告書）」を作成し、BEEFに登録します。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

月～金曜日9：00～17：00の間、鶴1 N棟403で海外プログラムに関する相談に対応します。

相談にあたっては、事前にメール等で予約をしてください。

E-mail：stdnt-jimu-kgcp@office.kobe-u.ac.jp（神戸GCPコーディネーター）

学生へのメッセージ

神戸グローバルチャレンジプログラムについて知りたいことがある人は、気軽に相談してください。

今年度の工夫

渡航できない場合を想定し、オンラインプログラムの準備も予定しています。

教科書

授業中にプリント資料を配付します。また、参考図書は事前学修で紹介します。

参考書・参考資料等

渡航先に関する書籍やニュースを積極的に探すようにしてください。

授業における使用言語

日本語及び英語の併用

キーワード

インターンシップ、 フィールドワーク、 ボランティア、 海外、 学外活動

開講科目名	グローバルチャレンジ実習（シンガポール サステナビリティプログラム（オンライン））				
成績入力担当	横川 博一			開講区分	単位数
				前期	1.0単位
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	他	時間割コード	1UG08

授業のテーマ

本授業は、「神戸グローバルチャレンジプログラム」の「インターンシップ型コース」として開講します。「神戸グローバルチャレンジプログラム」とは、1つのクォーターや長期休暇を「チャレンジターム」として設定し、その期間に学生が国際的なフィールドで学外活動を行うプログラムです。

【シンガポール サステナビリティプログラム（オンライン）】

令和4年度はオンライン実施とします。ビジネス・交通・サプライチェーン・金融などのアジア及び世界のハブとして世界に大きな影響を与えているシンガポールが国を挙げて取り組んでいるサステナビリティ政策や具体的取り組みについて、現地の企業や公的機関のプロフェッショナルの話を聞き、サステナビリティの重要テーマについて理解を深める産学協働プロジェクト型プログラムです。

授業の到達目標

本プログラムの目的は、参加学生が国際的なフィールドで行う学外活動を通して、異文化環境の下での自らの体験に基づき、グローバル人材として必要な「課題発見・解決能力」の必要性に気づき、学びの動機づけを得ることです。また、実践型グローバル人材として成長するための基盤となる3つの能力「チームワーク力」「自己修正力」「課題挑戦力」の修得を目標とします。コースごと及び学生ごとにそれぞれ学修目標を設定し、その到達に向けた学修を行います。

本コースの学修目標は、「サステナビリティ」をテーマに、シンガポールでの現地体験プロジェクト型プログラムに参加することにより、国際社会が抱える課題としての「サステナビリティ」について深く知ること、及び現場に赴くことで、課題について発見し、その解決に向けた方策を思考する能力を身につけることです。

学生ごとの学修目標については、担当教員の指示に従い、事前学修で各自設定することになります。

授業の概要と計画

本講義は「遠隔」で実施する予定です。

本コースの情報は下記サイトをご覧ください（随時更新）

<https://www.solac.kobe-u.ac.jp/singapore2022.html/>

【コース説明会】（4月に開催予定）

詳細は4月開始の募集要項で案内し、説明会を開催します（オンライン開催の予定です）。関心のある人は奮って参加してください。なお、レポート課題及び英語運用力等による事前審査を行い、選抜します。

【事前学修】（7月～8月）

シンガポールオンラインプログラムを有意義なものにするため、事前オンラインオリエンテーションを受講し、シンガポールおよびサステナビリティ全体の理解を深めます。

第1回 事前学修1

第2回 事前学修2

【シンガポールオンライン研修】（8月後半～9月前半）

令和4年度はオンライン実施とする。4つの異なる業界の企業等から直接話を聞き、サステナビリティの重要テーマについて理解を深めます。各回前半は、「サステナブルな環境・経済・社会の実現」および「サステナビリティ分野のキャリアを実現する」をテーマに日本語及び英語でレクチャーを行い、後半は企業ゲストを招いて「リテール・エネルギー・テクノロジー・ファイナンスカンパニーの取り組み」をテーマにトークまたは対談を聞き、意見交換を行います（英語）。学生は学修したことおよび課題等を小レポートにまとめ、提出し、教員の指導を受け、終了後の発表および討論に備えます。以下はあくまでも予定です。

第1回 セッション1 サステナブルな環境の実現に向けて：政策、企業ケースなど（日本語・英語）

セッション2 企業ゲスト1（英語）例「リテールカンパニーの取り組み」

第2回 セッション3 サステナブルな経済の実現に向けて：政策、業界、企業など（日本語・英語）

セッション4 企業ゲスト2（英語）例「エネルギーカンパニーの取り組み」

第3回 セッション5 サステナブルな社会の実現に向けて：政策、企業の役割など（日本語・英語）

セッション6 企業ゲスト3（英語）例「テクノロジーカンパニーの取り組み」

第4回 セッション7 サステナビリティ分野のキャリアを実現する（日本語・英語）

セッション8 企業ゲスト4（英語）例「ファイナンスカンパニーの取り組み」

【事後学修】（9月）

学修したことおよび課題等を小レポートにまとめ、「サステナビリティ実践編：どう行動に移していくか」をテーマに発表・討論を行います。

第1回 フォローアップセッション1

第2回 フォローアップセッション2

成績評価方法

成績評価は、コース及び学生ごとの学修目標に基づいて、事前学修、事後学修における「チャレンジシート」及び「リフレクションシート」の記載内容40%、学外学修における取組と学修成果を60%で評価する。

成績評価基準

・本コースの学修目標及び各自が事前に設定した学修目標をどのように、どの程度達成できたのかを振り返り、これらを文章あるいは各種データ等を用いて説明していること。

・具体的な基準は、以下のとおりです。

国際社会が抱える課題としての「サステナビリティ」について深く知ることができたか

現場に赴くことで、課題について発見し、その解決に向けた方策を思考する能力を身につけることができたか

上記の授業の到達目標を達成していない場合、不可となる。また到達目標を達成し、かつどれくらい成果を修めているかに応じて秀・優・良・可を判断する。

履修上の注意（関連科目情報）

- ・2022年度はオンライン研修となりますが、本コースの受講には費用がかかります。詳しくは「コース説明会」でお知らせします。
- ・「神戸グローバルチャレンジプログラム」は、「事前学修」「学外学修」「事後学修」で構成されています。受講生は、全ての学修に参加する必要があります。
- ・学外学修において、活動期間中の活動時間とその内容を「B E E F」に登録します。

事前・事後学修

- ・事前学修において、学修目標を記載した「チャレンジシート（企画書・計画書）」を作成し、「神戸大学学修支援システム LMS BEEF」に登録します。
- ・事後学修において、学修の振り返りを行い、その結果を記載した学修成果に関する「リフレクションシート（報告書）」を作成し、BEEF に登録します。
- ・本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

随時。大学教育推進機構・国際コミュニケーションセンター教授 横川博一 yokokawa@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

本プログラム実施責任者からのメッセージを参照してください (<http://www.iphe.kobe-u.ac.jp/kobe-gcp>)。

今年度の工夫

2022年度からの新しいコースです。

教科書

特定の教科書は使用しません。随時資料を配信します。

参考書・参考資料等

参考書・参考資料は授業内外で指示・紹介します。

授業における使用言語

日本語及び英語の併用

キーワード

遠隔授業、インターンシップ、海外、学外活動、パソコン、長文レポート

開講科目名	グローバルチャレンジ実習（ギャップターム海外協定校派遣コース・2021年度）				
成績入力担当	小池 淳司	開講区分		単位数	
		前期		2.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	他	時間割コード	1UG09

授業のテーマ

本授業は、工学部生を対象とし、「神戸グローバルチャレンジプログラム」の「ギャップターム海外協定校派遣コース」として開講します。

「神戸グローバルチャレンジプログラム」とは、1・2年生の1つのクォーターや長期休暇を「チャレンジターム」として設定し、その期間に学生が国際的なフィールドで学外活動を行うプログラムです。

授業の到達目標

本プログラムの目的は、参加学生が国際的なフィールドで行う学外活動を通して、異文化環境の下での自らの体験に基づき、グローバル人材として必要な「課題発見・解決能力」の必要性に気づき、学びの動機づけを得ることです。また、実践型グローバル人材として成長するための基盤となる3つの能力「チームワーク力」「自己修正力」「課題挑戦力」の修得を目標とします。コースごと及び学生ごとにそれぞれ学修目標を設定し、その到達に向けた学修を行います。

本コースの学修目標は、以下のとおりです。

下記の各項の目標を達成し、「工学をグローバルに学ぶことへの動機づけ」が効果として期待されます。

- ・英語コミュニケーション力の向上。
- ・英語による工学知識を習得可能とする能力の向上。
- ・国内外でのインターンシップ等および協定校での体験を通して日本の、ひいては各自の進むべき方向性を見出し、広い視野を獲得すること。

授業の概要と計画

・2年次第1Qに本学教員による事前学修を実施後、第2Qのギャップタームに国内外グローバル企業でのインターンシップ、海外協定校への派遣などの学外学修を実施します。事後学修として、それら学修成果をまとめ、ワークショップ等において発表、ディスカッションすることで、学修の振り返りとより深い学びへとつなげていきます。

2年次の予定は以下のとおりです。

事前学修（2022年4月～2022年8月）

- 海外危機管理指導について
- 企業研修指導について
- 訪問企業の事業内容について
- 海外研修先の文化、大学の情報について

学外活動学修（2022年6月～2022年9月）

- 国内グローバル企業研修
- オーストラリアの協定校での海外研修（授業の受講、研究施設の見学、現地企業研修）

事後学修（2022年8月～2022年9月）

- 工学部内での報告会の実施
- リフレクションシートの作成

成績評価方法

成績評価は、コース及び学生ごとの学修目標に基づいて、事前学修、事後学修における「チャレンジシート」及び「リフレクションシート」の記載内容50%、学外学修における取組と学修成果を50%で評価する。

成績評価基準

各自が事前に設定した学修目標をどのように、どの程度達成できたのかを振り返り、これらを文章あるいは各種データ等を用いて説明していること。

履修上の注意（関連科目情報）

- ・「神戸グローバルチャレンジプログラム」は、「事前学修」「学外学修」「事後学修」で構成されています。受講生は、全ての学修に参加する必要があります。
- ・学外学修において、活動期間中の活動時間とその内容を「神戸大学学修支援システム」（以下、「B E E F」という。）に登録します。

事前・事後学修

- ・事前学修において、学修目標を記載した「チャレンジシート（企画書・計画書）」を作成し、「B E E F」に登録します。
- ・事後学修において、学修の振り返りを行い、その結果を記載した学修成果に関する「リフレクションシート（報告書）」を作成し、「B E E F」に登録します。

オフィスアワー・連絡先

工学研究科学務課教務学生係
eng-kyomugakusei@office.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

工学部新1年生を対象に5月～6月にかけて募集を行います。
4月に説明会を行いますので興味のある学生は参加してください。

今年度の工夫

教科書

特になし。

参考書・参考資料等

事前学習、事後学習時に関係するプリントを配布。

授業における使用言語

日本語及び英語の併用

キーワード

インターンシップ、 フィールドワーク、 海外、 学外活動

開講科目名	社会と人権B				
成績入力担当	武 寛子、武 寛子	開講区分		単位数	
		第2クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	火2	時間割コード	2U078

授業のテーマ

本講義では、社会における人権に関する課題を身近なものとして捉え、グローバル社会における人権について議論することを目的とする。身近な人権に関する課題に目を向けることで、どのような解決策があるのかを考えていくことを目指す。

授業の到達目標

本講義を受けることにより、次の学習効果が期待できる。

- ①社会における人権に関する課題について理解し、批判的に考察する能力を身につける
- ②人権に関わる課題について自分自身の考えをもつことができる
- ③論理的思考力を身に着ける

授業の概要と計画

1. オリエンテーション
2. 国際社会における人権の発展
3. 労働と人権について考える
4. 外国人と人権について考える
5. セクシャル・マイノリティと人権について考える
6. 同和と人権について考える
7. 障害者と人権について考える
8. シティズンシップと人権について考える

*講義の順番は変更することもある

成績評価方法

各授業のリアクション・ペーパーによる評価

成績評価基準

リアクション・ペーパーでは、次の点に着目して評価します。

- ① 授業内容の理解度
- ② 自分の意見を問われる項目について、自分自身の考えを持っているか
- ③ 論理的に記述できているか

各授業でのリアクション・ペーパーの提出を出席の確認とします。ただし、出席していないのに他者にリアクション・ペーパーの作成および提出を依頼していたことが判明した場合、また他者と全く同じ内容の記述が判明した場合、インターネットや書籍などから文章の盗用が判明した場合、評価の対象としません。

履修上の注意（関連科目情報）

本講義は、オンデマンド形式で行います。

BEEFを通じて毎回の講義内容や課題を掲示しますので、確認するようにしてください。

事前・事後学修

事前学修：各回の授業で取り扱う項目について、BEEFに事前掲載した資料に関する部分を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと

事後学修：教科書の授業で取り扱った部分を再読し、授業で学んだことについてまとめること

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

授業について不明な点があれば、BEEFを通じて担当教員に連絡してください。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

オンデマンド型授業に加えて、プリント教材とリアクション・ペーパーの使用によって、学修成果を高める。

教科書

生協にてプリント教材「社会と人権B」を購入し、使用すること。

資料配布等にLMS BEEFを使う回がありえるので、その場合は事前にダウンロードして予習しておくこと。

参考書・参考資料等

資料配布等にLMS BEEFを使う回がありえるので、その場合は事前にダウンロードして予習しておくこと。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	国際協力の現状と課題A				
成績入力担当	斉藤 善久、木村 幹		開講区分	単位数	
			第2クォーター	1.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	木1	時間割コード	2U079

授業のテーマ

現代の社会における「国際協力」を巡る問題について、国際的観点と国内的観点の双方から考える。

授業の到達目標

現代の社会における「国際協力」を巡る問題について理解し、実際の社会での活動において役立つ知識を獲得する。

授業の概要と計画

前半と後半に分けて、大きく二つのテーマにより行われる。前半は、国際貢献の建前のもとで人権侵害的な実態が指摘されている外国人技能実習制度の問題点について考える。後半は、今日の日韓関係を題材に、何故にグローバル化が進展する今日において、むしろ、日韓関係が悪化しているのか、そしてその背景にはどのような今日の国際状況が存在するのかについて考える。

成績評価方法

前半と後半に分けて評価を行い、その合計点を最終的な成績評価とする。前半は講義におけるパフォーマンス(20%)とレポート(80%)、後半は同じく講義におけるパフォーマンス(20%)と最終講義において行われる筆記試験(80%)により評価する。

成績評価基準

講義でのパフォーマンスは、期待される授業におけるディスカッションや課題への貢献度により評価する。筆記試験は与えられた課題に対する事実に対する理解度と、論述における論理性の二つを主たる評価基準とする。

履修上の注意（関連科目情報）

単に受け身で授業を聞くだけでなく、具体的な事例をイメージしながら、事象に対する説明の論理関係をきちんとチェックする事。

※現状では対面方式で行う予定であるが、感染症に関わる状況が深刻な場合には全面的にオンデマンド方式のオンライン等に移行することがある。

事前・事後学修

事前学習としては、講義前日までにレジюмеをBEEF上に準備するので、事前にそれを読んで臨む事。事後学習としては、各講義における内容をまとめ疑問点を整理する事。

オフィスアワー・連絡先

木曜日5限もしくは火曜日5限。連絡はkan_kimura@yahoo.com まで。

学生へのメッセージ

アクティブな参加を期待しています。

今年度の工夫

具体的な社会的事象をクローズアップし、初心者にもわかりやすい構成で行う。

教科書

前半と後半で教科書等が異なる為に注意する事。

ルポ技能実習生 / 澤田晃宏 : 筑摩書房, 2020, ISBN:978-4-480-07307-5

誤解しないための日韓関係講義 / 木村幹 : PHP研究所, 2022, ISBN:978-4-569-85140-2

参考書・参考資料等

前半と後半で教科書等が異なる為に注意する事。

ふたつの日本 「移民国家」の建前と現実 / 望月優大 : 講談社, 2019, ISBN:978-4-06-515110-5

日韓歴史認識問題とは何か 歴史教科書・「慰安婦」・ポピュリズム (叢書・知を究める) / 木村幹 : ミネルヴァ書房, 2014, ISBN:978-4-623-07175-3

授業における使用言語

日本語

日本語

キーワード

国際協力 グローバル化 外国人労働者

開講科目名	神戸大学史 B				
成績入力担当	菊地 真、河島 真、藤澤 正人	開講区分	単位数		
		第2クォーター	1.0単位		
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	月2	時間割コード	2U099

授業のテーマ

現代日本の高等教育の沿革を、神戸大学の歴史を通して学びます。

授業の到達目標

神戸大学の歴史についての知識を身に付けるだけでなく、日本における高等教育の歴史的展開、また大学やそこで行われる教育・研究の役割や機能について理解することを目標とします。

授業の概要と計画

対面で実施予定。詳細はBEEFに提示。

この授業は主に、神戸大学百年史編集室の室員として「神戸大学百年史」（全4巻）の編集に従事した教員を中心に、その成果と経験に基づき、上記の到達目標を得るために行います。各回の内容は次の通り。なお、都合により順番が変更となる場合があります。

1. ガイダンスと附属学校、大学文書史料室（見学あり）
2. 近現代日本の高等教育制度
3. 新制神戸大学の前史から設立まで
4. 新制神戸大学のA級大学構想
5. 海事教育の歩み
6. 現代の神戸大学
7. 学長講義
8. まとめと筆記試験

成績評価方法

毎回の小レポート（10点*7回）、期末試験（30点）の結果に基づいて評価します。小レポートはその日の授業の内容に即して書いてもらいます。期末試験は最終回に実施します。課題等の情報は授業中に発表しますので注意してください。

成績評価基準

小レポートではその日の授業の内容を理解できているかどうかを問います。期末試験では、知識を問うと同時に、講義の流れをよく理解できているか、テーマについて考察が深められているかどうかを問います。

履修上の注意（関連科目情報）

毎回の授業の内容を自分でまとめ直し、課題に備えるようにしてください。また、できれば第1Q開講の「神戸大学史A」をあわせて受講することを推奨します。配布資料を他所に使わないでください。変更等はBEEFにて連絡します。

事前・事後学修

事前に参考文献に目を通しておくことが望ましい。また、毎回よく復習をし、課題に備えてください。本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

質問等はBEEFでメールにて受け付けます。

学生へのメッセージ

神戸大学史Aと神戸大学史Bは両方受講することが望ましいです。この授業がを通しての高等教育への理解がみずからの学問・研究の礎となることを期待します。なお、規則で認められた理由以外の欠席による不利益については、原則として救済措置を行いません。

今年度の工夫

大きな変更はありません。毎年の特徴として、学長による講義の実施があります。大学文書史料室の協力を得て施設の紹介を行っています。

教科書

使用しません。必要に応じプリントを配布し補足します。

参考書・参考資料等

以下を参考文献として指定します。

ビジュアル版神戸大学物語 第二版 / 神戸大学物語刊行委員会 : 神戸学術事業会 , , ISBN:9784898120798

神戸大学百年史・新制神戸大学史 / 神戸大学百年史編集委員会編集 : 神戸大学 , 2010 , ISBN:

神戸大学百年史・部局史 / 神戸大学百年史編集委員会編集 : 神戸大学 , 2005 , ISBN:

授業における使用言語

日本語

キーワード

神戸大学史 神戸大学 大学 高等教育 歴史 日本史 実務 対面と遠隔授業の併用

開講科目名	企業社会論 A			開講区分	単位数
成績入力担当	鶴田 宏樹			第2クォーター	1.0単位
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	水5	時間割コード	2U103

授業のテーマ

「企業社会論A ― 社会に学び、キャリア形成を考える（基礎編）」
（企業の第一線で活躍するゲストスピーカーによるリレー講義）
急速に進むグローバル化によって政治、経済、雇用など、あらゆる面で社会環境の変化が促されている今日、新しい価値の創造（イノベーション）を通して社会の変革をリードしてゆくことこそが、若者達に期待されている最も重要な役割です。未来の日本のリーダーとして、この役割を担い「力」を身に付け、社会の変化に流されることなく社会人、職業人として自立するためには、できるだけ早い時期から社会の変化と求めるものを積極的に学び、明確な職業観の上にたつてキャリア形成を目指すことが大切です。

「新しい価値の創造とはどういうことか」、「将来どのような仕事につきたいのか」、そして「どのように社会に関わり、どんな人生を送りたいのか」をよく考え、将来の希望進路に向けて準備を始めておくことは、かつてないほど重要になっています。

しかし、大学で学ぶ若者が、社会の現実を知る機会は限られており、新しい価値の創造を通して社会に貢献できる人材となるための心構えを身に付けたり、生きがいや幸福感を感じることができキャリア形成について明確なイメージを描くことは非常に難しいのが現状です。

授業の到達目標

「企業社会論A ― 社会に学び、キャリア形成を考える（基礎編）」
（企業の第一線で活躍するゲストスピーカーによるリレー講義）
急速に進むグローバル化によって政治、経済、雇用など、あらゆる面で社会環境の変化が促されている今日、新しい価値の創造（イノベーション）を通して社会の変革をリードしてゆくことこそが、若者達に期待されている最も重要な役割です。未来の日本のリーダーとして、この役割を担い「力」を身に付け、社会の変化に流されることなく社会人、職業人として自立するためには、できるだけ早い時期から社会の変化と求めるものを積極的に学び、明確な職業観の上にたつてキャリア形成を目指すことが大切です。

「新しい価値の創造とはどういうことか」、「将来どのような仕事につきたいのか」、そして「どのように社会に関わり、どんな人生を送りたいのか」をよく考え、将来の希望進路に向けて準備を始めておくことは、かつてないほど重要になっています。

しかし、大学で学ぶ若者が、社会の現実を知る機会は限られており、新しい価値の創造を通して社会に貢献できる人材となるための心構えを身に付けたり、生きがいや幸福感を感じることができキャリア形成について明確なイメージを描くことは非常に難しいのが現状です。

「企業社会論A」の目的は、日本を代表する企業等の第一線で活躍されているリーダーの方々を招聘し、企業活動の実態や産業界の将来展望などに関する最新情報を講義していただくことによって、神戸大学生が「新しい価値の創造者（イノベーター）」として自律的キャリアデザインを図るために必要な知識を学ぶ場を提供することです。この授業を受講することによって、イノベーションとはどのようなことであるかを具体的に理解したうえで、受講生ひとりひとりが望ましい職業観と主体的に進路を選択する能力をしっかりと身につけることを期待します。

授業の概要と計画

日本企業、外資系企業等広く産業界から、マーケティング、営業、研究開発など様々な職種の講師を招聘し、普通の大学の授業では聞くことが出来ない企業活動の実態など実社会に関する貴重な情報を学ぶ機会を設けています。特にキャリアデザインにおいては、自分が何に生きがいや幸福感を感じるのか、どんなことに遣り甲斐を感じるのかを知ることが最も大事なことです。講師の先生方には、御自身の夢や志、そして、将来の日本のリーダーとなる神戸大学生に期待する人材像についても語っていただきます。受講者生の皆さんには、自分の生き方や将来の進路に対するイメージをより明確なものにするとともに、これからの大学生活で、何をどのように学び、どんなことを経験しておくことが必要なのかを考えるきっかけにして貰いたいと願っています。

○講義日程（産業分野・講師は後日掲示）

- 第 1回 (6月15日) オリエンテーション (コーディネーター：鶴田宏樹・バリュースクール)
- 第 2回 (6月22日) ベンチャー (メルカリCHRO 木下達夫)
- 第 3回 (6月29日) 国家公務員 (経済産業省 高橋久美子)
- 第 4回 (7月6日) 自治体 (前豊岡市長 中貝宗治)
- 第 5回 (7月13日) 政治家 (元参議院議員 林久美子)
- 第 6回 (7月20日) 編集家 (編集家 松永光弘)
- 第 7回 (7月27日) 家事代行業 (ベアーズ副社長 高橋ゆき)
- 第 8回 (8月3日) まとめ (鶴田宏樹)

(注) 講師の先生方のご都合により、順番が変わることがあります。

履修を希望する学生は、5/25までに、担当教員・鶴田 (tsuruta@kobe-u.ac.jp) まで以下の情報をメールで送付してください。

・件名：2022 企業社会論A 受講希望

・文章中に、氏名・学部・学籍番号

ただし、履修希望者が定員を超えた場合は、「受講エントリーシート」(後日送付)により選考する可能性があります。

成績評価方法

毎回提出のコミュニケーションシート、講義終了後の指定課題レポート提出、それらの内容を総合的に評価します。

成績評価基準

毎回提出のコミュニケーションシート(内容評価にて各講義で最大10点)、欠席は1回2点減点、Q&Aセッションへの参加(15回の講義で1回質問するごとに1点、最大5点の加算)、講義終了後の指定課題レポート提出(15点、提出必須、期日までの提出がない者は単位認定の対象としない)により総合的に評価します。

履修上の注意(関連科目情報)

この授業はイノベーション教育およびキャリア教育の導入プログラムとして位置づけられており、1年次学生を対象としています。2年次以上も履修できます。

履修を希望する学生は、5/25までに、担当教員・鶴田 (tsuruta@kobe-u.ac.jp) まで以下の情報をメールで送付してください。

・件名：2022 企業社会論A 受講希望

・文章中に、氏名・学部・学籍番号

ただし、履修希望者が定員を超えた場合は、「受講エントリーシート」(後日送付)により選考する可能性があります。

履修しなくても自由な聴講は可能です。

この授業では、遅刻、途中入場・途中退室、私語は厳禁です。授業中携帯の電源は必ず切っておいてください。

貴重な時間を割いてこの講義のために準備し、遠路お越しくださる先生方に失礼に当たりますので、マナーを守る自信のない人やアルバイトや部活等で欠席しがちな人は履修を控えてください。毎回、授業の感想、意見、質問等を提出してもらいますので、授業中は講師のお話を静聴してください。

事前・事後学修

準備学習としては、各講師の勤務先企業等についてホームページや図書などであらかじめ調べておくこと。また、復習としては、授業で聴いた用語やキーワード、あるいは人物等について調べ、それらを自分の言葉で説明できるようにしてください。

オフィスアワー・連絡先

鶴田宏樹(つるた ひろき)

自然科学3号館4階415室 Tel: 078-803-5946 mail: tsuruta[at]kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

新しい価値の創造を目指し、自立した人間として生きてゆくためには仕事に就くことが不可欠です。仕事は経済的自立をもたらすだけでなく、社会に貢献し、それぞれの夢と志に添って自分らしく生きる自己実現の場でもあります。それゆえ、学生の皆さんにとって、将来の進路決定は、専門知識を学ぶことと並んで、最も関心の高いことだと思います。

「企業社会論A」は、来年度開講の「企業社会論B」の基礎編として、産業界の現状や将来展望、そして現実の企業や仕事についての情報を幅広く提供することによって、これからキャリアプランニングに臨む神戸大学生が、自分を見つめ、職業観を醸成する一助となるようデザインされています。皆さんの眼前に広がる現実の企業社会は計り知れないほど広くて奥深いものですから、その全てを8回の講義だけでカバーすることは到底出来ません。したがって本コースで学ぶことは現実社会のほんの一部分に過ぎないものかもしれませんが、産業界の第一線で活躍されている講師の先生方とのコミュニケーションを通じて、自分の夢と志、そして自分の可能性について必ず新たな発見ができると思います。

人生の選択肢の幅を広げ、有意義な学生生活を送るために、この授業を活用してください。

今年度の工夫

各講師に依頼し、各回のメッセージにおける多様性・統一性に配慮するとともに、メッセージの重点の確認、Q & Aセッションにおける双方向性コミュニケーションの促進に留意する。

教科書

講義当日にプリントを配付。

参考書・参考資料等

適宜授業中に指示。

授業における使用言語

日本語

キーワード

キャリア、リーダーシップ、グローバリゼーション、コミュニケーション、イノベーション

開講科目名	神戸大学の研究最前線B				
成績入力担当	葛城 浩一	開講区分		単位数	
		第2クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	火5	時間割コード	2U104

授業のテーマ

神戸大学研究憲章にも謳われているように、本学は「深く真理を探究して新たな知を創造する学術研究の拠点」として、その「固有の使命と社会的・歴史的・地域的役割を認識」し、「日本国民及び人類に貢献する責務を遂行」すべく、全教員が日々、研究に邁進しています。本講義では、神戸大学の最先端の研究について紹介し、研究科を横断して、神戸大学の魅力と将来の可能性について理解を深めてもらいます。

授業の到達目標

本学教育憲章が掲げる「人間性」「国際性」「創造性」「専門性」のそれぞれ、並びに相互の関連について、各部署の先端的な研究の紹介を通じて学び取る。

授業の概要と計画

本講義は対面で実施します。教室は時間割を参照してください。

なお、新型コロナウイルス感染拡大により授業形態が変更となった場合はBEEFでお知らせします。

法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、国際協力研究科、医学研究科、保健学研究科、農学研究科、海事科学研究科から選ばれた教員8人が、先端的な研究についてリレー式に講義を担当します。なお、順序は都合により変更することがあります。

- 第1回 現代日本の立法と選挙
- 第2回 学んでみよう！データサイエンス！
- 第3回 国際貿易現状と貿易重力方程式
- 第4回 グローバル・ガバナンスの有効性と正統性
- 第5回 皮膚がカラダを守る仕組みの科学と医学
- 第6回 臨床における高次脳機能障害とリハビリテーション
- 第7回 日本の農業に特化した農業情報システムの構築
- 第8回 力覚情報を基盤としたモーションコントロール技術

成績評価方法

毎回の授業後の課題レポートの提出状況と、学期末におけるレポートによって行います。

前者については、毎回の5限終了時以降1時間以内にミニッツ・ペーパーを提出してもらいます。それによって出欠を確認します。提出方法については、5限終了時（18時30分）から19時30分まで1時間以内にBEEF上で提出すること。

後者については、レポート課題をA群（法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、国際協力研究科）から一つ、B群（医学研究科、保健学研究科、農学研究科、海事科学研究科）から一つを選択して提出してもらいます。A群のレポートを50点、B群のレポートを50点とし、合計点をもって得点とします。なお、毎回の授業後の課題レポートは減点の材料に使われます。

成績評価基準

可否の基準は、2通とも授業内容をよく理解したうえで論理的なレポートを作成できているかどうかです。S評価は2通とも卓越したレポートを提出し、かつ毎回の授業後の課題レポートがすべて提出されている受講生にしか出しません（おおむね10%以下）。A評価、B評価、C評価は受講生のパフォーマンスによりますが、私的理由による毎回の授業後の課題レポートの不提出が所定回数（2回）を超える者、およびレポートの評価点の合計が既定の水準に達しない者はF評価となります（おおむね10%程度）。

なお、レポート課題については、第6回授業日（7月19日）に本BEEF上で発表します。レポートは、A群（1回～4回）、B群（5回～8回）の課題それぞれにつき、1200字以上1600字以内で執筆すること。締め切り日は、第8回授業より2週間後の8月16日17時00分、BEEF上で指定の場所に提出すること（件名、学部、学籍番号、字数を明記のこと、ただし学部、学籍番号や図表は字数に含めない）。以上の条件を満たさないレポートは、成績評価の対象とできないことがあります。

全授業日程終了後（最終回授業終了後）は、いかなる個人的な陳情にも応じません。大学生であれば、出席状況については自身で管理すべきことであり、問い合わせには一切応じません。

履修上の注意（関連科目情報）

原則として授業後の課題レポートの不提出回数が2回を超える者には単位を与えません。授業中のスマートフォン、タブレット、携帯電話の使用は禁止します。

事前・事後学修

オムニバス授業のため、事前・事後学修については、各回の授業担当教員がその都度指示します。神戸大学全体の研究最前線の状況については、授業を受講する前に下記の参考書籍を通読することが望ましい。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

特別な事情があって欠席する場合の連絡、成績に関する問い合わせはオーガナイザー（大学教育推進機構准教授・葛城浩一）にすること。オーガナイザーのオフィスアワーは、鶴甲第1キャンパスC棟4階C407葛城研究室にて授業日12時30分から13時30分（事前にアポをとっておくと確実です。なお、メールアドレスは初回の授業でお伝えします）。各回の授業担当教員の連絡先等については毎回の授業時にそれぞれお伝えします。

学生へのメッセージ

本講義を通じて、所属する自分の学部の枠を超えて、最先端の研究の魅力と可能性について、関心を高め、理解を深めるきっかけとしてください。今後の神戸大学での研究生活にぜひ生かして欲しいと思います。

今年度の工夫

BEEFを活用します。

教科書

必要に応じて授業中にプリントなどを配布します。

参考書・参考資料等

毎回の授業内容に関係のある参考資料等については、各回の授業担当者が紹介します。

ビジュアル版 神戸大学物語（第二版） / 神戸大学物語刊行委員会編：神戸学術事業会，2015，ISBN:9784898120910
神戸大学―”文理融合”イノベーションで世界と競う― / 河原あずみ・渡辺勉：梧桐書院，2015，ISBN:9784340402120

授業における使用言語

日本語のみ

キーワード

長文レポート

: 配慮が必要な学生はオーガナイザー教員に連絡してください。

開講科目名	ひょうご神戸学			開講区分	単位数
成績入力担当	田中丸 治哉、松下 正和			第2クォーター	1.0単位
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	月5	時間割コード	2U105

授業のテーマ

現在、「地域社会の危機」について様々な分野で議論されており、また一方で地域再生や地域づくりの取り組みが各地で行われている。この授業では、地域で活躍できる人材、地元の兵庫・神戸で地域の担い手となれる人材の育成を目的とし、兵庫・神戸地域について、経済、地理、歴史、戦災や災害、そして現状や課題などの基礎的知識についての講義をおこなう。

授業の到達目標

地域を理解するための基礎として、大学の地元である兵庫県・神戸市についての多角的な知識を身につける。

授業の概要と計画

<授業形態> 遠隔授業（リアルタイムの場合もあるためBEEFで確認すること）

<授業スケジュール>

6月13日 経済から見る兵庫・神戸のあゆみ（山地秀俊・神戸大学経済経営研究所元教授）

6月20日 兵庫県・神戸市の農業（田中丸治哉・農学研究科教授）

6月27日 兵庫県・神戸市の歴史（奥村弘・理事副学長（人文学研究科教授））

7月4日 兵庫県の現在（飯塚知香子・兵庫県企画県民部地域創生局長企画参事（地域創成担当））

7月11日 神戸市の現状と未来の姿（藤岡健・神戸市企画調整局つなぐラボ担当部長）

7月25日 兵庫県・神戸市の地理（菊地真・人文学研究科准教授）

8月1日 兵庫県の災害と戦災（佐々木和子・人文学研究科地域連携センター研究員）

8月8日 兵庫県の地域課題 地元メディアの視点から（黒田浩二・神戸新聞社地域総研地域連携部次長）

成績評価方法

毎回の授業でのコメントペーパー（80%）とレポート試験（20%）で評価する。最終レポートを提出していない場合は、それまでにコメントペーパーが提出されていたとしても不可とする。

成績評価基準

各授業回のテーマに即し、兵庫県・神戸市の現状や課題について正確に理解できているか。

履修上の注意（関連科目情報）

オムニバス授業であるため毎回コメントペーパーを提出すること。なお総合教養科目「地域社会形成基礎論」も合わせて履修することが望ましい。

事前・事後学修

事前学習：各回の授業で取り扱う項目について、BEEF上に事前掲載された参考資料（担当教員の論文など）をあらかじめ読んで上で疑問点・質問点をまとめておくこと。

事後学習：授業中に指示された参考文献、「地域づくりの基礎知識」シリーズ1～5冊（<http://www.org.kobe-u.ac.jp/kupress/pubindex.html>）を入手・参照し、授業で学んだことについてまとめること。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて

事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

随時。メールにて事前に連絡すること。

主担当教員：田中丸治哉・産官学連携本部5階地域連携推進本部

メール送信時は以下の2アドレスに同時送信すること。

ksui-chiiki(at mark)office.kobe-u.ac.jp

tanakam(at mark)kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

文部科学省は平成27年度より、人口流出県の大学、行政、企業、団体等が連携して、地域社会に貢献できる人材を育成し、若者の地元定着を促進する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）を開始した。兵庫県では神戸大学が申請校となり「地域創生に伝える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」がこれに採択された。この授業は、このCOC+事業の一環でプログラム開発した地域志向科目として開講される。共通教育科目や各学部で開講されている地域志向科目もあわせて履修し、地域社会に対する総合的な理解の上に専門性を身に付けることを期待する。

今年度の工夫

各分野の専門の研究者のほか、兵庫県・神戸市の職員、神戸新聞社の編集委員が講師となり、兵庫・神戸地域の実情を多角的に知ることができるようにしている。

教科書

使用しない。各回のレジメ・参考資料はBEEF上に事前にアップしているので各自ダウンロードしておくこと。

参考書・参考資料等

テーマごとの文献は授業中に適宜指示する。

神戸学検定公式テキスト神戸学〔改訂版〕 / 神木哲男：神戸新聞総合出版センター，2012，ISBN:978-4-343-00688-2

地域づくりの基礎知識 1 地域歴史遺産と現代社会 / 奥村弘：神戸大学出版会，2018，ISBN:978-4-909364-01-2

授業における使用言語

日本語

キーワード

地域 神戸市 兵庫県 持続可能な発展 安全（防災・減災） 実務経験教員 遠隔授業

開講科目名	地域社会形成基礎論				
成績入力担当	奥村 弘、松下 正和			開講区分	単位数
				第2クォーター	1.0単位
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	木5	時間割コード	2U106

授業のテーマ

現在、「地域社会の危機」について様々な分野で議論されており、また一方で地域再生や地域づくりの取り組みが各地で行われている。この授業では、現在、地域が直面している課題について多角的に理解し、地域社会形成の意義や、そのための取り組みについての知識を得ることを目的とし、経済・環境・福祉・歴史・法などの各分野から地域社会形成についての講義をおこなう。

授業の到達目標

地域社会の担い手となるための、地域社会・地域課題についての基礎的な知識や考え方を身につける。

授業の概要と計画

<授業形態> 遠隔授業（リアルタイムの場合もあるためBEEFで確認すること）

6月16日 現代日本の地域課題（奥村弘・理事副学長（人文学研究科教授））

6月23日 自然と共生した地域づくりにおける課題（清野未恵子・人間発達環境学研究科准教授）

6月30日 地域医療・福祉の課題（高田哲・神戸市総合療育センター 診療所長）

7月7日 事業者・大学・地域との連携（坪田卓巳・灘区地域活動支援コーディネーター）

7月14日 災害と地域（北後明彦・都市安全研究センター教授）

7月21日 地域と法・制度（金子由芳・国際協力研究科教授）

7月28日 文化から見る現代の地域社会（山地久美子・大阪府立大学客員研究員）

8月4日 地域活動とキャリアデザイン（田中美恵・キャリアセンター）

成績評価方法

毎回の授業でのコメントペーパー（80%）とレポート試験（20%）で評価する。最終レポートを提出していない場合は、それまでにコメントペーパーが提出されていたとしても不可とする。

成績評価基準

各授業回のテーマに即し、地域社会の現状や課題について正確に理解し、学問的な裏付けをもって適切な課題解決法を提示できているか。

履修上の注意（関連科目情報）

オムニバス授業であるため毎回コメントペーパーを提出すること。なお総合教養科目「ひょうご神戸学」も合わせて履修することが望ましい。

事前・事後学修

事前学習：各回の授業で取り扱う項目について、BEEF上に事前掲載された参考資料（担当教員の論文など）をあらかじめ読んだ上で疑問点・質問点をまとめておくこと。

事後学習：授業中に指示された参考文献、「地域づくりの基礎知識」シリーズ1～5冊（<http://www.org.kobe-u.ac.jp/kupress/pubindex.html>）を入手・参照し、授業で学んだことについてまとめること。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて

事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

随時。メールにて事前に連絡すること。

主担当教員：奥村弘・産官学連携本部5階地域連携推進本部

メール送信時は以下の2アドレスに同時送信すること。

ksui-chiiki(at mark)office.kobe-u.ac.jp

okumura(at mark)kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

文部科学省は平成27年度より、人口流出県の大学、行政、企業、団体等が連携して、地域社会に貢献できる人材を育成し、若者の地元定着を促進する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）を開始した。兵庫県では神戸大学が申請校となり「地域創生に伝える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」がこれに採択された。この授業は、このCOC+事業の一環でプログラム開発した地域志向科目として開講される。共通教育科目や各学部で開講されている地域志向科目もあわせて履修し、地域社会に対する総合的な理解の上に専門性を身に付けることを期待する。

今年度の工夫

多様な分野から総合的・多面的に地域を理解できるよう、各分野の専門家による講義で授業を構成している。

教科書

使用しない。各回のレジメ・参考資料はBEEF上に事前にアップしているので各自ダウンロードしておくこと。

参考書・参考資料等

テーマごとの文献は授業中に適宜指示する。

『地域づくりの基礎知識』1~5神戸大学出版会のHPを参照のこと。レポート作成時には必ず参照すること。

地域づくりの基礎知識1 地域歴史遺産と現代社会 / 奥村弘・村井良介・木村修二：神戸大学出版会，2018，ISBN:978-4-909364-01-2

地域づくりの基礎知識2 子育て支援と高齢者福祉 / 高田哲・藤本由香里：神戸大学出版会，2018，ISBN:978-4-909364-02-9
農業・農村の資源とマネジメント / 中塚雅也：神戸大学出版会，2019，ISBN:978-4-909364-04-3

授業における使用言語

日本語

キーワード

地域 経済 環境 福祉 医療 歴史 安全（防災・減災） 法 ボランティア NPO 持続可能な発展 実務経験教員 遠隔授業

開講科目名	社会基礎学（グローバル人材に不可欠な教養）				
成績入力担当	西原 圭志			開講区分	単位数
				第2クォーター	2.0単位
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	他	時間割コード	2U108

授業のテーマ

世界は冷戦終結以降、新興国の急成長や情報通信技術のめざましい進歩、金融市場のボーダレス化などにより、大交流・大競争の時代にシフトしています。
 このようなグローバル時代に活躍する人材に不可欠とされるのが社会基礎学です。
 全学部を対象とした本リレー講座では、社会基礎学とは何かを探究しながら今後の大学生活で身につけるべき知識、教養、想像力や構想力が身につきます。

授業の到達目標

社会基礎学とは何かを探究しながら、今後の大学生活で養うべき知識、教養、想像力および構想力を全学部の受講生と共に身につけます。

授業の概要と計画

以下の分野にプライオリティを置き、産業界・官界・政界のトップリーダーがリレー形式で講義を実施、皆さんとともに考えます。
 「グローバル化」、「金融」、「政治・政策」、「安全保障」、「産業」、「技術」、「インフラ」、「アジア」、「社会・報道」、「食料・食品」
 以下の日程で、土曜日の3、4時限あるいは2、3、4時限を用いた短期間集中授業を実施します。
 ①6月18日：ガイダンスとテーマ1
 ②6月25日：テーマ2、3、4
 ③7月2日：テーマ5、6、7
 ④7月9日：テーマ8、9、10
 ⑤7月16日：テーマ11、12、13
 ⑥7月30日：総括、期末試験

成績評価方法

期末試験の受験のためには、全14コマの講義（1日目が2コマ、2～5日目が各3コマの計算）のうち、10コマ以上の出席が必要。
 成績評価は試験結果100%とします。

成績評価基準

期末試験で60%以上の得点を合格とします。

履修上の注意（関連科目情報）

準備学習としては、講義テーマや講師の所属先等について、インターネットや図書などであらかじめ調べておいてください。
 また、講義時間内に質疑時間を設けるので、わからなかったことや興味を持ったこと等について、積極的に質問・議論し、講義に参加してください。
 復習としては、講義の中で興味を持った内容について、自分なりに好奇心を持って調べ、周囲と議論するようにしてください。

事前・事後学修

学内の以下のサイトに講義スライドを事前掲載します。各講義内容は図書等で予め調べておいてください。
 講義時間内に質疑時間を設けますので、わからなかったことや興味を持ったこと等について、積極的に質問・議論し、講義に参加してください。また、講義中にコミュニケーションシートを配布し講師宛に感想・コメントを記載していただきますので、毎回必ず提出して下さい。
 復習としては、講義の中で興味を持った内容について、自分なりに好奇心を持って調べ、周囲と議論するようにしてください。
 また、前回提出したコミュニケーションシートに対する講師のコメントを通知しますので参考にしてください。
 本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

職 名：産官学連携本部 准教授（知的財産部門長）

氏 名：西原 圭志

連絡先電話：078-803-5423

（携帯：070-2455-6387）

E-Mail Address：knishi@port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

講義全体のキーワードである、「グローバル化とは何か?」、「グローバル化の中で日本は?」について理解し、大競争時代の事実認識についての強い関心と好奇心、グローバル時代にチャレンジするための備えに取り掛かることを期待します。

本科目は対面授業を前提としていますが、感染症対策等の理由で対面での授業が実施できない状況になりましたら、授業の中止もしくはオンラインでの実施となる可能性があります。

今年度の工夫

各回の講義がリレー形式でつながっていくように配慮します。

教科書

講義当日にプリントを配付します。

参考書・参考資料等

講義資料を以下のサイトから事前ダウンロード可能

（「人材育成」からリンク）

授業における使用言語

日本語

キーワード

グローバル化 インフラ 政治・政策 産業 技術 安全保障 金融 アジア 社会・報道 社会基礎学 大競争時代 チャレンジ リレー講義

開講科目名	海への誘い		
成績入力担当	世良 亘、藤本 昌志、廣野 康平、淵 真輝、三輪 誠、小西 宗、猪野 杏樹	開講区分	単位数
		第2クォーター	2.0単位
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	他
		時間割コード	2U109

授業のテーマ

大阪湾を題材として海運の現況及び海の利用についての検討と考察を促すことを目的としています。
海事科学研究科附属練習船「海神丸」や大型クルーザーヨット「クライナーベルク」等の実際の船舶の乗船・操縦

授業の到達目標

国民生活を支える海運と接点としての港湾の紹介、さらには「海の利用」についての実習や見学を通じて、受講者各位の学究活動等との関係性についてそれぞれの解釈を得る。

授業の概要と計画

「対面」です。
4日間の集中講義形式です。
前半二日（講義）：全般のガイダンスと諸注意、海の利用に関する諸側面、海運一般、船舶の機関、船舶の構造と運動、船舶の運航、大阪湾と阪神港の紹介
後半二日（実習）：練習船「深江丸」による大阪湾航海、神戸海洋博物館の見学、モータボート「白鷗」の操縦体験、クルーザーヨット「クライナーベルク」によるセーリングスポーツ体験

担当教員（団）は、船舶・舟艇の運航実務および教育・訓練の経験があり、各実習プログラムでは、自主的で積極的な参加を促すと同時に、安全の確保を確実にする。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況等により、計画に変更が生じる可能性があります。

成績評価方法

課題レポートによる評価（80%）、講義・実習への積極的な参加の程度（質問・発言・リーダーシップやフォロワーシップの発揮）についての評価（20%）

成績評価基準

課題レポートでは、以下の視点で評価します。
この授業では種々のトピックを紹介し、実体験をしてもらうこととなります。受講者にはそれぞれの感性・観点があるはずですので、少なくとも五つのトピックを事実（ファクト）として踏まえて、独自の考察を展開していることを求めます。特に、大学での専門分野との関係性についての言及を求めます。
ただの「感想文」は採点対象としません。
当方の提供できたトピックスについての自らの解釈を、事実についての記述を伴って整理するとともに、補足的な情報を収集しながらの考察を加え、問題点の指摘や改善提案までの検討に至るをもって満点とします。
また、講義や実習においては受け身一方ではなく、積極的に参加する姿勢を求めます。

履修上の注意（関連科目情報）

通例として、7月上旬に事前説明会の開催し、そこで詳細な説明をします。国際教養教育院からの案内に留意してください。

事前・事後学修

事前の学修として事前レポートを課します。この事前レポートは受講者選考の根拠として利用します。テーマは受講希望者が考える「生活と海運・海事一般との関わり」とします。事後の学修として、課題レポートの作成をあてます。この作成を通じて、事前レポートを包含しながら、この授業で得たものを体系化してください。

オフィスアワー・連絡先

メールでの連絡を前提とします。
hirono@maritime.kobe-u.ac.jp
適宜コンタクトをください。

学生へのメッセージ

事前レポートのテーマには皆さんに対して、それぞれ自発的な問題意識を持って貰いたいという意図があります。その問題意識を本授業（実践）を通じて得た知見なりを以って深めてください。

今年度の工夫

海神丸の実習において新造船としての機能紹介を伴うこととする。

教科書

授業中にプリント等を配布します。

参考書・参考資料等

特にありません。

授業における使用言語

日本語
日本語

キーワード

長文レポート 海運 港湾 海の利用 大阪湾 実務経験教員

開講科目名	瀬戸内海学入門				
成績入力担当	羽生田 岳昭、上井 進也、奥田 昇、大沼 亮、堀江 好文、三村 治夫、林 美鶴、岡村 秀雄	開講区分	単位数		
		第2クォーター	2.0単位		
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	他	時間割コード	2U110

授業のテーマ

瀬戸内海は海の恵みと温暖な気候により人類に豊かな生活・生産の場を与えてきた。沿岸部には古くから人工が集約し、人間活動が営まれ、その長い歴史をとおして文化・産業・交通などを発達させてきた。1960年代以降、工業化に伴う海水汚染や埋め立てによる自然海浜の消失により瀬戸内海は瀕死の状態になったが、近年きれいな海が戻りつつある。この身近な瀬戸内海を題材に自然環境を考えてもらうことが目的である。

受講者には、(1)瀬戸内海の自然環境、人類との関わり・開発の歴史などを海洋科学、海洋生物学、海洋環境科学などの見地から理解し、(2)内海域がもつ海としての機能や特異性などを認識し、将来の人間生活と海との共存、失われた自然の回復などについて考える力を身につけてもらう。

授業の到達目標

授業を契機に、身近な海の自然や環境について深く理解し、将来の海の活用や保全に関して自らの意見がもてることをめざす。

授業の概要と計画

講義+実習の集中講義（3日間）として開講する。

○講義の内容

テーマ 担当教員（内海域；内海域環境教育研究センター）

1. 瀬戸内海の歴史と生物多様性 上井進也（内海域・教授）
2. 海洋環境の汚染 岡村秀雄（内海域・教授）
3. 海洋細菌群集と環境 三村治夫（海洋政策科学・教授）
4. 安定同位体から環境問題を紐解く 奥田 昇（内海域・教授）

○実習の内容

1. 乗船実習（海神丸、おのころに分かれて行う）
大阪湾の海水、海底堆積物、プランクトンの採取・調査
上井、岡村、三村、林、大沼、堀江
2. 実験実習 上井、大沼、岡村、三村、林、堀江
海洋生物学実習、環境生化学実習、海洋物理学実習

成績評価方法

出席とレポートにより評価する。

成績評価基準

実習に参加する。授業・実習の内容を理解している。

履修上の注意（関連科目情報）

定員32名。講義を6月4日（土）、実習を6月11日（土）、12日（日）に予定している。これらの日程の全てに出席できることは必須。また、乗船は必須なのでそれが可能なこと。応募者数が定員を超過した場合は、所属学部への偏りがないように抽選を行う。受講者選別を兼ねたガイダンスを4月初旬に開く予定である。ガイダンスに出席していない場合は、原則として履修を認めない。ガイダンスの案内は掲示、あるいは国際教養教育院ホームページで通知するので注意すること。

事前・事後学修

実習は講義の1週間後に行う。実習には、講義内容を復習して理解したうえで挑むこと。

オフィスアワー・連絡先

昼休み・理学部C220（上井）

学生へのメッセージ

机上の学問とは違う野外での実習・調査の重要性を実感して欲しい。授業には必ず出席すること。

今年度の工夫

実習の班分けは学部が偏らないよう工夫する。

教科書

教科書は使用しない

参考書・参考資料等

瀬戸内海の自然と環境 / 柳哲夫・合田健 : 神戸新聞総合出版センター , 1998 , ISBN:4875219512

日本の海産プランクトン図鑑 / 末友靖隆編著 : 共立出版 , 2013 , ISBN:9784320057289

授業における使用言語

日本語

キーワード

瀬戸内海 環境 海洋 汚染 自然史

開講科目名	社会と人権 A				
成績入力担当	塚田 哲之	開講区分		単位数	
		第3クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	水2	時間割コード	3U081

授業のテーマ

現代の日本社会における人権に関わる問題を社会的・歴史的背景をふまえて検討することを通して、人権を保障することの意味とそこに現れた現代の日本社会の特質について考える。

授業の到達目標

当該問題の内容を歴史的・社会的文脈をふまえて深く理解し、かつ自らの見解を形成して、異なる見解を持つ者と合理的な議論ができるようになる。

授業の概要と計画

[授業形態]

- ・対面授業
- ・この授業は、担当者による講義形式で実施するが、適宜質疑の機会を設ける（リアクション・ペーパーへの応答を含む）。
- ・なお、新型コロナウイルス拡大により授業形態が変更となった場合はBEEFでお知らせします。

[授業概要と視角]

・この授業では、「人権」というコンセプトについて概説した上で、現在の日本社会において実際に生じている人権に関わる具体的な問題を複数取り上げて検討する（1クォーターで取り上げるトピックは3～4を予定している）。担当者の専攻（法律学の一分野としての憲法学）の関係上、法的観点からの紹介・検討が多くなるが、法的知識の修得よりも、問題の社会的背景や見解の対立の背後にあるものを解説することに重点を置く。

[授業予定]

- 第1回：オリエンテーション（授業概要の説明）
- 第2-3回：「人権」の歴史と考え方
- 第4-7回：現代日本における人権問題（原則として各回1トピック）
- 第8回：まとめ・試験

※取り上げる可能性のあるトピックの例示：

- ・女性労働者の就労環境、ポジティブ・アクション
- ・日本の労働環境と「働き方改革」
- ・生殖補助医療等生命倫理と人権
- ・セクシュアル・マイノリティに関わる問題（同性婚など）
- ・家族間における平等
- ・ヘイト・スピーチの法規制
- ・インターネット上の人権侵害
- ・芸術活動と公的助成

なお、上記の具体的なトピックはあくまで例示であり、授業開始時まで、あるいは進行中に生じた「旬」の問題も積極的に取り上げたい。また、トピックの選択は、第1回の授業で受講生の希望を聴いた上で決定する予定（後出「履修上の注意（関連科目情報）」も参照のこと）。

成績評価方法

期末試験（論述式）75%、授業への参加状況・提出ペーパー25%。
 なお、試験については、レポートに代える可能性がある。詳細は、授業中およびBEEFで告知する。

成績評価基準

授業で扱ったトピックについて、(1)内容が適切に理解できているか、(2)異なる見解の存在をふまえ、自らの見解が論理的かつ説得的に示されているか、(3)文章表現力、の諸点に照らして評価する。

履修上の注意（関連科目情報）

- ・各トピックに関する資料は原則として事前に配布する（あらかじめ目を通した上で課題・問題を指摘するペーパー提出を課すこともある）。また、各トピックの検討後にはリアクション・ペーパー提出を課す。これらを通して、受講生自身が問題を発見する機会とともに、授業内容を振り返りつつ自らの見解を形成する機会を設ける。受講生には、取り上げるトピックについて自らも関わる可能性があるものとして考える姿勢が求められる。
- ・授業で使用する資料については、LMS（BEEFおよびGoogle Classroom）を利用して配布するので、インターネット接続環境（Wi-Fi推奨）およびノートPC・タブレット端末・プリンタなど受講に必要な機材およびアプリケーション（ブラウザ、MS-Wordは必須）を準備しておくことが必須である。
- ・本授業で扱った具体的トピックについては、第4クォーターに開講される「社会と人権B」（塚田担当）では原則として扱わない予定。

事前・事後学修

- ・事前学修としては、配付資料を読んだ上で、問題の所在をまとめておくことが期待される。
- ・事後学修としては、講義内容をまとめた上で、事前の自己の思考・見解を反省的に検証することが期待される。
- ・事前・事後をあわせた授業外の学習時間の目安は、1回あたり少なくとも2時間程度。
- ・日々生ずる問題への関心を持つため、新聞を毎日熟読するとともに、自ら関連資料を探索・検討する姿勢を期待する。本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

授業内容等に関する質問は、提出ペーパーのほか、各回の授業終了後に受け付ける。電子メールでは随時可。
tsukada@law.kobegakuin.ac.jp

学生へのメッセージ

現に日本で生じている人権についての具体的問題を通して、人権とは何か、みなさん自身が生きるこの日本社会とはどのようなものなのか、問題があるとすればどのようにすればよいのかを考える機会にできればと思います。自ら課題を発見し、主体的かつ批判的に考える意欲を持って受講することを期待します。

今年度の工夫

各種資料（統計・新聞記事等）を活用し、具体例から抽象的・原理的思考につなげる。

教科書

特定の教科書は指定しない。適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

人権をめぐる十五講：現代の難問に挑む / 辻村みよ子：岩波書店，2013，ISBN:9784000291170
人権を創造する / リン・ハント：岩波書店，2011，ISBN:9784000234986
コンセプトとしての人権：その多角的考察 / マイケル・フリーマン：現代人文社，2016，ISBN:9784877986612

授業における使用言語

日本語

キーワード

人権 少数者 現代日本社会 憲法

開講科目名	EU基礎論				
成績入力担当	吉井 昌彦	開講区分		単位数	
		第3クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	月5	時間割コード	3U101

授業のテーマ

この授業では、EUの歴史、仕組み、経済、政治、安全保障、文化と社会など多様な側面からEUに関する講義が行われます。この授業を履修することにより、EUとは何か、その現状はどのようなものかなど、EUの基礎知識を得ることができます。[EUIJ科目]

授業の到達目標

EUの歴史、仕組み、経済、政治、安全保障、文化と社会など多様な側面に関する基礎的知識を理解できるようになることを目標とします。

授業の概要と計画

1 授業形態

対面で行います。新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては遠隔に変更となる場合があります。変更時はBEEF等でお知らせします。

2 授業概要

導入としてEUの歴史・仕組みを学んだ後、EUに関して法律・政治・経済・社会文化などの多様な側面から講義が行われます。これらを受けてEUの将来を考えます。

- 1 10/ 3 EUとは何か：深化と拡大（吉井昌彦E）
- 2 10/17 市場・通貨統合とその成果（吉井昌彦E）
- 3 10/24 EUの法的基盤とEU基本権（井上典之J）
- 4 10/31 EU統合における文化摩擦と共生（新川匠郎C）
- 5 11/ 7 EU統合と国内政治の変容（安井宏樹J）
- 6 11/14 EU統合と欧州議会・選挙（新川匠郎C）
- 7 11/21 日EU関係とEUの行方（吉井昌彦E）
- 8 11/28 まとめ・試験

成績評価方法

定期試験（80%）と各授業のクイズ・小レポート（20%）により評価します。

成績評価基準

授業の到達目標に書かれたEUに関する基礎知識の理解度に応じて評価する。

履修上の注意（関連科目情報）

EUという国際政治・経済等で重要な組織であるが、初学者になじみのない組織に関する講義であるので、自分で調べる、講師に質問するなど積極的に授業に臨んで欲しい。また、新聞、TV等で流れるEUに関するニュースに関心を持って触れることにより講義内容の理解を深めて欲しい。

事前・事後学修

各回の授業で取り扱う項目について、BEEFに事前掲載した資料を読み、概要を把握した上で、疑問点をまとめておくこと。また、各回の講義内容を復習するとともに、参考書にあげたEUの基礎知識に関する本を読み進めて欲しい。本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行って下さい。

オフィスアワー・連絡先

原則として各授業の前後の時間に質問等をお願いします。必要な場合は、yoshii*kobe-u.ac.jp (*->)に連絡の上、アポをとって下さい。

学生へのメッセージ

この科目は、EUIJ関西による「EU研究修了証プログラム」の導入科目です。このプログラムは、EUの法・政治・経済・文化・社会・自然科学など幅広い分野を学ぶことにより、将来国際的に活躍する基礎を身に付けるためのものです。ぜひプログラムに登録して下さい。

今年度の工夫

各授業のクイズ・小レポートは、各授業の内容に基づいて出題し、授業終了後に提出してもらいます。クイズ・小レポートに回答できるよう分かりやすい講義を行います。授業を真剣に聞いて下さい。

教科書

教科書はありません。各授業の資料をBEEFで配布します。

参考書・参考資料等

EUの基礎知識 / 藤井良広 : 日経文庫, 2013年, ISBN:

EU経済入門 / 本田雅子・山本いづみ編著 : 文真堂, 2019年, ISBN:

よくわかるEU政治 / 坂井一成・八十田博人編著 : ミネルヴァ書房, 2020年, ISBN:

授業における使用言語

日本語

キーワード

EU 欧州連合 深化 拡大 ユーロ

開講科目名	ひょうご神戸学				
成績入力担当	松下 正和	開講区分		単位数	
		第3クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	月5	時間割コード	3U102

授業のテーマ

現在、「地域社会の危機」について様々な分野で議論されており、また一方で地域再生や地域づくりの取り組みが各地で行われている。この授業では、地域で活躍できる人材、地元の兵庫・神戸で地域の担い手となれる人材の育成を目的とし、兵庫・神戸地域について、経済、地理、歴史、戦災や災害、そして現状や課題などの基礎的知識についての講義をおこなう。

授業の到達目標

地域を理解するための基礎として、大学の地元である兵庫県・神戸市についての多角的な知識を身につける。

授業の概要と計画

<授業形態> 遠隔授業（リアルタイムの場合もあるためBEEFで確認すること）

<授業スケジュール>

- 10月3日 経済から見る兵庫・神戸のあゆみ（山地秀俊・神戸大学経済経営研究所元教授）
- 10月17日 兵庫県・神戸市の歴史〈古代・中世〉（松下正和・地域連携推進本部特命准教授）
- 10月24日 兵庫県・神戸市の歴史〈近世・近代〉（奥村弘・理事副学長（人文学研究科教授））
- 10月31日 兵庫県の現在（今井良広・兵庫県企画県民部地域創生局長）
- 11月7日 神戸市の現状と未来の姿（藤岡健・神戸市企画調整局つなぐラボ担当部長）
- 11月14日 兵庫県・神戸市の地理（菊地真・人文学研究科准教授）
- 11月21日 兵庫県の災害と戦災（佐々木和子・人文学研究科地域連携センター研究員）
- 11月28日 兵庫県の地域課題 地元メディアの視点から（西栄一・神戸新聞社地域創研副所長）

成績評価方法

毎回の授業でのコメントペーパー（80%）とレポート試験（20%）で評価する。最終レポートを提出していない場合は、それまでにコメントペーパーが提出されていたとしても不可とする。

成績評価基準

各授業回のテーマに即し、兵庫県・神戸市の現状や課題について正確に理解できているか。

履修上の注意（関連科目情報）

オムニバス授業であるため毎回コメントペーパーを提出すること。なお総合教養科目「地域社会形成基礎論」も合わせて履修することが望ましい。

事前・事後学修

事前学習：各回の授業で取り扱う項目について、BEEF上に事前掲載された参考資料（担当教員の論文など）をあらかじめ読んだ上で疑問点・質問点をまとめておくこと。

事後学習：授業中に指示された参考文献、「地域づくりの基礎知識」シリーズ1～5冊（<http://www.org.kobe-u.ac.jp/kupress/pubindex.html>）を入手・参照し、授業で学んだことについてまとめること。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて

事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

随時。メールにて事前に連絡すること。

主担当教員：松下正和・産官学連携本部5階地域連携推進本部

m_matsushita@port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

文部科学省は平成27年度より、人口流出県の大学、行政、企業、団体等が連携して、地域社会に貢献できる人材を育成し、若者の地元定着を促進する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）を開始した。兵庫県では神戸大学が申請校となり「地域創生に伝える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」がこれに採択された。この授業は、このCOC+事業の一環でプログラム開発した地域志向科目として開講される。共通教育科目や各学部で開講されている地域志向科目もあわせて履修し、地域社会に対する総合的な理解の上に専門性を身に付けることを期待する。

今年度の工夫

各分野の専門の研究者のほか、兵庫県・神戸市の職員、神戸新聞社の編集委員が講師となり、兵庫・神戸地域の実情を多角的に知ることができるようにしている。

教科書

使用しない。各回のレジメ・参考資料はBEEF上に事前にアップしているので各自ダウンロードしておくこと。

参考書・参考資料等

テーマごとの文献は授業中に適宜指示する。

神戸学検定公式テキスト神戸学〔改訂版〕 / 神木哲男：神戸新聞総合出版センター，2012，ISBN:978-4-343-00688-2
地域づくりの基礎知識 1 地域歴史遺産と現代社会 / 奥村弘：神戸大学出版会，2018，ISBN:978-4-909364-01-2

授業における使用言語

日本語

キーワード

地域 神戸市 兵庫県 持続可能な発展 安全（防災・減災） 実務経験教員 遠隔授業

開講科目名	環境学入門A				
成績入力担当	神尾 英治、堀江 修			開講区分	単位数
				第3クォーター	1.0単位
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	火5	時間割コード	3U104

授業のテーマ

地球環境問題は今世紀最大の課題となっている。本講義「環境学入門A」では、自然科学の立場から、幅広く環境に関する基礎知識とアプローチ方法を講義する。

授業の到達目標

様々な環境問題やそれに対する多様な解決法について、自然科学の立場から網羅的な理解を達成し、自分自身の考え方や創造的なアイデアを構築出来るようになることを目標とする。

授業の概要と計画

①授業形態：対面授業

②授業概要と計画

- 1回： イントロダクション（環境保全推進センター副センター長）
- 2回： 環境と生態系（丑丸 敦史 人間発達環境学研究科）
- 3回： 環境と生命（星 信彦 農学研究科）
- 4回： 環境と資源・エネルギー（石田 謙司 工学研究科）
- 5回： 環境と災害（金崎 真聡 海事科学研究科）
- 6回： 環境と化学（梶並 昭彦 工学研究科）
- 7回： 環境と人体（堀江 修 天理医療大学）
- 8回： 全体総括（環境保全推進センター副センター長）

講義の順番は変更になる場合があります。

成績評価方法

毎回、講義の終了後に小レポートを課す。

提出等はBEEFから提出（ただし、教員から指示があった場合は指示に従ってください）。8回目には全体総括を行い、直ちに最終レポートまたは最終試験を課す。小レポートと最終レポート（または最終試験）の総合で評価する。

小レポート50%、最終レポート（試験）50%で評価する。

講義に出席しないと小レポートを提出することが出来ない場合があるので注意すること。

成績評価基準

出題された内容について、自らが習得している知識全てを用いて、詳細かつ適切な説明が最大限実現できているかで評価する。

履修上の注意（関連科目情報）

授業計画は現在の予定であり、講義の順番や内容は変更する場合がありますので、開講時に最新版を配布する予定である。環境学入門Bを併せて受講することを勧める。

事前・事後学修

事前学修：各回の授業で取り扱う項目について、キーポイントを各自まとめておくこと。BEEFに講義資料がアップロードされる場合もあるので、随時確認のこと。

事後学修：配付された講義資料、講義中の小テストやレポート課題の内容を再確認すること。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

事前にアポイントを取ってください。

担当：神尾

研究室：先端膜工学研究拠点601-1

連絡用メールアドレス：e-kamio@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

総合大学神戸大学ならではの多彩な講師陣で構成された、環境に関するオムニバス形式の総合科目である。

今年度の工夫

最新の環境問題をリサーチし、講義に反映させている。

教科書

教科書は特に指定しない。

必要に応じて資料を配付します。

参考書・参考資料等

環境学入門 / 神戸大学環境管理センター環境教育専門部会 : アドスリー , 2011 , ISBN:4904419278

授業における使用言語

日本語

授業英語化カテゴリ：C

資料・板書は英語と日本語を併用するが、講義は日本語で行う。

キーワード

環境 自然 生態 生命 人体 海 化学 資源 エネルギー 対面と遠隔授業の併用

開講科目名	神戸大学の研究最前線 A				
成績入力担当	葛城 浩一	開講区分		単位数	
		第3クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	火5	時間割コード	3U105

授業のテーマ

神戸大学研究憲章にも謳われているように、本学は「深く真理を探究して新たな知を創造する学術研究の拠点」として、その「固有の使命と社会的・歴史的・地域的役割を認識」し、「日本国民及び人類に貢献する責務を遂行」すべく、全教員が日々、研究に邁進しています。本講義では、神戸大学の最先端の研究について紹介し、研究科を横断して、神戸大学の魅力と将来の可能性について理解を深めてもらいます。

授業の到達目標

本学教育憲章が掲げる「人間性」「国際性」「創造性」「専門性」のそれぞれ、並びに相互の関連について、各部署の先端的な研究の紹介を通じて学び取る。

授業の概要と計画

本講義は対面で実施します。教室は時間割を参照してください。なお、新型コロナウイルス感染拡大により授業形態が変更となった場合はBEEFでお知らせします。

人文学研究科、国際文化学研究科、人間発達環境学研究科、国際コミュニケーションセンター、理学研究科、工学研究科、システム情報学研究科、科学技術イノベーション研究科から選ばれた教員8人が、先端的な研究についてリレー式に講義を担当します。なお、順序は都合により変更することがあります。

- 第1回 社会的孤立・孤独の科学
- 第2回 観光と現代世界
- 第3回 災害廃棄物から考える防災・減災
- 第4回 フランス抒情詩における抒情的主体の成立とその変遷
- 第5回 植物の輸送管を創って、調べる
- 第6回 構造物の高性能化および安全性・耐久性向上に貢献する非破壊検査法の開発
- 第7回 計算分子生物学：インシリコ創薬と量子生命科学への応用
- 第8回 低炭素・脱炭素社会に貢献する先端膜の研究開発

成績評価方法

毎回の授業後の課題レポートの提出状況と、学期末におけるレポートによって行います。

前者については、毎回の5限終了時以降1時間以内にミニッツ・ペーパーを提出してもらいます。それによって出欠を確認します。提出方法については、5限終了時（18時30分）から19時30分まで1時間以内にBEEF上で提出すること。

後者については、レポート課題をA群（人文学研究科、国際文化学研究科、人間発達環境学研究科、国際コミュニケーションセンター）から一つ、B群（理学研究科、工学研究科、システム情報学研究科、科学技術イノベーション研究科）から一つを選択して提出してもらいます。A群のレポートを50点、B群のレポートを50点とし、合計点をもって得点とします。なお、毎回の授業後の課題レポートは減点の材料に使われます。

成績評価基準

合否の基準は、2通とも授業内容をよく理解したうえで論理的なレポートを作成できているかどうかです。S評価は2通とも卓越したレポートを提出し、かつ毎回の授業後の課題レポートがすべて提出されている受講生にしか出しません（おおむね10%以下）。A評価、B評価、C評価は受講生のパフォーマンスによりますが、私的理由による毎回の授業後の課題レポートの不提出が所定回数（2回）を超える者、およびレポートの評価点の合計が既定の水準に達しない者はF評価となります（おおむね10%程度）。

なお、レポート課題については、第6回授業日（11月8日）に本BEEF上で発表します。レポートは、A群（1回～4回）、B群（5回～8回）の課題それぞれにつき、1200字以上1600字以内で執筆すること。締め切り日は、第8回授業より2週間後の12月13日17時00分、BEEF上で指定の場所に提出すること（件名、学部、学籍番号、字数を明記のこと、ただし学部、学籍番号や図表は字数に含めない）。以上の条件を満たさないレポートは、成績評価の対象とできないことがあります。

全授業日程終了後（最終回授業終了後）は、いかなる個人的な陳情にも応じません。大学生であれば、出席状況については自身で管理すべきことであり、問い合わせには一切応じません。

履修上の注意（関連科目情報）

原則として授業後の課題レポートの不提出回数が2回を超える者には単位を与えません。授業中のスマートフォン、タブレット、携帯電話の使用は禁止します。

事前・事後学修

オムニバス授業のため、事前・事後学修については、各回の授業担当教員がその都度指示します。神戸大学全体の研究最前線の状況については、授業を受講する前に下記の参考書籍を通読することが望ましい。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

特別な事情があって欠席する場合の連絡、成績に関する問い合わせはオーガナイザー（大学教育推進機構准教授・葛城浩一）にすること。オーガナイザーのオフィスアワーは、鶴甲第1キャンパスC棟4階C407葛城研究室にて授業日12時30分から13時30分（事前にアポをとっておくと確実です。メールアドレスは初回の授業でお伝えします）。各回の授業担当教員の連絡先等については毎回の授業時にそれぞれお伝えします。

学生へのメッセージ

本講義を通じて、所属する自分の学部の枠を超えて、最先端の研究の魅力と可能性について、関心を高め、理解を深めるきっかけとしてください。今後の神戸大学での研究生生活にぜひ生かして欲しいと思います。

今年度の工夫

BEEFを活用します。

教科書

必要に応じて授業中にプリントなどを配布します。

参考書・参考資料等

毎回の授業内容に関係のある参考資料等については、各回の授業担当者が紹介します。

ビジュアル版 神戸大学物語（第二版） / 神戸大学物語刊行委員会編：神戸学術事業会，2015，ISBN:9784898120910
神戸大学―”文理融合”イノベーションで世界と競う― / 河原あずみ・渡辺勉：梧桐書院，2015，ISBN:9784340402120

授業における使用言語

日本語のみ

キーワード

長文レポート

: 配慮が必要な学生はオーガナイザー教員に連絡してください。

開講科目名	企業社会論B				
成績入力担当	祇園 景子、鶴田 宏樹	開講区分		単位数	
		第3クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	水5	時間割コード	3U107

授業のテーマ

「企業社会論B － 21世紀の教養」
(学問の入り口に立って何をすべきか)

皆さんは大学に入学し共通教育の授業を受け、そして専門分野についての学びの入り口に立っています。自らの興味・関心に基づいて学びたいことを考え、さまざまな授業を受けていることと思います。いずれ皆さんは高度な知識を身につけて社会へ飛び立って行きます。このことは社会にとってどんな意義があるのでしょうか。現代社会は不確実性の高い社会と言われ、過去の延長線上での予測・予見が困難です。未来を予測するのではなく、望むべき未来をイメージし、バックキャスト思考で今なすべきことを考えることが求められています。そして、その結果を「イノベーション」というのではないのでしょうか。様々な解釈がある「イノベーション」ですが、2016年の日本政府が策定した第4期科学技術基本計画では、「科学技術イノベーション」とは「科学的な発見や発明などによる新たな知識を基にした知的・文化的価値の創造と、それらを発展させて経済的・社会的・公共的価値の創造に結びつける革新」とされています。学生が大学で学んだ新たな知識を基に社会で価値を創造し、それを広めていくことは、未来社会の構築の一助となります。皆さんの興味と関心が起点となって未来の社会が創られるのです。ですから、在学中に自らが持つ興味・関心を捉え、学ぶことと向き合う機会をもってほしいと考えています。

本授業では、未来社会を構築して、発展させる原動力となる「学問」を知るために、本講義では、①自らを内省し、②必要な情報を集め、③自らの興味・関心を表現し、④他者の意見に傾聴する力をグループディスカッション形式で学びます。特に、他者とのコミュニケーションについては、古代ギリシャの哲学者・アリストテレスの著書「弁論術」の中で記されている、「パトス(感情)」「ロゴス(論理)」「エトス(人徳)」の考え方を取り入れます。グループディスカッションを通じて、人文・社会科学系、自然科学系、応用科学系など全ての学問分野の人と接し、パトス・ロゴス・エトスをもって他者を説得して動かすコミュニケーションの習得も図ります。

授業の到達目標

- 以下の5項目を身につけることを目標とします。
- ・ 学問を理解し、学ぶ理由を考える力
 - ・ 情報・知識を収集する力(検索する力と情報提供者とのコミュニケーション能力)
 - ・ 情報の分析・評価する能力
 - ・ 学問に対する興味・関心を表現する力
 - ・ 他者の学問に対する意見・価値観を傾聴する力

授業の概要と計画

関連授業である「企業社会論A」では、社会にインパクトを与えている企業で中心的な役割を担っている方々に、大学において学んだこと、学ばなかったことなどを話してもらい、現在社会における企業の役割と社会に影響を与える学問について議論を行内容になっています。その内容を受けて、本授業では、学問の入り口に立っている学生自らの興味・関心の顕在化、これからの大学での学びに必要な情報の取得・評価についての技法、そして、他者の考えへの傾聴・共感する力を学ぶことによって、今後の学問へ向かい合う姿勢を体得します。

○授業内容（内容は変更することがあります）

- イントロダクション：これまでの授業の沿革と焦点について
- 学問とは何かを考える
- 「知らないこと」を考える
- 大学で学びと社会（企業社会）における意義を考える
- これから履修する授業を考える

受講希望の学生は、9/28正午までに、鶴田（tsuruta@kobe-u.ac.jp）に、

件名：企業社会論B受講希望

内容：学籍番号、氏名、メールアドレスを送付してください。

受講者の上限は40名程度とします。

大幅に超えた場合には、エントリーシートの提出による選抜を行うことがあります。

成績評価方法

出席、提出レポートの内容評価、授業中のディスカッション参加状況により総合的に評価します。

成績評価基準

出席（40点）、提出レポートの内容評価（40点）、授業中のディスカッション参加状況（20点）、により総合的に評価します。

履修上の注意（関連科目情報）

新型コロナウイルスの感染状況によるが、基本的に対面形式とする。余儀なく登校できない場合はオンラインでも受講可とします。この授業の定員は約40名です。

履修希望者が定員を超えた場合は、「受講エントリーシート」により選考する可能性があります。

ディスカッション形式の演習を含むため基本的に全回出席できる学生が対象です。

この授業の関連科目は、第2Q開講の「企業社会論A」、第2Q開講の「Creative School基礎編」、第3Q～4Q開講の「Creative School応用編」です。この授業はイノベーション教育およびキャリア教育のプログラムとして位置づけられており、1年次学生を対象としていますが、2年次以上も履修できます。この授業では、遅刻、途中入場・途中退室は厳禁です。

受講希望の学生は、9/28正午までに、鶴田（tsuruta@kobe-u.ac.jp）に、

件名：企業社会論B受講希望

内容：学籍番号、氏名、メールアドレスを送付してください。

受講者の上限は40名程度とします。

大幅に超えた場合には、エントリーシートの提出による選抜を行うことがあります。

事前・事後学修

特になし。

オフィスアワー・連絡先

鶴田宏樹（つるた ひろき）

自然科学3号館4階415室 Tel: 078-803-5946 mail: tsuruta[at]kobe-u.ac.jp

祇園景子（ぎおん けいこ）

工学部 2W-204 mail: kgion[at]port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

(教員からのメッセージ)

未来社会を創造する次の担い手は皆さんです。未来を切り拓くために、教養を身につけ、新しい価値の創造を実現するためには、今まで自分がやってきたことの意味と意義を知ること、今自分がやっていることはどのような結果を生むのか、そして今後自分がやるべきことを望むべき未来からバックキャスト思考で導き出してみることに、さらにそれらに精一杯真摯に取り組むことが重要です。本授業で学ぶことは未来社会を生きるために必要なほんの一部分に過ぎないかもしれませんが、学生同士・教員とのコミュニケーションを通じて、自分の夢と志、そして自分の可能性について新たな発見ができると思います。人生の選択肢の幅を広げ、有意義な学生生活を送るために、この授業を活用してください。

今年度の工夫

受講生が議論や討論を円滑に進めることができるように、教員とTAがファシリテートします。議論・討論を通じて論理的思考を身につけることを目指します。メッセージの重点の確認、Q & Aセッションにおける双方向性コミュニケーションの促進に留意しています。

教科書

授業当日にプリントを配付します。

参考書・参考資料等

適宜授業中に紹介します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

学問、傾聴力、論理的思考、パトス・ロゴス・エトス

開講科目名	日本酒学入門				
成績入力担当	石村 理知、日下 一尊			開講区分	単位数
				第3クォーター	1.0単位
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	水5	時間割コード	3U109

授業のテーマ

日本酒学入門

授業の到達目標

日本酒に関して、酒造り、経営、法律、広告などの幅広い基礎知識を身につけるとともに、それを通して神戸の地域・文化の一端を理解できるようになること。

授業の概要と計画

神戸の地域・文化を知る神戸学の1科目として、日本酒に関して経営、法律、醸造、広告等を多面的・総合的に学ぶ。灘五郷酒造組合が中心となり酒造関連企業、団体が協力して実施するオムニバス授業である。日本酒造りに携わっている講師を招いて、現場の取り組み等の実例を交えながら、わかりやすく講義していただきます。

1. 日本酒の歴史、文化、灘と日本酒造り（西向）
2. 微生物学、醗酵学（赤尾）
3. 日本酒醸造（日下）
4. 日本酒と酒米（杉本）
5. 酒蔵の経営（飯田）
6. 海外への日本酒情報発信（喜多）
7. 日本酒の関連法律（亀井）
8. レポートの書き方（石村）

成績評価方法

成績評価は毎回の授業に関して提出させる課題とレポートの成績をもとに原則として相対評価で行う。配点は授業に関する課題（3点×7回＝21点）と期末レポートの得点（40点×2＝80点）を合わせた点数をもとに相対評価で成績評価をする。毎回の授業で期末レポートのテーマを説明し、その中から2つを選んで答えさせる。

成績評価基準

日本酒に関して学際的・多面的な知識を習得し、特定のテーマについて掘り下げることができたかを合格基準とする。5回以上出席して授業中の課題を提出し、期末レポートの得点が6割以上であることが目安である。合格者の成績評価は相対評価により、S（卓越、上位1割以内）、A（優秀、3割以内）、B（満足できる水準、5割前後）、C（不十分な点もあるが合格基準を満たしている、1割前後）を決める。

履修上の注意（関連科目情報）

教材・資料の配布・課題提出等は全てBEEFで行う。

事前・事後学修

毎回のテーマについてBEEFにアップされた教材に目を通した上で授業に臨むこと。毎回の授業は異なるテーマで行うので、授業後に興味がある点や疑問点を調べること。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

毎回の講師への質問等はBEEFで受け付ける。

学生へのメッセージ

日本酒、特に、神戸の酒造りについていろいろな視点から学びます。専門家、実務家による味わい深い講義をお楽しみください。

今年度の工夫

対面実施を原則としています。

教科書

毎回の授業の資料は前日までにBEEFにアップする。

参考書・参考資料等

参考文献等は授業中に適宜紹介する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本酒、酒造り、経営、法律、広告、実務

開講科目名	男女共同参画とジェンダーA				
成績入力担当	青山 薫、工藤 晴子、アレキサンダー ロニー		開講区分	単位数	
			第3クォーター	1.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	木5	時間割コード	3U110

授業のテーマ

ジェンダーの概念、性の平等および「男女共同参画」について、さまざまな専門分野を通じて理解する。

授業の到達目標

さまざまな領域における課題についてジェンダー概念を通じて考察し、男女共同参画および性の平等についての理解を深め、個人的な問題は必ず社会的問題につながっているということを認識する。

授業の概要と計画

【この授業は対面授業です。変更もありますので、毎週 BEEFで確認してください。】

* 各回予定は変更や交代の可能性があります。

- 1) イントロダクション：ジェンダーとは何か
- 2) 教育学とジェンダー
- 3) 法とジェンダー
- 4) 経済・労働・ジェンダー
- 5) ジェンダーと経営
- 6) 大学とジェンダー
- 7) 家族・結婚・ジェンダー
- 8) 質問受付

成績評価方法

毎回短い課題を課すのでBEEF上で回答すること。その合計がクォーターの成績となる。1回=1/7×100点が満点。1回提出がないと、それだけで100点満点×1/7の失点になるので、十分注意してください。

成績評価基準

授業の目標にかかわる毎回の課題について、論理的に整合性があるか、きちんと課題に答えているか、フェアな議論を展開しているか、で評価する。

履修上の注意（関連科目情報）

授業は、学内の多学部の教員が分担し、オムニバス方式で実施する。重要な連絡も課題もあるので、毎週事前・事後にBEEFを必ず確認すること。

事前・事後学修

オムニバス授業のため、担当教員がその都度指示する。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

工藤晴子 <haruko.kudo@people.kobe-u.ac.jp> へ連絡すること

学生へのメッセージ

関心が薄い領域についても、積極的に聞き、学び、考えてください。

今年度の工夫

BEEFを利用して資料や課題等を提示・提出します。

教科書

特定の教科書はない。参照すべき文献については、授業中に適宜指示する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜、指示する。

授業における使用言語

日本語

日本語

キーワード

ジェンダー セクシュアリティ 多様性 グローバル化 近代性 対面授業

開講科目名	グローバルリーダーシップ育成基礎演習				
成績入力担当	Harrison Richard、黒田 千晴		開講区分	単位数	
			後期	2.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	木5	時間割コード	3U111

授業のテーマ

本授業は、一般学生と留学生が第28回神戸大学国際学生交流シンポジウムの企画、立案、準備、運営を協働で行うプロジェクトベースの学習を通して、多様な他者と協働する際に必要な異文化間能力、リーダーシップ、コミュニケーション能力を涵養することを旨とする。本授業は、日本語・英語のバイリンガルで行う。

授業の到達目標

本授業では、神戸大学教育憲章の「教育目的」第3項「国際性の教育」、及び神戸大学の学生が卒業時に身につけるべき共通の能力として定義されている「神戸スタンダード」の内、1) 複眼的に思考する能力の育成、3) 協働して実践する能力の育成に則り、以下の到達目標を設定している。

本授業の履修を通して、受講生が

1. 多様な文化的・言語的背景、価値観を持つ者同士、協働することを通して、社会の様々な事象を多様な視点から捉えなおすことができる。
2. プロジェクト遂行の過程における一連の活動を通して、文化接触に伴う葛藤などを克服しつつ、多様な他者と良好な人間関係を構築し、協働する姿勢・能力を身につける。
3. 多文化・多言語なコミュニティのメンバーと協働するためのコミュニケーション能力を向上させる。日英両言語で聞き手の言語能力に配慮しつつ自らの意見を発信するスキルを向上させる。

授業の概要と計画

1. 授業形態

原則対面

神戸大学が参画している他大学との連携事業（ICL-Channels）の関係で、対面と遠隔（リアルタイム）の併用の授業形態で実施する。神戸大学の学生に対しては対面で実施し、他大学の学生（ICL履修学生）に対してはZoomを用いた遠隔リアルタイムを併用するハイフレックスの形式で実施する。

2. 授業の概要とスケジュール

暫定的な授業スケジュールは以下の通りである。10月の授業開始後もスケジュールを変更する可能性がある。その場合は、うりぼーネット及びBEEFにて随時変更を通知する。

1. (10/6)イントロダクション・アイスブレイキング
 2. (10/13)リーダー・サブリーダー、グループ決定、KISS28メインテーマの検討
 3. (10/20)KISS28メインテーマ・サブトピックの検討
 4. (10/27)KISS28メインテーマ・サブトピックの決定
 5. (11/10)サブトピックの資料収集、資料作成(グループワーク)
 6. (11/17)サブトピックの資料収集、資料作成(グループワーク)・KISS28広報開始
 7. (11/24)進捗状況の報告
 8. (12/1)サブテーマの資料収集、資料作成(グループワーク)
 9. (12/8)ディスカッションリハーサル
 10. (12/15)全体会・交流会実施確認・シンポジウム直前確認・準備
 - 11-12. (12/17-12/18)第28回神戸大学国際学生交流シンポジウム（1泊2日ホテルロジ舞洲に宿泊）2回分の授業としてカウント
 13. (12/22)シンポジウムの振り返り、最終グループ発表準備、KISS報告書(日・英)の作成開始
 14. (1/12)最終グループ発表準備・KISS報告書作成
 15. (1/19)最終グループ発表
- ※ (2/2)個人最終レポート提出
 ※ (2/9)KISS報告書最終原稿提出

成績評価方法

1. 授業・シンポジウムへの参画（各回授業終了後のフィードバックの内容を含む）（35%）
 2. 授業外でのグループワークへの参画（自己評価・ピア評価）（10%）
 3. シンポジウム発表要旨・発表資料・KISS報告書（KISS報告書）（20%）
 4. 最終グループ発表（日・英）（15%）
 5. 個人最終レポート（20%）
- ※出席率90%以上を満たすことが必要。

成績評価基準

1. 多様な文化的・言語的背景、価値観を持つ者同士、協働することを通じ、社会の様々な事象を多様な視点から批判的に考察しているか。
2. プロジェクト遂行の過程における一連の活動を通して、文化接触に伴う葛藤などを克服しつつ、多様な他者と良好な人間関係を構築し、協働する姿勢・能力を身につけたか。
3. 多文化・多言語なコミュニティのメンバーと協働するためのコミュニケーション能力を向上させたか。日英両言語で聞き手の言語能力に配慮しつつ自らの意見を発信するスキルを向上させたか。

履修上の注意（関連科目情報）

1. 12/17(土)-12/18(日)に予定されている1泊2日のシンポジウムに必ず参加すること。1泊2日の宿泊費、食費(2食)は大学が負担する。(履修者は、宿泊費・食費無料)
2. 学部正規留学生・学部交換留学生（特別聴講学生）受講可（N3相当以上の日本語能力を持つことが望ましい。）
3. 一般学生約10名、留学生約10名の履修定員を設定している。履修希望者が大幅に定員を上回る場合は、第1回目の授業終了後、エントリーシートにて選抜を行う可能性があるため、第1回目の授業に必ず参加すること。
4. 一般学生・留学生（学部正規留学生・学部交換留学生）ともに英語力の要件は設定しない。
5. 当該授業は神戸大学国際学生交流シンポジウム実施に向けたプロジェクト遂行型の授業であり、授業に積極的に参画し他の受講生と協働することが不可欠である。

事前・事後学修

授業時間外の事前・事後学習として、シンポジウムテーマに関する文献・資料の収集及び読解、シンポジウムでの発表資料・要旨の作成、シンポジウム終了後の報告書の作成等に取り組む必要がある。授業ごとの事後学習として、BEEFにて自らの授業での発言や自他のコミュニケーションスタイルに関する省察を行うためのフィードバックを提出する。

オフィスアワー・連絡先

黒田千晴 木曜日15:00-16:30（要事前連絡）

kuroda@port.kobe-u.ac.jp

六甲台第2キャンパス（文理農学部キャンパス）神戸大学百年記念館・グローバル教育センター（旧国際教育総合センター）3階黒田研究室

※オンライン会議システムZoomでの面談も対応可。

学生へのメッセージ

本授業は、一般学生と留学生がバイリンガル(英語・日本語)でコミュニケーションを図り、協同作業を行うことを通じて異文化間コミュニケーション能力やリーダーシップを涵養することを目指しています。留学生と交流したいと希望する一般学生、日本人学生と交流したいと希望する留学生の履修を歓迎します。

今年度の工夫

BEEFなどのLMSを活用し、学生の学習成果向上を図る。

教科書

必要に応じて、BEEFに課題論文・図書をアップするので、授業前の予習として読んでくること。（授業中に課題論文・図書の内容について討論する。）

参考書・参考資料等

必要に応じて、BEEFに課題論文・図書をアップするので、授業前の予習として読んでくること。（授業中に課題論文・図書の内容について討論する。）

授業における使用言語

日本語及び英語の併用

日本語・英語の使用比率はおおむね1:1とする。

日本語・英語とも言語使用の正確さや流暢さは成績評価の対象としない。

留学生・一般学生の双方が、日本語・英語でのコミュニケーション能力を向上させるよう教員また受講生同士、相互に援助する。

各受講生は、日本語・英語の双方の言語を活用して、教員や他の受講生と積極的にコミュニケーションを取ること。

キーワード

パソコン、交換留学生（特別聴講学生）可、長文レポート、バイリンガル、異文化間コミュニケーション、リーダーシップ、協働、神戸大学国際学生交流シンポジウム

開講科目名	地域社会形成基礎論				
成績入力担当	松下 正和	開講区分		単位数	
		第3クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	木5	時間割コード	3U113

授業のテーマ

現在、「地域社会の危機」について様々な分野で議論されており、また一方で地域再生や地域づくりの取り組みが各地で行われている。この授業では、現在、地域が直面している課題について多角的に理解し、地域社会形成の意義や、そのための取り組みについての知識を得ることを目的とし、経済・環境・福祉・歴史・法などの各分野から地域社会形成についての講義をおこなう。

授業の到達目標

地域社会の担い手となるための、地域社会・地域課題についての基礎的な知識や考え方を身につける。

授業の概要と計画

<授業形態> 遠隔授業（リアルタイムの場合もあるためBEEFで確認すること）

10月6日 農業・農村の多面的機能と減災への貢献（田中丸治哉・農学研究科教授）

10月13日 地域経済の課題と地域づくり（中塚雅也・農学研究科教授）

10月20日 地域医療・福祉の課題（小野玲・保健学研究科）

10月27日 事業者・大学・地域との連携（坪田卓巳・灘区地域活動支援コーディネーター）

11月10日 レジリエンスと価値（鶴田宏樹・バリュースクール）

11月17日 災害と地域（北後明彦・都市安全研究センター教授）

11月24日 地域歴史文化の課題（松下正和・地域連携推進室特命准教授）

12月1日 地域活動とキャリアデザイン（田中美恵・キャリアセンター）

成績評価方法

毎回の授業でのコメントペーパー（80%）とレポート試験（20%）で評価する。最終レポートを提出していない場合は、それまでにコメントペーパーが提出されていたとしても不可とする。

成績評価基準

各授業回のテーマに即し、地域社会の現状や課題について正確に理解し、学問的な裏付けをもって適切な課題解決法を提示できているか。

履修上の注意（関連科目情報）

オムニバス授業であるため毎回コメントペーパーを提出すること。なお総合教養科目「ひょうご神戸学」も合わせて履修することが望ましい。

事前・事後学修

事前学習：各回の授業で取り扱う項目について、BEEF上に事前掲載された参考資料（担当教員の論文など）をあらかじめ読んだ上で疑問点・質問点をまとめておくこと。

事後学習：授業中に指示された参考文献、「地域づくりの基礎知識」シリーズ1～5冊（<http://www.org.kobe-u.ac.jp/kupress/pubindex.html>）を入手・参照し、授業で学んだことについてまとめること。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて

事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

随時。メールにて事前に連絡すること。

主担当教員：松下正和・産官学連携本部5階地域連携推進本部

m_matsushita@port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

文部科学省は平成27年度より、人口流出県の大学、行政、企業、団体等が連携して、地域社会に貢献できる人材を育成し、若者の地元定着を促進する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）を開始した。兵庫県では神戸大学が申請校となり「地域創生に伝える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」がこれに採択された。この授業は、このCOC+事業の一環でプログラム開発した地域志向科目として開講される。共通教育科目や各学部で開講されている地域志向科目もあわせて履修し、地域社会に対する総合的な理解の上に専門性を身に付けることを期待する。

今年度の工夫

多様な分野から総合的・多面的に地域を理解できるよう、各分野の専門家による講義で授業を構成している。

教科書

使用しない。各回のレジメ・参考資料はBEEF上に事前にアップしているので各自ダウンロードしておくこと。

参考書・参考資料等

『地域づくりの基礎知識』1~5神戸大学出版会のHPを参照のこと。レポート作成時には必ず参照すること。

地域づくりの基礎知識1 地域歴史遺産と現代社会 / 奥村弘・村井良介・木村修二 : 神戸大学出版会, 2018, ISBN:978-4-909364-01-2

地域づくりの基礎知識2 子育て支援と高齢者福祉 / 高田哲・藤本由香里 : 神戸大学出版会, 2018, ISBN:978-4-909364-02-9
農業・農村の資源とマネジメント / 中塚雅也 : 神戸大学出版会, 2019, ISBN:978-4-909364-04-3

授業における使用言語

日本語

キーワード

地域 経済 環境 福祉 医療 歴史 安全（防災・減災） 法 ボランティア NPO 持続可能な発展 実務経験教員 遠隔授業

開講科目名	グローバルチャレンジ実習（理学グローバルチャレンジプログラムUPLBコース）				
成績入力担当	金丸 研吾、茶谷 絵理、林 大輝	開講区分		単位数	
		後期		2.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	他	時間割コード	3UG02

授業のテーマ

本授業は、「神戸グローバルチャレンジプログラム」の「理学UPLBコース」として開講します。
「神戸グローバルチャレンジプログラム」とは、1つのクォーターや長期休暇を「チャレンジターム」として設定し、その期間に学生が国際的なフィールドで学外活動を行うプログラムです。

授業の到達目標

本プログラムの目的は、参加学生が国際的なフィールドで行う学外活動を通して、異文化環境の下での自らの体験に基づき、グローバル人材として必要な「課題発見・解決能力」の必要性に気づき、学びの動機づけを得ることです。また、実践型グローバル人材として成長するための基盤となる3つの能力「チームワーク力」「自己修正力」「課題挑戦力」の修得を目標とします。コースごと及び学生ごとにそれぞれ学修目標を設定し、その到達に向けた学修を行います。

本コースの学修目標は、3週間英語で活することにより英語でのコミュニケーションを習得することです。

学生ごとの学修目標については、担当教員の指示に従い、事前学修で各自設定することになります。

授業の概要と計画

授業形態：対面

・事前学修（令和4年11月22日～令和5年1月15日）

海外での安全、健康管理について

フィリピンでの生活と文化

コースの内容と注意事項

学習目標を記載したチャレンジシート（企画書・計画書）を作成し、BEEFに登録します。

・学外活動学修（令和5年1月16日～令和5年3月23日）

フィリピン大学ロスバニョス校（UPLB）で、英語のプログラムへの参加や現地学生との交流を通して、英語での生活に挑戦します。

・事後学修（令和5年3月24日～令和5年3月31日）

派遣先での学修について振り返りを行い、リフレクションシート（報告書）を作成・提出する。

※事前学修は対面授業の形式で行い、事後学修はBEEF経由で行う予定です。

詳細はBEEFにて指示します。

成績評価方法

成績評価は、コース及び学生ごとの学修目標に基づいて、事前学修、事後学修における「チャレンジシート」及び「リフレクションシート」の記載内容20%、学外学修における取組と学修成果を80%で評価する。

成績評価基準

・本コースの学修目標及び各自が事前に設定した学修目標をどのように、どの程度達成できたのかを振り返り、これらを文章あるいは各種データ等を用いて説明していること。

・具体的な基準は、以下のとおりです。

理学UPLBコースは、UPLBの評価基準に従います。詳細については、説明会でお知らせします。

履修上の注意（関連科目情報）

- ・「神戸グローバルチャレンジプログラム」は、「事前学修」「学外学修」「事後学修」で構成されています。受講生は、全ての学修に参加する必要があります。
- ・学外学修において、活動期間中の活動時間とその内容を「B E E F」に登録します。

事前・事後学修

- ・事前学修において、学修目標を記載した「チャレンジシート（企画書・計画書）」を作成し、「神戸大学学修支援システム」（以下、「B E E F」という。）に登録します。
- ・事後学修において、学修の振り返りを行い、その結果を記載した学修成果に関する「リフレクションシート（報告書）」を作成し、「B E E F」に登録します。
- ・本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

担当教員・茶絵理（化学科教員）（chatani@crystal.kobe-u.ac.jp）

学生へのメッセージ

本プログラム実施責任者からのメッセージを参照してください（<http://www.iphe.kobe-u.ac.jp/kobe-gcp>）。

今年度の工夫

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、状況をみながらUPLBとともに実施を検討することになります。

教科書

UPLBから提供されます。

参考書・参考資料等

UPLBから提供されます。

授業における使用言語

日本語及び英語の併用
事前事後学修はおもに日本語で行います。
現地でのプログラムは英語で行います。

キーワード

インターンシップ、 フィールドワーク、 海外、 学外活動

開講科目名	グローバルチャレンジ実習（UPLB農学英語コース）				
成績入力担当	金丸 研吾、茶谷 絵理、林 大輝	開講区分		単位数	
		後期		2.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	他	時間割コード	3UG03

授業のテーマ

本授業は、「神戸グローバルチャレンジプログラム」の「UPLBコース」として開講します。
「神戸グローバルチャレンジプログラム」とは、1つのクォーターや長期休暇を「チャレンジターム」として設定し、その期間に学生が国際的なフィールドで学外活動を行うプログラムです。

授業の到達目標

本プログラムの目的は、参加学生が国際的なフィールドで行う学外活動を通して、異文化環境の下での自らの体験に基づき、グローバル人材として必要な「課題発見・解決能力」の必要性に気づき、学びの動機づけを得ることです。また、実践型グローバル人材として成長するための基盤となる3つの能力「チームワーク力」「自己修正力」「課題挑戦力」の修得を目標とします。コースごと及び学生ごとにそれぞれ学修目標を設定し、その到達に向けた学修を行います。

本コースの学修目標は、3週間英語のみで生活することにより、英語に慣れ、さらに「武器」として使える英語を習得することです。

学生ごとの学修目標については、担当教員の指示に従い、事前学修で各自設定することになります。

授業の概要と計画

（コースの概要と計画を記載）

フィリピン大学ロスバニョス校（UPLB）で生活しながら、専門講師によるアドバンストな英会話トレーニングを受けながら現地学生との交流も深めます。そのなかで、英語によるコミュニケーション・プレゼンテーション・ディスカッションの能力の向上を図ります。さらに、国際稲研究所（IRRI）や農場、文化施設等を訪問することにより、世界最前線の農業研究とアジアの農業、フィリピン文化について体感します。

事前学修（2022年11月21日～2023年2月17日）

フィリピン、UPLBについて（対面授業 農学部教室）

各種手続き、UPLBでの生活、事故・病気時の対応について（対面授業 農学部教室）

・学外活動学修（2022年2月18日～2022年3月20日）

英語トレーニング（対面授業 UPLB）

UPLB学生との交流（対面授業 UPLB内ホテル、UPLB周辺）

見学旅行（UPLB周辺）

・事後学修（2022年3月22日～2022年3月31日）

コース中の経験や今後どう活かすかについて（対面授業 農学部教室）

COVID-19感染・収束状況を踏まえて、夏以降、実施の可否、実施方法詳細について適宜アナウンスします。

成績評価方法

成績評価は、コース及び学生ごとの学修目標に基づいて、「チャレンジシート」及び「リフレクションシート」の内容、事前学修、学外学修及び事後学修における取組と学修成果を考慮して、総合的に行います。

成績評価基準

本コースの学修目標及び各自が事前に設定した学修目標をどのように、どの程度達成できたのかを振り返り、これらを文章あるいは各種データ等を用いて説明していること。

・具体的な基準は、UPLBの評価基準に従います。詳細については、説明会でお知らせします。

履修上の注意（関連科目情報）

「神戸グローバルチャレンジプログラム」は、「事前学修」「学外学修」「事後学修」で構成されています。受講生は、全ての学修に参加する必要があります。

・学外学修において、活動期間中の活動時間とその内容を「B E E F」に登録します。

事前・事後学修

- ・事前学修において、学修目標を記載した「チャレンジシート（企画書・計画書）」を作成し、「神戸大学学修支援システム」（以下、「B E E F」という。）に登録します。
- ・事後学修において、学修の振り返りを行い、その結果を記載した学修成果に関する「リフレクションシート（報告書）」を作成し、「B E E F」に登録します。

オフィスアワー・連絡先

金丸研吾 月～金 1000-1900
kng@kobe-u.ac.jp
078-803-6618

学生へのメッセージ

本プログラム実施責任者からのメッセージを参照してください (<http://www.iphe.kobe-u.ac.jp/kobe-gcp>)。

今年度の工夫

COVID-19感染・収束状況を踏まえて、夏以降、2月下旬から3月中旬での実施可否、実施方法詳細について適宜アナウンスします。

教科書

（コース毎に記載）

参考書・参考資料等

（コース毎に記載）

授業における使用言語

日本語及び英語の併用
（コース毎に記載）

キーワード

ウインター・スプリングスクール

開講科目名	グローバルチャレンジ実習(ボランティアチャレンジコース (ルワンダ))				
成績入力担当	永井 敦			開講区分	単位数
				後期	2.0単位
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	他	時間割コード	3UG07

授業のテーマ

本授業は、「神戸グローバルチャレンジプログラム」の「ボランティアチャレンジコース」として開講します。「神戸グローバルチャレンジプログラム」とは、1つのクォーターや長期休暇を「チャレンジターム」として設定し、その期間に学生が国際的なフィールドで学外活動を行うプログラムです。

授業の到達目標

本プログラムの目的は、参加学生が国際的なフィールドで行う学外活動を通して、異文化環境の下での自らの体験に基づき、グローバル人材として必要な「課題発見・解決能力」の必要性に気づき、学びの動機づけを得ることです。また、実践型グローバル人材として成長するための基盤となる3つの能力「チームワーク力」「自己修正力」「課題挑戦力」の修得を目標とします。

本コースの学修目標は、本コースの学修目標は、現地の人たちとの協働を通して、①異文化を理解することの重要性を認識すること、②価値観の異なる人たちと解決策を見つけることができること、③自分に求められているスキルを見つけることです。

学生ごとの学修目標については、担当教員の指示に従い、事前学修で各自設定することになります。

授業の概要と計画

<学外学修先>ルワンダ

<受講決定後の授業の流れ>

・事前学修 (令和4年12月上旬～令和5年1月中旬)

※授業実施日程は受講者と相談の上決定します。

- ①学外学修の際に気をつける点について
- ②ルワンダの政治、経済、歴史、社会に関する学修
- ③コミュニティビジネスに関する学修
- ④3つのチカラ「チームワーク力」「自己修正力」「課題挑戦力」についての自己評価の方法について
- ④海外渡航に際しての危機管理学修
- ⑤渡航前オリエンテーション

なお、英語学修は自律学修とします。

・学外学修 (令和5年2月中旬～令和5年3月中旬)

ルワンダで日本食レストランをはじめ様々なコミュニティビジネスを展開している団体の協力を得て、シングルマザーの雇用創出や子どもの貧困といった社会課題の解決に向けた活動に取り組みます。活動を通して、社会を変えるために、私たちひとりひとりが何をすべきかを学びます。また、ルワンダの文化や社会を深く理解するためにフィールドトリップも予定しています。

・事後学修 (令和5年3月下旬～令和5年3月下旬)

- ①活動成果報告発表
- ②目標達成度の査定
- ③3つのチカラについての自己評価

※授業実施日程は受講者と相談の上決定します。

※事前・事後学修の形態は対面を予定していますが、新型コロナウイルス感染拡大により授業形態が変更となる場合はBEEFでお知らせします。

成績評価方法

成績評価は、コース及び学生ごとの学修目標に基づいて、事前学修、事後学修における「チャレンジシート」及び「リフレクションシート」の記載内容20%、学外学修における取組と学修成果を80%で評価する。

成績評価基準

①事前・事後の課題シート、②学外学修への準備状況や取り組む姿勢、そして学修成果を合計して評価します。具体的な評価基準は以下の通りです。

①課題シート（20点）

ーチャレンジシート（10点）

現状分析が十分にできており、具体的な目標設定ができているかどうか

ーリフレクションシート（10点）

十分に目標が達成できたかどうか

②学外学修に取り組む姿勢、学修成果（80点）

ー渡航国について十分に理解しているかどうか

ー学修に取り組む意欲が十分かどうか

ー渡航先での活動内容を十分に記録できているかどうか

ー帰国後に活動内容を十分に報告できているかどうか

履修上の注意（関連科目情報）

- ・「神戸グローバルチャレンジプログラム」は、「事前学修」「学外学修」「事後学修」で構成されています。受講生は、全ての学修に参加する必要があります。
- ・学外学修において、活動期間中の活動時間とその内容をBEEFに登録します。

事前・事後学修

- ・事前学修において、学修目標を記載した「チャレンジシート（企画書・計画書）」を作成し、BEEFに登録します。
 - ・事後学修において、学修の振り返りを行い、その結果を記載した学修成果に関する「リフレクションシート（報告書）」を作成し、BEEFに登録します。
- 本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

月～金曜日9：00～17：00の間、鶴1 N棟403で海外プログラムに関する相談に対応します。
相談にあたっては、事前にメール等で予約をしてください。

E-mail : stdnt-jimu-kgcp@office.kobe-u.ac.jp
(神戸GCPコーディネーター)

学生へのメッセージ

神戸グローバルチャレンジプログラムについて知りたいことがある人は、気軽に相談してください。今年度卒業年次の学生は、履修前に担当教員にご相談ください。

今年度の工夫

オンラインと国内研修によって、世界とつながることができるプログラムです。

教科書

授業中にプリント資料を配付します。また、参考図書は事前学修で紹介します。

参考書・参考資料等

渡航先に関する書籍やニュースを積極的に探すようにしてください。

授業における使用言語

日本語及び英語の併用

キーワード

インターンシップ、 フィールドワーク、 ボランティア、 海外、 学外活動

開講科目名	グローバルチャレンジ実習（フィールドワークチャレンジコース（ルーマニア・オンライン））				
成績入力担当	永井 敦			開講区分	単位数
				後期	1.0単位
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	他	時間割コード	3UG08

授業のテーマ

本授業は、「神戸グローバルチャレンジプログラム」の「フィールドワークチャレンジコース」として開講します。「神戸グローバルチャレンジプログラム」とは、1つのクォーターや長期休暇を「チャレンジターム」として設定し、その期間に学生が国際的なフィールドで学外活動を行うプログラムです。

授業の到達目標

本プログラムの目的は、参加学生が国際的なフィールドで行う学外活動を通して、異文化環境の下での自らの体験に基づき、グローバル人材として必要な「課題発見・解決能力」の必要性に気づき、学びの動機づけを得ることです。より具体的には、実践型グローバル人材として成長するための基盤となる3つの能力「チームワーク力」「自己修正力」「課題挑戦力」の修得を目標とします。

以上をふまえ、本コースの参加学生は、コース修了までに以下の学修目標の達成を目指します：

- ①異なる国や環境・文化で暮らす人や異なる立場の人たちと関わり、協力して、共通の目標を達成することができる
- ②他者の意見や姿勢から学ぶべき点を発見し、自分の考えや学修を柔軟に修正することができる
- ③自分自身をよりよく成長させるために自らの意思で目標を立てて挑むことができる

なお、参加学生は、これらの学修目標達成に向けて、より具体的な個人目標を担当教員の指導のもとで設定します。

授業の概要と計画

<学外学修先>ルーマニア（バベシュ・ボヨイ大学）

<受講決定後の授業の流れ>

◆事前学修（令和4年7月上旬～令和4年7月中旬）

- ・学修目標設定
- ・3つのチカラ「チームワーク力」「自己修正力」「課題挑戦力」についての自己評価
- ・ルーマニアについての学修
- ・言語教育インターンシップの心構え

◆学外学修（令和4年10月～令和5年2月中旬）

- ・派遣先大学の日本語クラスでの日本語補助指導

◆事後学修（令和5年3月上旬～令和5年3月下旬）

- ・学外学修のフィードバック, GCPの3つの力の自己評価, 及び学外学修先へ提出する活動報告書の作成
- ・全体報告会用の発表, 或いは展示資料の作成
- ・本プログラム広報媒体への活動報告原稿作成

※各日程は受講者と相談の上決定します。

成績評価方法

成績評価は「チャレンジシート」の記載内容（25%）、「学修日誌」の記載内容（25%）、「リフレクションシート」の記載内容（25%）、学修成果の報告内容（25%）の4つの視点で評価する。

成績評価基準

評価基準は以下の通りです。より詳細な情報は事前学修時に説明します。

①チャレンジシートの作成：

神戸GCPの目的をふまえ、ルーブリックの自己分析にもとづいて、具体的な目標設定ができているかどうか

②学修日誌：

計画にもとづき、日々の活動を振り返り、より良い行動につなげるための修正を行っているかどうか

③リフレクションシート

コース参加前に設定した学修目標を達成できたかどうか

④学修成果

本コースで得た学修成果をレポートに言語化できているかどうか、また、その学習成果を他者に効果的に伝えられているかどうか

履修上の注意（関連科目情報）

- ・「神戸グローバルチャレンジプログラム」は、「事前学修」「学外学修」「事後学修」で構成されています。受講生は、全ての学修に参加する必要があります。
- ・学外学修において、活動期間中の活動時間とその内容をBEEFに登録します。

事前・事後学修

- ・事前学修において、学修目標を記載した「チャレンジシート（企画書・計画書）」を作成し、BEEFに登録します。
 - ・事後学修において、学修の振り返りを行い、その結果を記載した学修成果に関する「リフレクションシート（報告書）」を作成し、BEEFに登録します。
- 本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

平日9：00～17：00（オフィスは鶴甲第一キャンパスN403）

※アポなしでオフィスに来て頂いても構いませんが、留守の場合があるため、事前にメールまたはLINEで連絡をしてもらえると確実です。

E-mail：anagai@people.kobe-u.ac.jp（永井敦 / 神戸GCPコーディネーター）

学生へのメッセージ

神戸グローバルチャレンジプログラムについて知りたいことがある人は、気軽に相談してください。

今年度の工夫

迅速な連絡のため、参加者用にLINEグループを作成します。

教科書

必要に応じてコース担当教員が教材を配布します。

参考書・参考資料等

渡航先に関する書籍やニュースを積極的に探すようにしてください。

授業における使用言語

日本語及び英語の併用

キーワード

インターンシップ、 フィールドワーク、 ボランティア、 海外、 学外活動

開講科目名	グローバルチャレンジ実習（フィールドワークチャレンジコース（アメリカ））				
成績入力担当	永井 敦			開講区分	単位数
				後期	1.0単位
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	他	時間割コード	3UG09

授業のテーマ

本授業は、「神戸グローバルチャレンジプログラム」の「フィールドワークコース」として開講します。

「神戸グローバルチャレンジプログラム」とは、1つのクォーターや長期休暇を「チャレンジターム」として設定し、その期間に学生が国際的なフィールドで学外活動を行うプログラムです。

授業の到達目標

本プログラムの目的は、参加学生が国際的なフィールドで行う学外活動を通して、異文化環境の下での自らの体験に基づき、グローバル人材として必要な「課題発見・解決能力」の必要性に気づき、学びの動機づけを得ることです。また、実践型グローバル人材として成長するための基盤となる3つの能力「チームワーク力」「自己修正力」「課題挑戦力」の修得を目標とします。コースごと及び学生ごとにそれぞれ学修目標を設定し、その到達に向けた学修を行います。

本コースで参加学生は、オンライン環境で、文化的背景の異なる他者（米国大学の学生）と効果的にコミュニケーションを取りながら、協働学習を完遂することを目指します。協働学習プロジェクトのテーマは「日米の文化差」にする予定です（変更の可能性もあります）。ただし、学生ごとの学修目標については、担当教員の指示に従い、事前学修で各自設定することになります。

授業の概要と計画

本講義は「遠隔」（オンライン）で実施します。日米では時差が大きいので、リアルタイムでの授業は2,3回程度にとどめ、後は各自のペースで学習を進める形になります（チームでのプロジェクトの場合は、各チームでスケジュール調整をする）。

コースのスケジュールはおおむね以下のとおりです：

- ・事前学修（2023年1月 ※日程は参加学生と相談）
- ・学外活動学修（2023年1月25日～3月1日（予定））
- ・事後学修（2023年3月 ※日程は参加学生と相談）

成績評価方法

成績評価は、コース及び学生ごとの学修目標に基づいて、事前学修、事後学修における「チャレンジシート」「リフレクションシート」「学修日誌」の記載内容40%、学外学修における取組と学修成果を60%で評価する。

成績評価基準

本コースの学修目標及び各自が事前に設定した学修目標をどのように、どの程度達成できたのかを振り返り、これらを文章あるいは各種データ等を用いて説明していること。

履修上の注意（関連科目情報）

- ・「神戸グローバルチャレンジプログラム」は、「事前学修」「学外学修」「事後学修」で構成されています。受講生は、全ての学修に参加する必要があります。
- ・学外学修において、「学修日誌」を通じて活動期間中の活動時間とその内容を記録し、最終的に「BEEF」に登録します。

事前・事後学修

- ・事前学修において、学修目標を記載した「チャレンジシート（企画書・計画書）」を作成し、「神戸大学学修支援システム」（以下、「BEEF」という。）に登録します。
- ・事後学修において、学修の振り返りを行い、その結果を記載した学修成果に関する「リフレクションシート（報告書）」を作成し、「BEEF」に登録します。
- ・本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。

オフィスアワー・連絡先

メール: anagai@people.kobe-u.ac.jp (永井敦)

※鶴甲第1キャンパスN403に直接相談に来てもらっても構いませんが、アポイントメントを入れてもらうと確実です。

学生へのメッセージ

本プログラム実施責任者からのメッセージを参照してください (<http://www.iphe.kobe-u.ac.jp/kobe-gcp>)。

今年度の工夫

近年注目されているCOIL (Collaborative Online International Learning) という新たな教授法を用いてコース全体をデザインしています。

教科書

必要な資料は別途配布します。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

英語

原則英語でやりとりをしますが、必要に応じて日本語での支援も行います。

キーワード

フィールドワーク、海外、オンライン、学外活動、パソコン

開講科目名	グローバルチャレンジ実習（ユネスコ文化研修）				
成績入力担当	林 良子			開講区分	単位数
				後期	1.0単位
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	他	時間割コード	3UG10

授業のテーマ

本授業は、「神戸グローバルチャレンジプログラム」の「フィールドワーク型コース」として開講します。「神戸グローバルチャレンジプログラム」とは、1つのクォーターや長期休暇を「チャレンジターム」として設定し、その期間に学生が国際的なフィールドで学外活動を行うプログラムです。

授業の到達目標

本プログラムの目的は、参加学生が国際的なフィールドで行う学外活動を通して、異文化環境の下での自らの体験に基づき、グローバル人材として必要な「課題発見・解決能力」の必要性に気づき、学びの動機づけを得ることです。また、実践型グローバル人材として成長するための基盤となる3つの能力「チームワーク力」「自己修正力」「課題挑戦力」の修得を目標とします。コースごと及び学生ごとにそれぞれ学修目標を設定し、その到達に向けた学修を行います。

本コースの学修目標は、文化をめぐる諸問題の政治的・社会的側面の分析、言語や情報に関わるコミュニケーションをめぐる諸課題の分析において、先端的な知見と視野を身につけることです。

授業の概要と計画

本講義は事前・事後学習はハイブリッド、現地学習は対面で実施します。具体的な各回の内容は以下のとおりです。

- ・事前学修（令和4年12月上旬～令和5年2月中旬）
 - ※授業実施日程は受講者と相談の上決定します。
 - ①学外学修の際に気をつける点について
 - ②フランス、イタリアの政治、経済、歴史、社会に関する学修
 - ③ユネスコに関する学修
 - ④海外渡航に際しての危機管理学修
 - ⑤渡航前オリエンテーション
 - ⑥フランス語、イタリア語の学修機会を設けます。できるだけ参加してください。
- ・学外活動学修（令和5年2月28日～3月8日、ローマ研修参加者は10日）
- ・事後学修（令和5年3月中旬～下旬）
 - 活動成果報告発表、自己評価等

新型コロナウイルス感染拡大や現地の情勢の悪化が見られた場合には、現地研修を中止することがあります。

成績評価方法

成績評価は、コース及び学生ごとの学修目標に基づいて、事前学修、事後学修における「チャレンジシート」及び「リフレクションシート」の記載内容20%、学外学修における取組と学修成果を80%で評価する。

成績評価基準

- ―渡航国について十分に理解しているかどうか
- ―自律的に学修に取り組む意欲が十分かどうか
- ―事前、現地学習において、積極的にコミュニケーションを図ることが出来たか
- ―渡航先での活動内容を十分に記録できているかどうか
- ―帰国後に活動内容を十分に報告できているかどうか

履修上の注意（関連科目情報）

- ・「神戸グローバルチャレンジプログラム」は、「事前学修」「学外学修」「事後学修」で構成されています。受講生は、全ての学修に参加する必要があります。
- ・学外学修において、活動期間中の活動時間とその内容を「B E E F」に登録します。

事前・事後学修

- ・事前学修において、学修目標を記載した「チャレンジシート（企画書・計画書）」を作成し、「神戸大学学修支援システム」（以下、「B E E F」という。）に登録します。
- ・事後学修において、学修の振り返りを行い、その結果を記載した学修成果に関する「リフレクションシート（報告書）」を作成し、「B E E F」に登録します。
- ・本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

rhayashi@kobe-u.ac.jp（林：メール事前連絡要）
k0130257@gsuite.kobe-u.ac.jp（橋田：メール事前連絡要）
pw.fregonese@godzilla.kobe-u.ac.jp（フルゴネーズ：メール事前連絡要）

学生へのメッセージ

過去の研修参加学生が担当したユネスコからの報告書について、こちらをご覧ください。
https://www.fgh.kobe-u.ac.jp/ja/z/news_and_event/2021-09-13-317
本プログラム実施責任者からのメッセージも参照してください（<http://www.iphe.kobe-u.ac.jp/kobe-gcp>）。

今年度の工夫

入念な準備、対面学修とグループワークにより現地でのリスクを減らし、円滑な研修の実施を試みます。

教科書

参考文献は事前学修時に別途指示する。

参考書・参考資料等

国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の「文化的表現の多様性の保護及び促進に関する条約」の広報出版物Investing in Creativityの日本語訳

授業における使用言語

日本語及び英語の併用
日本語、英語およびフランス語、イタリア語を適宜使用

キーワード

フィールドワーク、 海外、 学外活動、 ユネスコ、 文化多様性、 フランス、 イタリア、 レポート

開講科目名	社会と人権 B				
成績入力担当	塚田 哲之	開講区分		単位数	
		第4クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	水2	時間割コード	4U078

授業のテーマ

現代の日本社会における人権に関わる問題を社会的・歴史的背景をふまえて検討することを通して、人権を保障することの意味とそこに現れた現代の日本社会の特質について考える。

授業の到達目標

当該問題の所在と内容を歴史的・社会的文脈をふまえて深く理解し、かつ自らの見解を形成して、異なる見解を持つ者と合理的な議論ができるようになる。

授業の概要と計画

[授業形態]

- ・ 対面授業
- ・ この授業は、担当者による講義形式で実施するが、適宜質疑の機会を設ける（リアクション・ペーパーへの応答を含む）。
- ・ なお、新型コロナウイルス拡大により授業形態が変更となった場合はBEEFでお知らせします。

[授業概要と視角]

・ この授業では、「人権」というコンセプトについて概説した上で、現在の日本社会において実際に生じている人権に関わる具体的な問題を複数取り上げて検討する（1クォーターで取り上げるトピックは3～4を予定している）。担当者の専攻（法律学の一分野としての憲法学）の関係上、法的観点からの紹介・検討が多くなるが、法的知識の修得よりも、問題の社会的背景や見解の対立の背後にあるものを解説することに重点を置く。

[授業予定]

- 第1回：オリエンテーション（授業概要の説明）
- 第2-3回：「人権」の歴史と考え方
- 第4-7回：現代日本における人権問題（原則として各回1トピック）
- 第8回：まとめ・試験

※取り上げる可能性のあるトピックの例示：

- ・ 女性労働者の就労環境、ポジティブ・アクション
- ・ 日本の労働環境と「働き方改革」
- ・ 生殖補助医療等生命倫理と人権
- ・ セクシュアル・マイノリティに関わる問題（同性婚など）
- ・ 家族間における平等
- ・ ヘイト・スピーチの法規制
- ・ インターネット上の人権侵害
- ・ 芸術活動と公的助成

なお、上記の具体的なトピックはあくまで例示であり、授業開始時まで、あるいは進行中に生じた「旬」の問題も積極的に取り上げたい。また、取り上げるトピックは、第1回の授業で受講生の希望を聴いた上で決定する予定（後出「履修上の注意（関連科目情報）」も参照のこと）。

成績評価方法

試験（論述式）75%、授業への参加状況・提出ペーパー25%。

なお、試験については、レポートに代える可能性がある。詳細は、授業中およびBEEFで告知する。

成績評価基準

授業で扱ったトピックについて、(1)内容が適切に理解できているか、(2)異なる見解の存在をふまえ、自らの見解が論理的かつ説得的に示されているか、(3)文章表現力、の諸点に照らして評価する。

履修上の注意（関連科目情報）

- ・各トピックに関する資料は原則として事前に配布する（あらかじめ目を通した上で課題・問題を指摘するペーパー提出を課すこともある）。また、各トピックの検討後にはリアクション・ペーパー提出を課す。これらを通して、受講生自身が問題を発見する機会とともに、授業内容を振り返りつつ自らの見解を形成する機会を設ける。受講生には、取り上げるトピックについて自らも関わる可能性があるものとして考える姿勢が求められる。
- ・授業で使用する資料については、LMS（BEEFおよびGoogle Classroom）を利用して配布するので、インターネット接続環境（Wi-Fi推奨）およびノートPC・タブレット端末・プリンタなど受講に必要な機材およびアプリケーション（ブラウザ、MS-Wordは必須）を準備しておくことが必須である。
- ・第3クォーター開講の「社会と人権A」（塚田担当）で扱った具体的トピックは、本授業では原則として扱わない予定。

事前・事後学修

- ・事前学修としては、配付資料を読んだ上で、問題の所在をまとめておくことが期待される。
- ・事後学修としては、授業内容をまとめた上で、事前の自己の思考・見解を反省的に検証することが期待される。
- ・事前・事後をあわせた授業外の学習時間の目安は、1回あたり少なくとも2時間程度。
- ・日々生ずる問題への関心を持つため、新聞を毎日熟読するとともに、自ら関連資料を探索・検討する姿勢を期待する。本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

授業内容等に関する質問は、提出ペーパーのほか、各回の授業終了後に受け付ける。電子メールでは随時可。
tsukada@law.kobegakuin.ac.jp

学生へのメッセージ

現に日本で生じている人権についての具体的問題を通して、人権とは何か、みなさん自身が生きるこの日本社会とはどのようなものなのか、問題があるとすればどのようにすればよいのかを考える機会にできればと思います。自ら課題を発見し、主体的かつ批判的に考える意欲を持って受講することを期待します。

今年度の工夫

各種資料（統計・新聞記事等）を活用し、具体例から抽象的・原理的思考につなげる。

教科書

特定の教科書は指定しない。適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

人権をめぐる十五講：現代の難問に挑む / 辻村みよ子：岩波書店，2013，ISBN:9784000291170
人権を創造する / リン・ハント：岩波書店，2011，ISBN:9784000234986
コンセプトとしての人権：その多角的考察 / マイケル・フリーマン：現代人文社，2016，ISBN:9784877986612

授業における使用言語

日本語

キーワード

人権 少数者 現代日本社会 憲法 長文レポート

開講科目名	環境学入門B				
成績入力担当	神尾 英治	開講区分		単位数	
		第4クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	火5	時間割コード	4U104

授業のテーマ

地球環境問題は今世紀最大の課題となっている。本講義「環境学入門B」では、人文・社会科学の立場から、幅広く環境に関する基礎知識とアプローチ方法を講義する。

授業の到達目標

様々な環境問題やそれに対する多様な解決法について、人文・社会科学の立場から網羅的な理解を達成し、自分自身の考え方や創造的なアイデアを構築出来るようになることを目標とする。

授業の概要と計画

①授業形態：対面授業

②授業概要と計画

本講義は複数の教員によるオムニバス形式であるが、担当者の変更により、一部未定であり、一部変更の可能性もある。初回に説明を行う。

- 1回： イントロダクション（環境保全推進センター副センター長）
- 2回： Design for SDGs つくる責任つかう責任をデザイン（社会実装）する（小島理沙、環境保全推進センター副センター長）
- 3回： 環境と社会制度（牧秀志）
- 4回： 企業における環境対応（鶴 善一）
- 5回： 温室効果ガス削減への取り組み（神尾英治）
- 6回： ゴミの旅（吉村知里）
- 7回： 神戸大学の環境対応（吉村知里）
- 8回： 全体総括と期末試験（環境保全推進センター副センター長）

講義の順番は変更になる場合があります。

成績評価方法

毎回、講義の終了後に小レポートを課す。
 提出等はBEEFから提出（ただし、教員から指示があった場合は指示に従ってください）。8回目には全体総括を行い、直ちに最終レポートまたは最終試験を課す。小レポートと最終レポート（または最終試験）の総合で評価する。
 小レポート50%、最終レポート（試験）50%で評価する。
 講義に出席しないと小レポートを提出することが出来ない場合があるので注意すること。

成績評価基準

出題された内容について、自らが習得している知識全てを用いて、詳細かつ適切な説明が最大限実現できているかで評価する。

履修上の注意（関連科目情報）

授業計画は現在の予定であり、講義の順番や内容は変更する場合がありますので、開講時に最新版を配布する予定である。環境学入門Aを併せて受講することを勧める。

事前・事後学修

事前学修：各回の授業で取り扱う項目について、キーポイントを各自まとめておくこと。BEEFに講義資料がアップロードされる場合もあるので、随時確認のこと。
 事後学修：配付された講義資料、講義中の小テストやレポート課題の内容を再確認すること。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

事前にアポイントを取ってください。

担当：神尾

研究室：先端膜工学研究拠点601-1

連絡用メールアドレス：e-kamio@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

総合大学神戸大学ならではの多彩な講師陣で構成された、環境に関するオムニバス形式の総合科目である。

今年度の工夫

最新の環境問題をリサーチし、講義に反映させている。

教科書

教科書は特に指定しない。

必要に応じて資料を配付します。

参考書・参考資料等

環境学入門 / 神戸大学環境管理センター環境教育専門部会 : アドスリー , 2011 , ISBN:4904419278

授業における使用言語

日本語

授業英語化カテゴリー：C

資料・板書は英語と日本語を併用するが、講義は日本語で行う。

キーワード

環境 環境倫理 法 行政 経済 経営 コミュニケーション 大学 生活 対面と遠隔授業の併用

開講科目名	男女共同参画とジェンダーB				
成績入力担当	青山 薫、工藤 晴子、アレキサンダー ロニー	開講区分	単位数		
		第4クォーター	1.0単位		
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	木5	時間割コード	4U110

授業のテーマ

ジェンダーの概念、性の平等および「男女共同参画」を多様な専門分野を通じて理解する。

授業の到達目標

さまざまな領域における課題についてジェンダー概念を通じて考察し、男女共同参画およびジェンダー平等についての理解を深め、個人的な問題は必ず社会的問題につながっているということを認識する。

授業の概要と計画

【この授業は原則対面授業ですが「保健行動とジェンダー」の回はライブオンラインで行います。その他の変更もありますので、毎週 BEEFで確認してください！】

* 各回予定は変更や交代の可能性があります。

- 1) イントロダクション：ジェンダーとセクシュアリティ
- 2) 倫理とジェンダー
- 3) 性的マイノリティに対する暴力（専門NPO講師）
- 4) 保健行動とジェンダー
- 5) ジェンダー・平和・軍事主義
- 6) 世界のジェンダー（留学生の発表）
- 7) ジェンダーとナショナリズム
- 8) 質問受付

成績評価方法

毎回短い課題を課すのでBEEF上で回答すること。その合計がクォーターの成績となる。1回=1/7×100点が満点。1回提出がないと、それだけで100点満点×1/7の失点になるので、十分注意してください。

成績評価基準

上記、授業の到達目標にかかわる毎回の課題について、論理的に整合性があるか、きちんと課題に答えているか、フェアな議論を展開しているか、で評価する。

履修上の注意（関連科目情報）

授業は、学内の多学部の教員が分担してオムニバス方式で実施する。重要な連絡も課題もあるので、毎週事前・事後にBEEFを必ず確認すること。

事前・事後学修

オムニバス授業のため、担当教員がその都度指示する。
本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

工藤晴子 <haruko.kudo@people.kobe-u.ac.jp>へ連絡すること

学生へのメッセージ

関心が薄い領域についても、積極的に聞き、学び、考えてください。

今年度の工夫

BEEFを利用して資料や課題等を提示・提出します。

教科書

特定の教科書はない。参照すべき文献については、授業中に適宜指示する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜、指示する。

授業における使用言語

日本語

日本語

キーワード

ジェンダー セクシュアリティ 多様性 グローバル化 近代性 対面授業

開講科目名	職業と学びーキャリアデザインを考えるB				
成績入力担当	北村 雅季			開講区分	単位数
				第4クォーター	1.0単位
ナンバリングコード	U1BB100	曜日・時限等	木5	時間割コード	4U112

授業のテーマ

「職業と学びーキャリアデザインを考えるB」（社会で活躍する神戸大卒業生によるリレー講義）

授業の到達目標

若い皆さんは、世の中の職業や仕事について具体的に知っている人も殆どいませんし、他方、自分自身がいかに大きな可能性にみちているかを理解している人もごく稀です。しかし、皆さんのもつその測り知れない可能性を生かすためには、将来に広がる卒業後の多様な進路について思い巡らし、職業や仕事の具体的な姿とその仕事に就いている人々の経験と思いを知ることも大切です。

この授業では、様々な職業に就いている神戸大学の卒業生の方々から仕事の現場と遣り甲斐、さらに仕事への夢や志などを語っていただきます。皆さんはふだんの大学の授業では聞くことのできない社会人の先輩たちの話に耳を傾けながら、自分の将来の目標や職業に思いを馳せ、そのために今どんな基本的な能力や知識や教養を身につけるべきかを考えるキッカケにしてもらいたいと思っています。

また、こうした機会をもつことは、今大学で学んでいることの意味を知り、かけがえのない4年間の大学生活を充実させるためにもきわめて有益です。文系・理系の区別や職種を問わず、仕事をするうえでは共通の要素がありますし、どの分野であれ多様な職業について幅広い視野を得ることが必要ですが、そうしたこともこの授業から学びとってほしいと思います。

授業の概要と計画

講義は対面を予定していますが、Webで同時配信する予定です。講義によってはオンデマンド配信の可能性もあります。ただし、今後、コロナ等の状況により変更の可能性がります。

第1回

「授業への導入」

☆北村 雅季 キャリアセンター長・工学研究科教授 (主担当教員)

--- 以下の講師・題目は変更の可能性あり ---

「キャリアの考え方」

☆鈴木 竜太 経営学研究科教授

第2回「プロジェクトマネージャの仕事 ～大型プロジェクトを「料理」する鉄人たち～

★森岡 祥一

神戸大学MBAプログラム(専門職大学院課程)2013年9月修了

川崎重工業株式会社 車両カンパニー 北米プロジェクト本部 プロジェクトダイレクター

第3回「未定」

★北山 貴彦

株式会社KAMAKEのすすめ 代表取締役

神戸大学工学研究科修了

第4回「街づくりの仕事 様々な出会いと学び」

★小林 大介

神戸大学経済学部1995年卒

神戸大学MBAプログラム(専門職大学院課程)2005年卒

三菱商事株式会社 中部支社 電力・インフラ・都市開発事業部

複合都市開発チーム チームリーダー

第5回「仕事はお役立ち」

★佐藤 栄哲

神戸大学経営学部 1993年卒

(株)ミナジン 代表取締役社長

第6回「やりたいことをやれ」

★松田 年史

神戸大学MBAプログラム(専門職大学院課程)2013年9月卒

法政大学大学院 キャリアデザイン学研究科 2018年3月卒

GCDFキャリアカウンセラー取得

本田技研工業株式会社 ブランド・コミュニケーション本部

ブランド部 コーポレートブランド戦略課

第7回「未定」

調整中

第8回 まとめとふりかえりアウトプットレポート (記述形式)

成績評価方法

講義ごとの課題提出物(20%)および授業最終日実施のアウトプット・レポート(80%)で総合的に判定します。

成績評価基準

2回欠席で放棄扱いとなります。毎回のBEEF等での事後課題提出による出席確認と授業最終日実施のアウトプット・レポート提出(提出できない者は単位認定の対象としない)により総合評価します。この授業では、情報や知識の吸収だけではなく、気づきと成長への意欲を重視します。その他詳細については授業中に指示します。

履修上の注意 (関連科目情報)

毎回、事後課題を必ず提出してもらいますので、授業中は絶えず多くを考えたり感じたりしながら、各講師のお話に耳を傾けてください。

事前・事後学修

この授業は毎回講師が異なることから、履修者に準備学習を求めています。準備学習としては、各講師の勤務先企業等についてホームページや図書などあらかじめ調べておいてください。また、復習としては、授業で聴いた用語やキーワード、あるいは人物等について調べ、それらを自分の言葉で説明できるようにしてください。

なお、この授業は1年次配当科目ですが、2、3年生や就職活動を終えてこれから社会に出ていく4(5)年生にもぜひ履修または聴講してもらいたいと願っています。卒業後のキャリア形成や人生設計を考えるうえで大きなヒントが得られるでしょう。また、院生は履修できませんが、聴講は歓迎します。なお総合科目Ⅱは、学部によっては卒業要件単位に入っていない場合がありますかもしれません。自学部の学生便覧で確認してください。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

授業に関する質問等については

担当教員の kitamura@panda.kobe-u.ac.jp もしくは
stdnt-shushoku@office.kobe-u.ac.jp まで。

学生へのメッセージ

「真摯・自由・協同」(神戸大学のモットー)を実践し、「人間性豊かな指導的人材」(「神戸大学の使命」)をめざそう！
自立と社会的関心、そして自己の成長を求める意欲があれば、あなたの未来への歩みは確かなものになります。「自立」とは、他人から命じられて初めて学ぶのではなく、自ら課題を見出して自分の意志で学ぶことができ、何をすればよいか指示を待つのではなく、自分から何をすべきかを考え、目標をもつことができることも意味します。いわば「自律」と不可分の「自立」です。自律には、自分の頭で考える力とそれを自分の言葉で話す力が必要です。自分で判断し自分で行動する姿勢を養ってください。それは、リーダーシップの涵養ということもできます。そのためには沢山のことを学ばなければなりません。とくに演習やゼミで「自ら学ぶ力」を養ってください。そして、「社会的関心」の反対は、自分のことしか関心がないこと。自分の利益しか考えない人は視野と世界が狭くなります。ましてや今はグローバル化への認識が必須の時代です。

社会的関心と社会貢献のサービスの姿勢があれば、何より視野が広がり、自分の能力や知識を何のためにどう行かせばよいか有効に考え、仕事の意味を理解し、多様性を受けとめながら人的ネットワークを豊かに形成し、仕事にいつそうやりがいと喜びを覚えるようになります。そのために今はあらゆるものに知的好奇心を抱き、学ぶことを楽しみましょう。本を読み幅広く教養を身につけるとともに、ぜひ新聞を読んでください。

今年度の工夫

特になし

教科書

特になし

参考書・参考資料等

講義によっては事前配布資料としてBEEF上で配布する場合があります。

授業における使用言語

日本語

キーワード

キャリア、職業、人生、コミュニケーション力、考える力、行動力、リーダーシップ、グローバル化、継続的学習力、夢、目標、ジェンダー平等、対面と遠隔授業の併用

3.2 高度教養科目

開講科目名	国際協力アクティブ・ラーニングA				
成績入力担当	川畑 康治			開講区分	単位数
				前期	2.0単位
ナンバリングコード	U1II500	曜日・時限等	火2	時間割コード	1U953

授業のテーマ

The purpose of the course is to understand the concept of empirical analysis by learning introductory econometrics. When you finish the course, you are expected to be able to read and write empirical papers.

授業の到達目標

The goal of the course is to acquire the knowledge of quantitative analysis for international cooperation by the training for improving analytical skill. Specifically, it is as follows.

- ・ To quantitatively specify "what is the problem?".
- ・ To choose an appropriate analysis method depending on the situation.
- ・ To interpret the analytical result accurately.
- ・ To make accurate prediction and evaluation based on the analytical results.

授業の概要と計画

The course is conducted with a combination of face-to-face & remote classes.

The course covers the basic theories of introductory econometrics; OLS regression analysis and some problems arising with the specific data. We also learn data analysis and computer simulation with real economic data.

- 01-03: The Nature of Econometrics and The Simple Regression Model (face-to-face & remote classes)
- 04-05: Multiple Regression Model: Estimation (face-to-face & remote classes)
- 06-07: Multiple Regression Model: Inference and Further Issues (face-to-face & remote classes)
- 08-09: Multiple Regression Model with Dummy Variables and Heteroskedasticity (face-to-face & remote classes)
- 10-11: Regression Analysis with Time Series Data (face-to-face & remote classes)
- 12-14: Panel Data Analysis and 2 Step Least Squares Estimation (face-to-face & remote classes)
- 15: Carrying out an Empirical Project (face-to-face classes)

*The course schedule is subject to change.

成績評価方法

- Quizzes (70%)
- Short note (10%)
- Term paper (20%)

成績評価基準

The evaluation is based on the degree of comprehension to the basic theory of econometrics studied in class and quantitative analysis using data.

履修上の注意（関連科目情報）

- Recommended Subjects: Statistics, Mathematics for Social Science
- Appendix A, B and C on the textbook

事前・事後学修

To prepare and review lessons are required. In particular, to understand "Going Further" and "Example" in textbook is expected.

Kobe University requires 45 hours of study from students to award one credit, including both in-class instructions as well as study outside classes.

Students are required to prepare for each class and complete the review after each class, depending on the respective class goals.

オフィスアワー・連絡先

Office Hour: 12:00-13:00 on Monday

Office: Frontier Hall #709

学生へのメッセージ

This course requires students to review and preview each class with the textbook.

今年度の工夫

Students can download the class handout, quizzes, etc. online.

教科書

AE Introductory Econometrics 7e / J. M. Wooldridge : Cengage Learning ,2020 ,ISBN:9789814866088

参考書・参考資料等

Introduction to Econometrics, 4th edition / James H. Stock, Mark W. Watson : Pearson Education Limited ,2019 ,ISBN:978-1292264455

授業における使用言語

English

キーワード

OLS, Empirical Analysis, Data, Regression, Laptop, Exchange student(Special auditing student), a combination of face-to-face and remote classes, term paper

開講科目名	国際協力アクティブ・ラーニングB				
成績入力担当	土佐 弘之			開講区分	単位数
				前期	2.0単位
ナンバリングコード	U1II500	曜日・時限等	木2	時間割コード	1U954

授業のテーマ

This course explores the ‘critical’ turn in security studies through an examination of the main contending conceptualizations of security that have emerged in recent years in distinction to the realist-derived orthodoxy. This provides a broad overview of the different theoretical approaches to understanding ‘security’ and begins to apply the different theoretical understandings of security to empirical cases and to be able to form conclusions based on independent judgment and learning.

[EUIJ Subject]

授業の到達目標

The participants in this lecture are expected:

- (i) To acquire the basic knowledge on critical security studies.
- (ii) To understand the current securitization process in each country.
- (iii) To acquire capabilities to analyze the current securitization process critically.

授業の概要と計画

This course is provided in the form of a combination of regular classes (face-to-face classes) and remote (real time and on-demand style) classes. The class will consist of a combination of lectures and group discussions. Students will be required to give a presentation. Weekly reading assignments will be given. Students are expected to read all the assignments and to come to class prepared to discuss them. Each week students will be expected to turn in a short essay (1 page) on the readings for that week.

1. Introduction
2. Security Studies and Political Realism
3. Social Constructivism, Practice, and Power
4. Securitization: The Speech Act and Security
5. Discourse, Identity, Security
6. The Critical Theory and Emancipation
7. Human Security
8. Governmentality, Surveillance, Risk
9. Feminist Theorizing about Security
10. Security from Third World Perspectives
11. Security and Democracy etc.

成績評価方法

Students will be evaluated on the basis of a combination the following:

- * Attendance and class participation 50%
- * Presentations on the readings 20%
- * Short essay 30%

成績評価基準

Students will be evaluated on the basis of a combination of attendance, class participation, weekly assignments and presentations.

The lecturer values the following factors: 1) qualities of the student's research, 2) qualities of the student's presentation, and 3) understanding on the other's presentation/research.

履修上の注意（関連科目情報）

It is recommended that students take International Relations and Issues in Peace and Development 1.

事前・事後学修

Participants are required to spend a few hours to read the text for the preparation for the lecture. After the class, participants are required to spend a few hours to review the class discussion and deepen the comparative analysis of their own.

Kobe University requires 45 hours of study from students to award one credit, including both in-class instructions as well as study outside classes.

Students are required to prepare for each class and complete the review after each class, depending on the respective class goals.

オフィスアワー・連絡先

The best time to talk to me is right after the class.

Otherwise at my research room from 17:00 till 18:00 on Thursday

You can contact me at [tosa\[at\]kobe-u.ac.jp](mailto:tosa@kobe-u.ac.jp)

学生へのメッセージ

I hope that you would enjoy my class through "critical thinking".

今年度の工夫

I updated the reading assignment list of the detailed syllabus.

教科書

Buying books is optional but may help to alleviate the effects of limited library resources. No one book covers the entire course. But the books listed here provide a good background or cover substantial sections of the course. Reading lists will be provided at the beginning of the course.

Ken Booth ed. , *Critical Security Studies and World Politics*. Boulder: Lynne Rienner, 2005.

Barry Buzan, *People, States and Fear*. Boulder: Lynne Rienner, 1991.

Alan Collins ed., *Contemporary Security Studies*. Oxford: Oxford University Press, 2007.

Paul D. Williams ed. *Security Studies: An Introduction*. London: Routledge, 2008.

K.M. Fierke, *Critical Approaches to International Security*. Cambridge: Polity Press, 2007.

Keith Krause and Michael C. Williams eds. *Critical Security Studies*. Minneapolis: University of Minneapolis Press, 1997.

Critical Security Studies: An Introduction 2nd. ed. / Columba Peoples and Nick Vaughan-Williams : Routledge ,2015

参考書・参考資料等

You can download teaching materials from the following URL.

But you need a password, of which I will inform you at the beginning of this class.

授業における使用言語

English

キーワード

Critical Security Studies

開講科目名	海外インターンシップ実習 A				
成績入力担当	横川 博一			開講区分	単位数
				前期	1.0単位
ナンバリングコード	U1II500	曜日・時限等	他	時間割コード	1U971

授業のテーマ

高年次学生対象に「自ら地球的課題を発見し、その解決にリーダーシップを発揮できる人材」（「課題発見・解決型グローバル人材」）を育成するため、海外に一定期間滞在し、国際的なフィールドで学修活動に取り組む。

【シンガポール サステナビリティプログラム（オンライン）】

令和4年度はオンライン実施とします。ビジネス・交通・サプライチェーン・金融などのアジア及び世界のハブとして世界に大きな影響を与えているシンガポールが国を挙げて取り組んでいるサステナビリティ政策や具体的取り組みについて、現地の企業や公的機関のプロフェッショナルの話聞き、サステナビリティの重要テーマについて理解を深める産学協働プロジェクト型プログラムです。

授業の到達目標

本コースでは、「サステナビリティ」をテーマに、シンガポールでの現地体験プロジェクト型プログラムに参加し、個人またはチームでプロジェクト課題を設定・遂行することにより、国際社会が抱える課題としての「サステナビリティ」について深く知ること、及び現場に赴くことで、課題について発見し、その解決に向けた方策を思考する能力を身につけることを学修目標とする。終了後、具体的な行動に結び付くことが期待される。

授業の概要と計画

本講義は「遠隔」で実施する予定です。

本コースの情報は下記サイトをご覧ください（随時更新）

<https://www.solac.kobe-u.ac.jp/singapore2022.html/>

【コース説明会】（4月に開催予定）

詳細は4月開始の募集要項で案内し、説明会を開催します（オンライン開催の予定です）。関心のある人は奮って参加してください。なお、レポート課題及び英語運用力等による事前審査を行い、選抜します。

【事前学修】（7月～8月）

シンガポールオンラインプログラムを有意義なものにするため、事前オンラインオリエンテーションを受講し、シンガポールおよびサステナビリティ全体の理解を深めます。

第1回 事前学修1

第2回 事前学修2

【シンガポールオンライン研修】（8月後半～9月前半）

令和4年度はオンライン実施とする。4つの異なる業界の企業等から直接話を聞き、サステナビリティの重要テーマについて理解を深めます。各回前半は、「サステナブルな環境・経済・社会の実現」および「サステナビリティ分野のキャリアを実現する」をテーマに日本語及び英語でレクチャーを行い、後半は企業ゲストを招いて「リテール・エネルギー・テクノロジー・ファイナンスカンパニーの取り組み」をテーマにトークまたは対談を聞き、意見交換を行います（英語）。学生は学修したことおよび課題等を小レポートにまとめ、提出し、教員の指導を受けます。また、個人またはチームでプロジェクト課題を設定・遂行し、終了後の発表および討論に備えます。以下はあくまでも予定です。

第1回 セッション1 サステナブルな環境の実現に向けて：政策、企業ケースなど（日本語・英語）

セッション2 企業ゲスト1（英語）例「リテールカンパニーの取り組み」

第2回 セッション3 サステナブルな経済の実現に向けて：政策、業界、企業など（日本語・英語）

セッション4 企業ゲスト2（英語）例「エネルギーカンパニーの取り組み」

第3回 セッション5 サステナブルな社会の実現に向けて：政策、企業の役割など（日本語・英語）

セッション6 企業ゲスト3（英語）例「テクノロジーカンパニーの取り組み」

第4回 セッション7 サステナビリティ分野のキャリアを実現する（日本語・英語）

セッション8 企業ゲスト4（英語）例「ファイナンスカンパニーの取り組み」

【事後学修】（9月）

学修したことおよび課題等を小レポートにまとめ、「サステナビリティ実践編：どう行動に移していくか」をテーマに発表・討論を行います。

第1回 プロジェクト報告セッション1

第2回 プロジェクト報告セッション2

成績評価方法

成績評価は、コース及び学生ごとの学修目標に基づいて、事前学修、事後学修における「課題シート」及び「リフレクションシート」の記載内容40%、学外学修における取組と学修成果を60%で評価する。

成績評価基準

・本コースの学修目標及び各自が事前に設定した学修目標をどのように、どの程度達成できたのかを振り返り、これらを文章あるいは各種データ等を用いて説明していること。

・具体的な基準は、以下のとおりです。

国際社会が抱える課題としての「サステナビリティ」について深く知ることができたか

現場に赴くことで、課題について発見し、その解決に向けた方策を思考する能力を身につけることができたか

上記の授業の到達目標を達成していない場合、不可となる。また到達目標を達成し、かつどれくらい成果を修めているかに応じて秀・優・良・可を判断する。

履修上の注意（関連科目情報）

- ・2022年度はオンライン研修となりますが、本コースの受講には費用がかかります。詳しくは「コース説明会」等でお知らせします。
- ・「神戸グローバルチャレンジプログラム」は、「事前学修」「学外学修」「事後学修」で構成されています。受講生は、全ての学修に参加する必要があります。
- ・学外学修において、活動期間中の活動時間とその内容を「B E E F」に登録します。

事前・事後学修

- ・事前学修において、BEEFにアップしている課題をこなすなどして、シンガポールオンライン研修の準備を進めます。
- ・事後学修において、学修の振り返りを行い、その結果を記載した学修成果に関する「リフレクションシート（報告書）」を作成し、BEEF に登録します。
- ・本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

随時。大学教育推進機構・国際コミュニケーションセンター教授 横川博一 yokokawa@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

特定の教科書は使用しません。随時資料を配信します。

参考書・参考資料等

参考書・参考資料は授業内外で指示・紹介します。

授業における使用言語

日本語及び英語の併用

キーワード

遠隔授業、サステイナビリティ、産学連携、プロジェクト型演習、長文レポート

開講科目名	国際協力アクティブ・ラーニングC				
成績入力担当	四本 健二			開講区分	単位数
				後期	2.0単位
ナンバリングコード	U1II500	曜日・時限等	木5	時間割コード	3U951

授業のテーマ

This course will provide an overview of the constitutions in authoritarian countries with focusing on selected aspects. The course will be a mixture of presentations and discussions (50%) and lectures(50%).

授業の到達目標

Students will be able to understand basic structure and function of the legal and judicial system under the authoritarian regimes.

授業の概要と計画

- 1, Introduction
- 2, Overview of Authoritarian Constitutions
- 3, Ruling against Rules
- 4, Authoritarian constitutionalism
- 5, The Political Economy of Autocratic Constitutions
- 6, Authoritarian Constitution Making
- 7, Constitutions in Authoritarian Regimes
- 8, The Context of Authoritarian Constitutions
- 9, Constitutional Variation among Strains of Authoritarianism
- 10, The Role of Presidential Power in Authoritarian Elections
- 11, The Informal Politics of Formal Constitutions
- 12, The Party's Leadership as Living Constitutions
- 13, Case Study in ASEAN
- 14, Case Study in East Asia
- 15, Democratization and Constitution

成績評価方法

Presentation (20%)
Research paper (80%)

成績評価基準

Evaluation will be based on participation, contribution in class and research paper.

履修上の注意（関連科目情報）

Students are required to read books or materials which introduced in the class.

事前・事後学修

Reading text and materials carefully.

Kobe University requires 45 hours of study from students to award one credit, including both in-class instructions as well as study outside classes. Students are required to prepare for each class and complete the review after each class, depending on the respective class goals.

オフィスアワー・連絡先

Before and after classes

学生へのメッセージ

Students will be expected an active participation, attendance and discussion.

今年度の工夫

Newly amended constitutions in authoritarian countries will be introduced in the class.

教科書

Constitutions in Authoritarian Regime / Tom Ginsburg : ,2014 ,ISBN:9781107663947

参考書・参考資料等

The Dictator's handbook / Bruce Bueno De Mesquita : , ,ISBN:

授業における使用言語

English

キーワード

constitution

開講科目名	高等外国語教育論				
成績入力担当	保田 幸子			開講区分	単位数
				第3クォーター	1.0単位
ナンバリングコード	U1II500	曜日・時限等	金4	時間割コード	3U956

授業のテーマ

グローバル社会の進展に伴い、高度な外国語能力の育成に対するニーズが高まっているが、それを可能にする教授法や学習のあり方については多様な考え方やアプローチがあり、正解は一つではない。本講義では、将来にわたって外国語を学び続け、自分の仕事に生かそうとする学生、また、将来外国語の教育に携わろうとする学生を対象として、様々な外国語教育の実践やその理論的背景を紹介する。また、言語の様態、音声、文学など、外国語に関わる多様な論点を紹介する。

なお、本講義は3Qならびに4Qのそれぞれに開講されるが、3Q（本授業科目）は外国語教育の基盤となる言語学、言語習得、文学、教育心理学等に、4Qは外国語教育の教材・教授法・関連研究等に、主としてフォーカスをあてる予定である。重複受講はできないので各自の関心をふまえていずれか1つを受講するようにしてください。

授業の到達目標

本講義では、受講生が、外国語教育をめぐる多様なシステムやコンテンツについて基礎的理解を深めることを主たる目標とする。

授業の概要と計画

7名の教員が毎週それぞれのテーマで講義を行い、8回目に試験を実施する。開講テーマは以下の通りである*。

第1回 初回オリエンテーション／外国語学習の科学—ことばを習得するとはどういうことか—（保田幸子）

第2回 世界レベルで見た言語の様態（高橋康徳）

第3回 文学作品にみる英語表現（島津厚久）

第4回 ことばと音（安田麗）

第5回 ラテン語から学ぶヨーロッパ言語（廣田大地）

第6回 言語処理および言語学習のプロセス（濱田真由）

第7回 外国語の獲得・処理・学習の認知メカニズム（横川博一）

第8回（対面） 試験（試験形式について変更がある場合はその都度連絡する）

* 担当教員と内容の順序が入れ替わる可能性がある。その場合は、初回オリエンテーション時に連絡する。

成績評価方法

①毎回の講義時に小レポート、もしくは小テストを行う。

小レポート・テスト（5点×7回＝35点）

②第8回目にそれぞれのテーマに関連した筆記試験（計7問）を行うとともに、「オムニバス授業全体で学んだこと」という題名で作文を書いてもらう（筆記試験：8点×7問＝56点、作文：9点）

成績評価基準

- ・各回の授業テーマに即して、外国語教育のあり方について理解を深めることができたか。
- ・授業全体を通じて、それらを総合して、外国語教育のあり方について考えを深めることができたか。

履修上の注意（関連科目情報）

（1）本授業科目は対面形式で実施する予定であるが、コロナウイルスの感染状況の変化によって変更の可能性がある。詳しくは、神戸大学LMS BEEFに掲載する。

（2）試験の実施方法などについても変更することもありうるので、変更がある場合はその都度連絡する。

（3）本講義はQ3とQ4それぞれに開講されるが、Q3は外国語教育のシステム面（基盤となる言語学、言語習得、文学、心理学等）に、Q4は外国語教育のコンテンツ面（教材・教授法・関連研究等）に主としてフォーカスをあてる。重複受講はできないので各自の関心を踏まえていずれか1つを受講すること。

事前・事後学修

オムニバス授業のため、事前学修・事後学修については、その都度担当教員から指示する。授業前に、神戸大学 LMS BEEF で確認すること。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

科目コーディネーター：保田幸子（大学教育推進機構 国際コミュニケーションセンター 教授）

・ 随時受け付けます。事前にメールでアポイントメントをとってください。syasuda@opal.kobe-u.ac.jp

・ 研究室：鶴甲第一キャンパスD棟621

学生へのメッセージ

将来、外国語の教師を志望する学生をはじめ、外国語教育のあり方について理解を深めたい、あるいは将来の職業に活かしたいと考えている学生の受講を歓迎する。

今年度の工夫

神戸大学LMS BEEFも一部活用し、授業外での学修が行えるようにする。

教科書

特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料等をBEEFにアップする。

参考書・参考資料等

授業内外で、適宜紹介する。

授業における使用言語

日本語及び英語の併用

キーワード

外国語教育 外国語 言語学 文学 心理学

開講科目名	大学教育論				
成績入力担当	近田 政博、大山 牧子、葛城 浩一	開講区分	単位数		
		第3クォーター	1.0単位		
ナンバリングコード	U111500	曜日・時限等	月5	時間割コード	3U957

授業のテーマ

本授業は、大学で働くことの意味と魅力について探求します。大学院に進学して大学教員／研究者になろうと考えている大学生、および大学の事務職員や技術職員になろうと考えている大学生を歓迎します。大学はどのような歴史的経緯を持ち、またこれからどのような方向に進もうとしているのか、教職員として大学で働くことにはどのような魅力があるか、いわば「職場としての大学」について、ディスカッション中心に議論します。

授業の到達目標

- ・大学教育における教員論について、その特徴を踏まえて自分の考えを説明できる
- ・大学教育における職員論について、その特徴を踏まえて自分の考えを説明できる
- ・大学教育における学生論について、その特徴を踏まえて自分の考えを説明できる
- ・大学教育における教育論について、その特徴を踏まえて自分の考えを説明できる
- ・大学教員や大学職員の職業特性について、理論的知見を踏まえて自ら問いを立てて自論を展開できる

授業の概要と計画

本授業は第3クォーター月曜5限に行います（午後5時～6時半）。2022年10月3日スタート、全8回です。本授業は対面で実施し、BEEFを併用します。授業の実施形態や内容は、新型コロナウイルスの感染状況により変更することがあります。最新の情報をBEEFに掲載するので、確認するようにしてください。

本授業では大学がどのような組織であるのか、学生、教員、職員にはどのような特性があり、今後どこに向かうのか、教職員として大学で働くことにどのような魅力があるかを探求します。大学教育研究センターの教員3人が担当します。毎回の内容はおよそ次の通りです。

1. オリエンテーション、教員論（近田）
2. 教員論つづき（近田）、小課題①提出
3. 職員論（ゲストスピーカー＋近田）
4. 職員論つづき（ゲストスピーカー＋近田）、小課題②提出
5. 学生論（葛城）
6. 学生論つづき（葛城）、小課題③提出
7. 教育論（大山）
8. 教育論つづき（大山）、小課題④提出

第5回、第6回の職員論では、現役の大学職員をゲストスピーカーとして招へいし、その職務内容について紹介します。

成績評価方法

小課題4回と期末レポートで総合評定します。教員論、職員論、学生論、教育論の单元ごとに設定してある小課題を提出してください（15点×4回）。小課題は他の学生に紹介されるという前提で作成してください。詳細は授業時に説明します。授業中に実施する場合もあります。

期末レポート（40点）では、大学教員や大学職員がどのような職業特性をもつかを、授業で扱った内容や参考文献を活用しながら、自分なりの言葉で説明してください。BEEF上で提出してください。1000字以上。

成績評価基準

小課題は次の2点で評価します。

- ・授業で扱う内容について理解している
- ・授業で扱う内容について、自分なりの意見を説明できる

期末レポートは次の2点で評価します。

- ・大学教員や大学職員の職業特性について、具体的な問いを設定している
- ・問いを明らかにするための論理を適切に展開している

履修上の注意（関連科目情報）

本授業は高度教養科目として開講します。履修対象は2年次以上です。学部指定はありません。履修上限は30名とします。授業を行う場所は、国際文化科学研究科のある鶴甲第一キャンパスN棟4階のN402Aというセミナー室です。

事前・事後学修

BEEFに予習・復習のための教材を事前にアップします。履修人数が少ない場合は、教材や小課題は紙媒体で直接配付する可能性もあります。

オフィスアワー・連絡先

初回の授業で担当教員のメールアドレスを伝えます。本授業を担当するのは、近田政博（ちかだまさひろ）、葛城浩一（くずきこういち）、大山牧子（おおやままきこ）の3人です。面談を希望する場合は、事前にメールでアポイントをとってください。3人の研究室は鶴甲第一キャンパスC棟4階にあります。

学生へのメッセージ

初回の授業に必ず出席してください。進め方を詳しく説明します。皆さんが学んでいる大学という場合は、教える立場、運営する立場からは別の姿が見えます。学生のニーズも大学によって大きく異なります。この授業では学生の知らない大学を紹介します。とくに大学教員と比べて大学職員という職業は、大学生にとってあまりなじみがないと思いますので、この授業で詳しく紹介します。

今年度の工夫

ディスカッションを通じて、リラックスした雰囲気で見聞交換できるように配慮します。

教科書

この授業では特定の教科書を用いません。

参考書・参考資料等

とりあえず下記の3冊を挙げますが、読んでほしい文献は他にもたくさんあります。授業中に随時紹介します。

もっと知りたい大学教員の仕事 / 羽田貴史編著 : ナカニシヤ出版, 2015, ISBN:477951004X

大学教員準備講座 / 夏目達也他 : 玉川大学出版部, 2010, ISBN:4472404001

大学事務職員のための高等教育システム論 / 山本眞一 : 東進堂, 2012, ISBN:4798901202

授業における使用言語

日本語

キーワード

パソコン

長文レポート（A4で2頁以内）

開講科目名	高等外国語教育論				
成績入力担当	芹澤 円	開講区分		単位数	
		第4クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1II500	曜日・時限等	金4	時間割コード	4U956

授業のテーマ

グローバル社会の進展に伴い、高度な外国語能力の育成に対するニーズが高まっているが、それを可能にする学習や教授の在り方については今も明確な立場が存在しない。本講義では、将来にわたって外国語を学び続け、自分の仕事に生かそうとする学生、また、将来外国語の教育に携わろうとする学生を対象として、古今の外国語教育の実践や背景、また、現代の外国語教育に関わる多様な論点を紹介する。なお、本講義はQ3、Q4の2期にわたって開講されるが、Q3は外国語教育のシステム面（基盤となる言語学、文学、心理学等）に、Q4は外国語教育のコンテンツ面（教材・教授法・関連研究等）に主としてフォーカスをあてる。重複受講はできないので各自の関心をふまえていずれか1つを受講すること。

授業の到達目標

本講義では、受講生が、外国語教育をめぐる多様なシステムやコンテンツについて基礎的理解を深めることを主たる目標とする。

授業の概要と計画

【Q4】

Q4では、外国語教育のコンテンツ（内容）面に関わる多様なトピックを取り上げ、それぞれの専門家が解説を行う。

授業予定（※順序は変更される可能性もある）

- 1 ガイダンス、外国語教育における文法指導（芹澤）12月9日
- 2 外国語教育における音声指導Ⅰ（大和）12月16日
- 3 外国語教育における音声指導Ⅱ（朱）12月23日
- 4 外国語教育の方法（石川）1月6日
- 5 外国語教育における作文指導（木原）1月10日
- 6 外国語教育におけるメディアの活用（柏木）1月20日
- 7 外国語教育における会話指導（グリア）1月27日
- 8 授業内試験（芹澤）2月3日

※なお、各回の担当講師は、大学教育推進機構国際コミュニケーションセンター、および、大学院国際文化学研究科外国語教育論講座外国語教育コンテンツ論に所属する教員である。

成績評価方法

7回の講義の中から1つのテーマを選んでレポートを作成し、8回目の授業で提出・報告する。

毎回の授業への出席、最終レポートの提出、最終報告の出来栄によって総合的に評価を行う。

成績評価基準

「外国語教育をめぐる多様なシステムやコンテンツについて基礎的理解を深める」という目標の到達度合いによって、評価を行う。

履修上の注意（関連科目情報）

Q3の同名科目との重複受講は認めない。本講義はQ3、Q4の2期にわたって開講されるが、Q3は外国語教育のシステム面（基盤となる言語学、文学、心理学等）に、Q4は外国語教育のコンテンツ面（教材・教授法・関連研究等）に主としてフォーカスをあてる。重複受講はできないので各自の関心を踏まえていずれか1つを受講すること。

事前・事後学修

開講前に英語教育や日本語教育に関する入門的書籍に目を通しておくことを薦める。また、講義をふまえてレポートを書く際には有益な文献を授業内で紹介する。

オフィスアワー・連絡先

講義コーディネイター

芹澤円（大学教育推進機構 助教）

m.serizawa@phoenix.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

外国語を学ぶことは一生の課題であるが、教えるという視点を導入することで、日々の学びにも新たな視野の広がりが期待できる。将来、外国語の教師になりたい学生はもちろん、外国語の能力を高め、ビジネスや研究に活用したい学生の受講も大いに歓迎する。ただし、外国語のスキルアップを直接的に目指す授業ではないため、授業のテーマ・目標をよく理解して受講されたい。

今年度の工夫

オムニバス開講となるので、コーディネイターが中心になって履修情報等をBEEFなどを通して共有する等、きめ細かな指導体制がとれるよう工夫を行う。

教科書

プリントを配布

参考書・参考資料等

授業内で指示する

授業における使用言語

日本語及び英語の併用

主として日本語で講義するが、講義の回によっては、英語を使用することがある。

キーワード

外国語, 教育, 学習, 第2言語習得, 応用言語学

3.3 総合科目

開講科目名	総合科目Ⅰ（神戸GCP基礎論）		
成績入力担当	林 良子、野上 恵美、永井 敦	開講区分	単位数
		第1クォーター	1.0単位
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	木5
		時間割コード	1U903

授業のテーマ

人、情報、経済が日々めまぐるしいスピードで国境を越え移動する昨今、グローバル化は私たちの日々の生活の隅々に入り込んでいます。私たちが物理的に国境を越えなくても、向こうの「何か」がいつのまにか国境のこちら側に入ってきて、私たちを包みこんでくれます。こうした世界の動きに受け身になるのではなく、むしろ自分から外に出て行き、「世界を学ぶ」、「世界で学ぶ」ことで、その「何か」を自分の目で見極めて自分のものにするのはこれからの社会を生き抜く上で大切な鍵となります。それゆえ海外プログラムに参加することは、この経験を積んでいくためのよい機会となります。

本講義では、前半で「世界を学ぶ」ために、日本及びグローバル・イシューを取り上げ、続く後半では「世界で学ぶ」ために海外で活動をする際に求められるものについて取り上げます。世界の捉え方、世界にアプローチする方法について学ぶことにより、神戸グローバルチャレンジプログラムを始めとする海外プログラムに積極的に挑戦する意欲を養います。

授業の到達目標

- ①海外の学修活動に取り組むことへの心のハードルを低くし、1、2年生のうちから積極的に海外プログラムに参加する気持ちを促進することを目指します。
- ②授業履修中に関心のあるグローバル・イシューを見つけ、自主的にそれについて学び、調べることができるようになる。そのうえで、どのような行動を起こしたらよいかを考え、実行できるようになることを目指します。

授業の概要と計画

授業の前半4回はグローバル・イシュー関し、各回取り上げるトピックを専門とする教員（もしくはゲストスピーカー）が講義をします。後半4回は海外で活動を行う際の基本的な能力について学びます。授業はオムニバス形式となります。各回講義で取り上げるテーマは下記を予定していますが、担当講師は現在調整中です。講師の先生の都合によって講義内容が変わることもあります。

<授業スケジュール>

- 第1回 4月14日 ガイダンス・「海外『事始め』」（林良子先生・国際文化学研究科、学部時代に留学経験のある本学0G）
- 第2回 4月21日 「海外で働く」（中川勝司先生・住友商事株式会社）
- 第3回 4月28日 「エシカル消費について」（有川真理子先生・SWAVE/サステナブルコミュニケーションプランナー）
- 第4回 5月12日 「フェアトレードについて」（奈良雅美先生・NPO代表法人 アジア女性自立プロジェクト（AWEP）代表理事）
- 第5回 5月19日 「グローバル化と感染症」（中澤港先生・保健学研究科）
- 第6回 5月26日 「グローバルコミュニケーションについて」（巽智子先生・国際文化学研究科）
- 第7回 6月2日 「異文化理解と多様性の受容について」（Fariza Abidova先生・Trusted Corporation）
- 第8回 6月9日 「グローバルリーダーシップ」（野上麻理先生・グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン株式会社 代表取締役）

成績評価方法

評価は次の2点で行います。

- ①フィードバックシート（各回授業毎に提出）
- ②期末レポート2本

成績評価基準

フィードバックシート（8回分）と期末レポート（2本）の評価基準は以下の通りです。

- ① フィードバックシート（1回5点、全8回分、計40点）
 - ・ 授業内容について理解がある 3点
 - ・ 授業内容を踏まえ応用的発想がある 4点以上
- ② 期末レポート（1本30点、全2本、計60点）
 - ・ 授業内容について理解がある 15点
 - ・ 授業内容を踏まえ応用的発想がある 16点以上

履修上の注意（関連科目情報）

・ 授業は基本的に対面を予定していますが、新型コロナウイルス感染拡大により授業形態が変更となる場合はBEEFでお知らせします。

<関連科目情報>

「神戸グローバルチャレンジプログラム」関連科目として開講しています。

事前・事後学修

・ 授業で取り扱うトピックに関する専門用語は英語でさらうほうが好ましい。
・ 世界で起きている事象について日本のそれと絡め、自分なりに関心のあるトピックを見つけてください。
・ 海外での活動に取り組むにあたって、自分に足りない能力は何か常に考えましょう。
本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

月～金曜日9：00～17：00の間、鶴1 N棟403で授業や海外プログラムに関する相談に対応します。
相談にあたっては、事前にメール等で予約をしてください。

E-mail : stdnt-jimu-kgcp@office.kobe-u.ac.jp（神戸GCPコーディネーター）

学生へのメッセージ

この講義で学んだことを頭で分かっている、海外での活動に取り組まないと体感できないことが多いので、経験を通じほうがより理解が深まります。そのため、受講後は次のステップとして実際に海外学修に参加してください。

今年度の工夫

海外で起きていること、海外で活動することは、皆さんの日常から切り離された全く別の次元で起こったり、取り組んだりすることではなく、現在の皆さんが身を置いている場所の延長線上にあることを理解できるよう講義を進めます。

教科書

特定の教科書は用いません。

参考書・参考資料等

参考資料は授業中に必要に応じてプリント資料を配付します。また、参考図書は初回授業及び授業中に随時紹介します。

授業における使用言語

日本語

授業は基本的に日本語で行いますが、海外の事象を取り扱う際は英語資料を使用することがあります。

キーワード

海外学修、グローバルイシュー、グローバル人材、異文化理解、実務経験教員

開講科目名	総合科目Ⅰ（CreativeSchool基礎編（課題解決の考え方の考え方））				
成績入力担当	祇園 景子、鶴田 宏樹	開講区分	単位数		
		第2クォーター	1.0単位		
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	火5	時間割コード	2U901

授業のテーマ

本授業は、問題の定義が不明確（悪定義）で、解決手段が不明確（悪構造）で、唯一最適解が存在するように設定されていない（悪設定）問題に対峙する際に必要な思考方法を習得し、新しい知を創造できる人を育成することを目指します。具体的には、論理的思考、システム思考、デザイン思考の3つの思考方法を習得し、グループワークを通じて思考方法を使いこなすことに挑戦してもらいます。

・論理的思考

筋道の通った思考、つまりある文章や話が論証の形式（前提－結論、また主張－理由という枠組み）を整えていること。

・デザイン思考

デザイナーがデザインをするときの思考で、「Empathize（共感）」「Define（問題定義）」「Ideate（創造）」「Prototype（試作）」「Test（試験）」の要素からなるとされる。

・システム思考

物事を要素間の関係性（システム）として捉えること。狭義では、因果ループ図を指す。

授業の到達目標

- ・論理的思考について理解し、使いこなすことができる
- ・システム思考について理解し、使いこなすことができる
- ・デザイン思考について理解し、使いこなすことができる
- ・グループワークで他者とコミュニケーションが取れる

授業の概要と計画

本授業はオンラインで開講します。

第1回：オリエンテーション

イントロダクション

論理的思考（演繹と帰納、事実と解釈）

第2回：アイスブレイク

論理的思考

第3回：デザイン思考（ブレインストーミングと親和図法を使って）

第4回：デザイン思考（強制連想法とプロトタイプングを使って）

第5回：デザイン思考（ユースケースを使って）

第6回：システム思考（要求機能分析とシステムアーキテクチャを使って）

第7回：システム思考（因果ループ図と顧客価値連鎖分析を使って）

第8回：思考プロセスデザイン

（内容は変更することがあります。）

履修を希望する学生は、5/31までに、担当教員・鶴田（tsuruta@kobe-u.ac.jp）まで以下の情報をメールで送付してください。

・ 件名：2022 CS基礎編 受講希望

・ 文章中に、氏名・学部・学籍番号

ただし、履修希望者が定員を超えた場合は、「受講エントリーシート」（後日送付）により選考する可能性があります。

成績評価方法

授業中のグループワークの参加状況・発言内容(60%)と期末レポート(40%)により総合的に評価します。

成績評価基準

授業中のグループワーク参加状況(60%)と期末レポート(40%)により総合的に評価します。期末レポートが期日までに提出がない者は、単位認定の対象となりません。

履修上の注意(関連科目情報)

この授業の定員は約40名です。

履修を希望する学生は、5/31までに、担当教員・鶴田(tsuruta@kobe-u.ac.jp)まで以下の情報をメールで送付してください。

・ 件名: 2022 CS基礎編 受講希望

・ 文章中に、氏名・学部・学籍番号

ただし、履修希望者が定員を超えた場合は、「受講エントリーシート」(後日送付)により選考する可能性があります。

ディスカッション形式の演習であるため基本的に全回出席できる学生が対象です。

この授業の関連科目は、第3~40開講の「Creative School応用編」です。基礎編で学んだ思考法を応用編の課題解決型学習で実践することができます。

この授業は、イノベーション教育およびキャリア教育のプログラムとして位置づけられており、1年次学生を対象としていますが、2年次以上も履修できます。

この授業では、遅刻、途中入場・途中退室は厳禁です。

事前・事後学修

BEEFに事前掲載した資料の関係する部分を読んだうえで、疑問点をまとめておくこと、事後学修は、授業で学んだことを整理する。また、本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

鶴田宏樹(つるた ひろき)

自然科学3号館4階415室 Tel: 078-803-5946 mail: tsuruta[at]kobe-u.ac.jp

祇園景子(ぎおん けいこ)

工学研究科 2W-204 mail: kgion[at]port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

一人ではできないことも、仲間がいればできることがあります。文系理系関係なく協働することで生まれる多様性は、思考の幅を広げ、優れたアイデアにつながります。グループワークを通じて、多様な仲間をたくさんつくってください。

この授業は、たくさんの学生と議論しながら一緒につくっています。自分たちは何を求めているのかを論理的に説明し、授業内容をデザインし、授業の価値を考えてくれる仲間を募集しています。

今年度の工夫

「考え方」の基盤となる知識を習得するためにグループワークをファシリテートする。議論・討論を通じて論理的思考を身につけさせる。メッセージの重点の確認、Q & Aセッションにおける双方向性コミュニケーションの促進に留意する。

教科書

授業前日までに配布資料をBEEFにアップロードします。

参考書・参考資料等

Creative Confidence: Unleashing the Creative Potential Within Us All / David Kelley and Tom Kelley : William Collins ,2013 ,ISBN:9780385349369

クリエイティブ・マインドセット 想像力・好奇心・勇気が目覚める驚異の思考法 / デヴィッド ケリーら : 日経BP社 ,2014 , ISBN:9784822250256

システム×デザイン思考で世界を変える 慶應SDM「イノベーションのつくり方」 / 前野隆司ら : 日経BP社 ,2014 , ISBN:4822249948

授業における使用言語

日本語

キーワード

論理的思考 デザイン思考 システム思考 課題解決 遠隔授業

開講科目名	総合科目Ⅰ（CreativeSchool応用編（オープンイノベーションコース））				
成績入力担当	祇園 景子、鶴田 宏樹			開講区分	単位数
				第2クォーター	1.0単位
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	他	時間割コード	2U902

授業のテーマ

本授業は、Creative School基礎編で培った「考え方の考え方」に基づいて、実社会における課題に対してソリューションを提案してもらう課題解決型学習です。本講義は、文部科学省 次世代アントレプレナー育成事業における「レジリエンス社会の構築を牽引する社会起業家精神育成プログラム」として開講し、神戸大学・東北大学・宮城大学・北海道大学・小樽商科大学・徳島大学が共同で実施するプログラムの一部に含まれます。今年度のテーマは、「被災地に学び、未来の防災・減災を考える～南海トラフなど来たる自然災害に備える～」とします。東北でのフィールドワークを通じて、東日本大震災における復興プロセスを振り返りながら、今後発生するであろう我が国の大規模災害に対して、徳島にて新しい復興／防災・減災の在り方を考えることで、未来のレジリエンスについて考える機会を設けます。

授業の到達目標

本プログラムにおいて、レジリエンスとは、「システム・企業・個人が極度の状況変化に直面した時、基本的な目的と健全性を維持する能力」（「Resilience」Andrew Zolli and Marie Healy [2013]）と定義し、レジリエント社会の構築を牽引する人材を「社会システムの脆弱性を読み解き、災害による変化を予測して、創造的価値を生む事業を創出・持続できる人」と定義します。本定義に基づき、以下の4項目を到達目標とします。

- ・社会システムの背景（歴史・文化・地理・産業など）を理解することができる。
- ・極度の状況変化による影響（社会システムのダメージ・ステークホルダーの心理など）を理解できる。
- ・自助・共助・公助の視点を有する。
- ・社会的価値と経済的価値を両立する事業を設計することができる。

授業の概要と計画

○9月集中講義（開講日程は未定：追って連絡します）

遠隔講義（オンデマンドとリアルタイム）で開講します。

第1回 オリエンテーション

講義「レジリエント社会とは何か」

講義とワーク「社会システムとその脆弱性」

講義とワーク「極度の状況変化による影響」

講義とワーク「極度の状況変化を理解するーインフラ・心理ー」

第2回

視察「女川町」

講義「自助・共助・公助の仕組み」

視察「雄勝町」

グループワーク

発表とフィードバック

第3回

講義「来たるべき大規模災害の予測」

講義とワーク「防災・復旧・復興の時間的全体俯瞰」

講義とワーク「社会的価値と経済的価値の両立」

講義とワーク「レジリエントを高める事業を描く」

グループワーク

発表・フィードバック

履修を希望する学生は、8/2までに、担当教員・鶴田（tsuruta@kobe-u.ac.jp）まで以下の情報をメールで送付してください。

・ 件名：2022 CS応用編 受講希望

・ 文章中に、氏名・学部・学籍番号

ただし、履修希望者が定員を超えた場合は、「受講エントリーシート」（後日送付）により選考する可能性があります。

成績評価方法

講義およびグループワーク参加状況・発言内容（60%）と期末レポート・プレゼンテーション（40%）により総合的に評価します。

成績評価基準

講義および授業中のグループワーク参加状況(60%)と期末レポート（40%）により、積極性や論理性を絶対評価として総合的に評価します。終了時のレポートが期日までに提出がない者は、単位認定の対象となりません。

履修上の注意（関連科目情報）

履修を希望する学生は、8/2までに、担当教員・鶴田（tsuruta@kobe-u.ac.jp）まで以下の情報をメールで送付してください。

・ 件名：2022 CS応用編 受講希望

・ 文章中に、氏名・学部・学籍番号

ただし、履修希望者が定員を超えた場合は、「受講エントリーシート」（後日送付）により選考する可能性があります。

本授業の履修者は、基本的に第20開講の「Creative School基礎編」を受講した学生を対象としています。基礎編で学んだ思考法をこの応用編の課題解決型学習で実践してもらいます。この授業の定員は約6名です。履修方法は第2Q「Creative School基礎編」でも案内します。

受講登録については、共通教育K棟掲示板および「Creative School基礎編」の講義中にも案内します。

事前・事後学修

事前学習および事後学習として、BEEFに事前掲載した資料の関係する部分を読んだうえで、疑問点をまとめておくこと、事後学修は、授業で学んだことを整理する。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

鶴田宏樹（つるた ひろき）

自然科学3号館4階415室 Tel: 078-803-5946 mail: tsuruta[at]kobe-u.ac.jp

祇園景子（ぎおん けいこ）

工学部2W-204号室 mail: kgion[at]port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

大学の中には、見えないことがたくさんあります。実際に社会を見て、問いを立て、課題を設定することを常に心がけてください。グループワークによる議論から、他者の考えを聞き出し、複数の異なる意見を統合することに挑戦してみてください。とても難しいですが、まずは、異なる意見の関係性を構造化して可視化してみましょう。

今年度の工夫

復興／防災・減災に係る事業創出について体系的に教示する。復興／防災・減災に係る事業創出におけるコミュニティを他大学と連携して構築する。フィールドワークを充実させる。

教科書

授業前日までに配布資料をBEEFにアップロードします。

参考書・参考資料等

レジリエンス復活力：あらゆるシステムの破綻と回復を分けるものは何か / アンドリュー・ゾッリ 他：ダイヤモンド社, 2017, ISBN:9784478012338

授業における使用言語

日本語

キーワード

レジリエンス 復興／防災・減災 課題解決 フィールドワーク 新規事業創出 遠隔授業

開講科目名	総合科目I (ひょうご神戸学)				
成績入力担当	田中丸 治哉	開講区分		単位数	
		第2クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	月5	時間割コード	2U903

授業のテーマ

現在、「地域社会の危機」について様々な分野で議論されており、また一方で地域再生や地域づくりの取り組みが各地で行われている。この授業では、地域で活躍できる人材、地元の兵庫・神戸で地域の担い手となれる人材の育成を目的とし、兵庫・神戸地域について、経済、地理、歴史、戦災や災害、そして現状や課題などの基礎的知識についての講義をおこなう。

授業の到達目標

地域を理解するための基礎として、大学の地元である兵庫県・神戸市についての多角的な知識を身につける。

授業の概要と計画

<授業形態> 遠隔授業 (リアルタイムの場合もあるためBEEFで確認すること)

<授業スケジュール>

6月13日 経済から見る兵庫・神戸のあゆみ (山地秀俊・神戸大学経済経営研究所元教授)

6月20日 兵庫県・神戸市の農業 (田中丸治哉・農学研究科教授)

6月27日 兵庫県・神戸市の歴史 (奥村弘・理事副学長 (人文学研究科教授))

7月4日 兵庫県の現在 (飯塚知香子・兵庫県企画県民部地域創生局長企画参事 (地域創成担当))

7月11日 神戸市の現状と未来の姿 (藤岡健・神戸市企画調整局つなぐラボ担当部長)

7月25日 兵庫県・神戸市の地理 (菊地真・人文学研究科准教授)

8月1日 兵庫県の災害と戦災 (佐々木和子・人文学研究科地域連携センター研究員)

8月8日 兵庫県の地域課題 地元メディアの視点から (黒田浩二・神戸新聞社地域総研地域連携部次長)

成績評価方法

毎回の授業でのコメントペーパー (80%) とレポート試験 (20%) で評価する。最終レポートを提出していない場合は、それまでにコメントペーパーが提出されていたとしても不可とする。

成績評価基準

各授業回のテーマに即し、兵庫県・神戸市の現状や課題について正確に理解できているか。

履修上の注意 (関連科目情報)

オムニバス授業であるため毎回コメントペーパーを提出すること。なお総合教養科目「地域社会形成基礎論」も合わせて履修することが望ましい。

事前・事後学修

事前学習：各回の授業で取り扱う項目について、BEEF上に事前掲載された参考資料 (担当教員の論文など) をあらかじめ読んで上で疑問点・質問点をまとめておくこと。

事後学習：授業中に指示された参考文献、「地域づくりの基礎知識」シリーズ1~5冊 (<http://www.org.kobe-u.ac.jp/kupress/pubindex.html>) を入手・参照し、授業で学んだことについてまとめること。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて

事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

随時。メールにて事前に連絡すること。

主担当教員：田中丸治哉・産官学連携本部5階地域連携推進本部

メール送信時は以下の2アドレスに同時送信すること。

ksui-chiiki(at mark)office.kobe-u.ac.jp

tanakam(at mark)kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

文部科学省は平成27年度より、人口流出県の大学、行政、企業、団体等が連携して、地域社会に貢献できる人材を育成し、若者の地元定着を促進する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）を開始した。兵庫県では神戸大学が申請校となり「地域創生に伝える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」がこれに採択された。この授業は、このCOC+事業の一環でプログラム開発した地域志向科目として開講される。共通教育科目や各学部で開講されている地域志向科目もあわせて履修し、地域社会に対する総合的な理解の上に専門性を身に付けることを期待する。

今年度の工夫

各分野の専門の研究者のほか、兵庫県・神戸市の職員、神戸新聞社の編集委員が講師となり、兵庫・神戸地域の実情を多角的に知ることができるようにしている。

教科書

使用しない。各回のレジメ・参考資料はBEEF上に事前にアップしているので各自ダウンロードしておくこと。

参考書・参考資料等

テーマごとの文献は授業中に適宜指示する。

神戸学検定公式テキスト神戸学〔改訂版〕 / 神木哲男：神戸新聞総合出版センター，2012，ISBN:978-4-343-00688-2

地域づくりの基礎知識 1 地域歴史遺産と現代社会 / 奥村弘：神戸大学出版会，2018，ISBN:978-4-909364-01-2

授業における使用言語

日本語

キーワード

地域 神戸市 兵庫県 持続可能な発展 安全（防災・減災） 実務経験教員 遠隔授業

開講科目名	総合科目I (地域社会形成基礎論)				
成績入力担当	奥村 弘	開講区分		単位数	
		第2クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	木5	時間割コード	2U904

授業のテーマ

現在、「地域社会の危機」について様々な分野で議論されており、また一方で地域再生や地域づくりの取り組みが各地で行われている。この授業では、現在、地域が直面している課題について多角的に理解し、地域社会形成の意義や、そのための取り組みについての知識を得ることを目的とし、経済・環境・福祉・歴史・法などの各分野から地域社会形成についての講義をおこなう。

授業の到達目標

地域社会の担い手となるための、地域社会・地域課題についての基礎的な知識や考え方を身につける。

授業の概要と計画

<授業形態> 遠隔授業（リアルタイムの場合もあるためBEEFで確認すること）

6月16日 現代日本の地域課題（奥村弘・理事副学長（人文学研究科教授））

6月23日 自然と共生した地域づくりにおける課題（清野未恵子・人間発達環境学研究科准教授）

6月30日 地域医療・福祉の課題（高田哲・神戸市総合療育センター 診療所長）

7月7日 事業者・大学・地域との連携（坪田卓巳・灘区地域活動支援コーディネーター）

7月14日 災害と地域（北後明彦・都市安全研究センター教授）

7月21日 地域と法・制度（金子由芳・国際協力研究科教授）

7月28日 文化から見る現代の地域社会（山地久美子・大阪府立大学客員研究員）

8月4日 地域活動とキャリアデザイン（田中美恵・キャリアセンター）

成績評価方法

毎回の授業でのコメントペーパー（80%）とレポート試験（20%）で評価する。最終レポートを提出していない場合は、それまでにコメントペーパーが提出されていたとしても不可とする。

成績評価基準

各授業回のテーマに即し、地域社会の現状や課題について正確に理解し、学問的な裏付けをもって適切な課題解決法を提示できているか。

履修上の注意（関連科目情報）

オムニバス授業であるため毎回コメントペーパーを提出すること。なお総合教養科目「ひょうご神戸学」も合わせて履修することが望ましい。

事前・事後学修

事前学習：各回の授業で取り扱う項目について、BEEF上に事前掲載された参考資料（担当教員の論文など）をあらかじめ読んだ上で疑問点・質問点をまとめておくこと。

事後学習：授業中に指示された参考文献、「地域づくりの基礎知識」シリーズ1～5冊（<http://www.org.kobe-u.ac.jp/kupress/pubindex.html>）を入手・参照し、授業で学んだことについてまとめること。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて

事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

随時。メールにて事前に連絡すること。

主担当教員：奥村弘・産官学連携本部5階地域連携推進本部

メール送信時は以下の2アドレスに同時送信すること。

ksui-chiiki(at mark)office.kobe-u.ac.jp

okumura(at mark)kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

文部科学省は平成27年度より、人口流出県の大学、行政、企業、団体等が連携して、地域社会に貢献できる人材を育成し、若者の地元定着を促進する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）を開始した。兵庫県では神戸大学が申請校となり「地域創生に伝える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」がこれに採択された。この授業は、このCOC+事業の一環でプログラム開発した地域志向科目として開講される。共通教育科目や各学部で開講されている地域志向科目もあわせて履修し、地域社会に対する総合的な理解の上に専門性を身に付けることを期待する。

今年度の工夫

多様な分野から総合的・多面的に地域を理解できるよう、各分野の専門家による講義で授業を構成している。

教科書

使用しない。各回のレジメ・参考資料はBEEF上に事前にアップしているので各自ダウンロードしておくこと。

参考書・参考資料等

テーマごとの文献は授業中に適宜指示する。

『地域づくりの基礎知識』1~5神戸大学出版会のHPを参照のこと。レポート作成時には必ず参照すること。

地域づくりの基礎知識1 地域歴史遺産と現代社会 / 奥村弘・村井良介・木村修二：神戸大学出版会，2018，ISBN:978-4-909364-01-2

地域づくりの基礎知識2 子育て支援と高齢者福祉 / 高田哲・藤本由香里：神戸大学出版会，2018，ISBN:978-4-909364-02-9

農業・農村の資源とマネジメント / 中塚雅也：神戸大学出版会，2019，ISBN:978-4-909364-04-3

授業における使用言語

日本語

キーワード

地域 経済 環境 福祉 医療 歴史 安全（防災・減災） 法 ボランティア NPO 持続可能な発展 実務経験教員 遠隔授業

開講科目名	総合科目I（アクセシビリティリーダー論1）				
成績入力担当	村中 泰子	開講区分		単位数	
		第3クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	火5	時間割コード	3U901

授業のテーマ

現代の日本社会では、「個々人の属性だけでなく、価値観や知識など深層の多様性にも着目し、その多様性を積極的に受け入れ、活かすことによって、組織の生産性や革新に結びつけること」が求められている。本講義は、ダイバーシティ（多様性）およびアクセシビリティの理解を目的としている。

なお、アクセシビリティとは、「利用しやすさ」や「参加しやすさ」といった意味を持ち、近年、障害の有無や身体特性、年齢や言語・文化などの違いに関係なく、多様な利用者にとって「利用しやすいか?」「参加しやすいか?」「使いやすいか?」といった文脈で議論されている概念のことをさす。

授業の到達目標

- (1) 多様な環境とニーズを授業や演習を通じて気づき、社会の中のアクセシビリティについて考察できるようになること、
- (2) またダイバーシティ（多様性）およびアクセシビリティの基本的な知識を学修することを目標とする。
- (3) さらに、授業で学んだことを通じて、自分の身近な環境についてのバリアを意識し、全ての人にとって利用や参加が可能な環境について、自分の意見を持つことを目標とする。

授業の概要と計画

※イタリックの箇所を更新しました※

本講義は、『ハイブリッド形式』で実施します。

実習および演習（対面授業）6回とE-Learning形式（オンデマンド）2回予定しています。

対面で行う回では、グループでのバリアフリー調査、ダイバーシティ&インクルージョンを考えるグループワークを予定しています。なお、新型コロナウイルス感染拡大により授業形態が変更となった場合はBeefでお知らせします。

また、オンデマンドのセッションでは、ダイバーシティやアクセシビリティの基礎知識の学修を目的としている。なお、オンデマンドのセッションでは、各自のペースで受講が可能である。しかし、受講可能時期および課題提出時期を設定するため、期日を守る必要がある。

なお、夏季休暇中（9/16、9/27に実施、どちらか一方に参加）の事前ガイダンス（オンライン、事前申込み必要）への参加を必須とする。また履修登録は初回の授業で行うため、必ず出席すること。

事前ガイダンスの詳細・申込み方法は、下記参照のこと。

https://www.kobe-u.ac.jp/SCCL/news/2022_07_06_1.html

具体的な各回の内容は以下を予定しているが、実習機材やゲストの都合により、対面の日時を変更する場合がある。

第1回：導入・ガイダンス（対面）

第2回：ダイバーシティ&インクルージョンについて（対面・グループワーク）

第3回：アクセシビリティ演習（対面）

第4回：アクセシビリティ入門（導入）、利用者の多様性とアクセシビリティ、情報とアクセシビリティ（オンデマンド）

第5回：生活とアクセシビリティ、環境とアクセシビリティ、制度とアクセシビリティ、アクセシビリティ入門（基礎）、個人の多様性とアクセシビリティ（オンデマンド）

第6回：バリアフリー調査（対面・実習）

第7回：ダイバーシティ&インクルージョン（対面・グループワーク）

第8回：まとめ・定期試験（対面形式）

成績評価方法

- ・ 基礎知識の理解を問う各単元の小テスト 30%
- ・ 中間レポート 10%
- ・ 実習・演習における貢献（発言、役割等） 15%
- ・ 実習・演習におけるまとめ 15%
- ・ 期末試験30%

上記を総合して評価する。

新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、場合によっては、試験の代替の課題に評価を変更する可能性がある。

成績評価基準

- ・ レポートは、社会の中のアクセシビリティについて問題意識を持ち、考察できるかを評価します。
- ・ 実習・演習でのまとめは、実習による問題意識や着眼点を評価します。
- ・ 定期試験では、ダイバーシティ（多様性）およびアクセシビリティの基本的な知識を正確に理解できているかを評価します。

履修上の注意（関連科目情報）

リアルタイムオンラインで事前ガイダンスを実施します。

履修を考えている学生は必ず出席してください。（実習の都合上、履修人数の上限を設けています。）。

説明会の日程はうりぼーポータルに8月下旬頃に掲載します。

交換留学生受講可：【留学生に求める能力】授業では、日本語でのディスカッションを行うため、交換留学生等が参加する場合、日本語能力試験でN1に合格（N2の場合には事前ガイダンスで個別に相談してください）していることを条件とします。

本講義は、文部科学省後援アクセシビリティリーダー2級の受験資格要件として定めている。（アクセシビリティリーダー資格は、毎年12月に試験が行われている。受験は任意である。）

★受講にあたり情報保障等が必要な場合は、事前に相談してください。

事前・事後学修

Web授業の各セクションごとに事後学修としての課題を設定する。また、日常生活におけるアクセシビリティを事前学修として考えることを望みます。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

固定のオフィスアワーに関しては、ガイダンス時に提示する。（3Q：火曜4限を予定）

場所：キャンパスライフ支援センター（鶴甲第一キャンパスL棟102）

連絡先（E-mail）：y_muranaka@harbor.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

「アクセシビリティ」は、現代の社会的ニーズであり、誰にとっても身近な話題である。アクセシビリティリーダーは、多様性社会の様々な「アクセシビリティ」を推進する人材です。多様な人々の社会参加を円滑にし、その可能性を活かしていくためには、多様な環境や多様なニーズの特性を良く理解し、分野を超えた柔軟な知識と発想で社会のアクセシビリティをリードするアクセシビリティリーダーの役割が必要です。ぜひアクセシビリティリーダー2級取得を目指してください。

今年度の工夫

ダイバーシティ&インクルージョンに関連したグループ活動を予定している点。

教科書

特定の教科書は使用しない。
授業内で資料を配布する。

参考書・参考資料等

知のバリアフリーー「障害」で学びを拡げるー

知のバリアフリーー「障害」で学びを拡げる / 嶺重 慎・広瀬浩二郎 編 / 京都大学障害学生支援ルーム 協力 : 京都大学学術出版会, 2014年, ISBN:9784876985425

授業における使用言語

日本語

キーワード

アクセシビリティ バリアフリー 障害者差別解消法 ボランティア ダイバーシティ&インクルージョン 対面授業 演習
ハイブリッド形式 対面と遠隔授業の併用

開講科目名	総合科目I (EU基礎論)				
成績入力担当	吉井 昌彦	開講区分		単位数	
		第3クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード		曜日・時限等	月5	時間割コード	3U902

授業のテーマ

この授業では、EUの歴史、仕組み、経済、政治、安全保障、文化と社会など多様な側面からEUに関する講義が行われます。この授業を履修することにより、EUとは何か、その現状はどのようなものかなど、EUの基礎知識を得ることができます。[EUIJ科目]

授業の到達目標

EUの歴史、仕組み、経済、政治、安全保障、文化と社会など多様な側面に関する基礎的知識を理解できるようになることを目標とします。

授業の概要と計画

1 授業形態

対面で行います。新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては遠隔に変更となる場合があります。変更時はBEEF等でお知らせします。

2 授業概要

導入としてEUの歴史・仕組みを学んだ後、EUに関して法律・政治・経済・社会文化などの多様な側面から講義が行われます。これらを受けてEUの将来を考えます。

- 1 10/ 3 EUとは何か：深化と拡大（吉井昌彦E）
- 2 10/17 市場・通貨統合とその成果（吉井昌彦E）
- 3 10/24 EUの法的基盤とEU基本権（井上典之J）
- 4 10/31 EU統合における文化摩擦と共生（新川匠郎C）
- 5 11/ 7 EU統合と国内政治の変容（安井宏樹J）
- 6 11/14 EU統合と欧州議会・選挙（新川匠郎C）
- 7 11/21 日EU関係とEUの行方（吉井昌彦E）
- 8 11/28 まとめ・試験

成績評価方法

定期試験（80%）と各授業のクイズ・小レポート（20%）により評価します。

成績評価基準

授業の到達目標に書かれたEUに関する基礎知識の理解度に応じて評価する。

履修上の注意（関連科目情報）

EUという国際政治・経済等で重要な組織であるが、初学者になじみのない組織に関する講義であるので、自分で調べる、講師に質問するなど積極的に授業に臨んで欲しい。また、新聞、TV等で流れるEUに関するニュースに関心を持って触れることにより講義内容の理解を深めて欲しい。

事前・事後学修

各回の授業で取り扱う項目について、BEEFに事前掲載した資料を読み、概要を把握した上で、疑問点をまとめておくこと。また、各回の講義内容を復習するとともに、参考書にあげたEUの基礎知識に関する本を読み進めて欲しい。本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行って下さい。

オフィスアワー・連絡先

原則として各授業の前後の時間に質問等をお願いします。必要な場合は、yoshii*kobe-u.ac.jp (*->)に連絡の上、アポをとって下さい。

学生へのメッセージ

この科目は、EUIJ関西による「EU研究修了証プログラム」の導入科目です。このプログラムは、EUの法・政治・経済・文化・社会・自然科学など幅広い分野を学ぶことにより、将来国際的に活躍する基礎を身に付けるためのものです。ぜひプログラムに登録して下さい。

今年度の工夫

各授業のクイズ・小レポートは、各授業の内容に基づいて出題し、授業終了後に提出してもらいます。クイズ・小レポートに回答できるよう分かりやすい講義を行います。授業を真剣に聞いて下さい。

教科書

教科書はありません。各授業の資料をBEEFで配布します。

参考書・参考資料等

EUの基礎知識 / 藤井良広 : 日経文庫, 2013年, ISBN:

EU経済入門 / 本田雅子・山本いづみ編著 : 文眞堂, 2019年, ISBN:

よくわかるEU政治 / 坂井一成・八十田博人編著 : ミネルヴァ書房, 2020年, ISBN:

授業における使用言語

日本語

キーワード

EU 欧州連合 深化 拡大 ユーロ

開講科目名	総合科目I (ひょうご神戸学)				
成績入力担当	松下 正和	開講区分		単位数	
		第3クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	月5	時間割コード	3U903

授業のテーマ

現在、「地域社会の危機」について様々な分野で議論されており、また一方で地域再生や地域づくりの取り組みが各地で行われている。この授業では、地域で活躍できる人材、地元の兵庫・神戸で地域の担い手となれる人材の育成を目的とし、兵庫・神戸地域について、経済、地理、歴史、戦災や災害、そして現状や課題などの基礎的知識についての講義をおこなう。

授業の到達目標

地域を理解するための基礎として、大学の地元である兵庫県・神戸市についての多角的な知識を身につける。

授業の概要と計画

<授業形態> 遠隔授業 (リアルタイムの場合もあるためBEEFで確認すること)

<授業スケジュール>

- 10月3日 経済から見る兵庫・神戸のあゆみ (山地秀俊・神戸大学経済経営研究所元教授)
- 10月17日 兵庫県・神戸市の歴史〈古代・中世〉 (松下正和・地域連携推進本部特命准教授)
- 10月24日 兵庫県・神戸市の歴史〈近世・近代〉 (奥村弘・理事副学長 (人文学研究科教授))
- 10月31日 兵庫県の現在 (今井良広・兵庫県企画県民部地域創生局長)
- 11月7日 神戸市の現状と未来の姿 (藤岡健・神戸市企画調整局つなぐラボ担当部長)
- 11月14日 兵庫県・神戸市の地理 (菊地真・人文学研究科准教授)
- 11月21日 兵庫県の災害と戦災 (佐々木和子・人文学研究科地域連携センター研究員)
- 11月28日 兵庫県の地域課題 地元メディアの視点から (西栄一・神戸新聞社地域創研副所長)

成績評価方法

毎回の授業でのコメントペーパー (80%) とレポート試験 (20%) で評価する。最終レポートを提出していない場合は、それまでにコメントペーパーが提出されていたとしても不可とする。

成績評価基準

各授業回のテーマに即し、兵庫県・神戸市の現状や課題について正確に理解できているか。

履修上の注意 (関連科目情報)

オムニバス授業であるため毎回コメントペーパーを提出すること。なお総合教養科目「地域社会形成基礎論」も合わせて履修することが望ましい。

事前・事後学修

事前学習：各回の授業で取り扱う項目について、BEEF上に事前掲載された参考資料 (担当教員の論文など) をあらかじめ読んで上で疑問点・質問点をまとめておくこと。

事後学習：授業中に指示された参考文献、「地域づくりの基礎知識」シリーズ1~5冊 (<http://www.org.kobe-u.ac.jp/kupress/pubindex.html>) を入手・参照し、授業で学んだことについてまとめること。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて

事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

随時。メールにて事前に連絡すること。

主担当教員：松下正和・産官学連携本部5階地域連携推進本部

m_matsushita@port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

文部科学省は平成27年度より、人口流出県の大学、行政、企業、団体等が連携して、地域社会に貢献できる人材を育成し、若者の地元定着を促進する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）を開始した。兵庫県では神戸大学が申請校となり「地域創生に伝える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」がこれに採択された。この授業は、このCOC+事業の一環でプログラム開発した地域志向科目として開講される。共通教育科目や各学部で開講されている地域志向科目もあわせて履修し、地域社会に対する総合的な理解の上に専門性を身に付けることを期待する。

今年度の工夫

各分野の専門の研究者のほか、兵庫県・神戸市の職員、神戸新聞社の編集委員が講師となり、兵庫・神戸地域の実情を多角的に知ることができるようにしている。

教科書

使用しない。各回のレジメ・参考資料はBEEF上に事前にアップしているので各自ダウンロードしておくこと。

参考書・参考資料等

テーマごとの文献は授業中に適宜指示する。

神戸学検定公式テキスト神戸学〔改訂版〕 / 神木哲男：神戸新聞総合出版センター，2012，ISBN:978-4-343-00688-2
地域づくりの基礎知識 1 地域歴史遺産と現代社会 / 奥村弘：神戸大学出版会，2018，ISBN:978-4-909364-01-2

授業における使用言語

日本語

キーワード

地域 神戸市 兵庫県 持続可能な発展 安全（防災・減災） 実務経験教員 遠隔授業

開講科目名	総合科目Ⅰ（日本酒学入門）				
成績入力担当	石村 理知	開講区分		単位数	
		第3クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	水5	時間割コード	3U904

授業のテーマ

日本酒学入門

授業の到達目標

日本酒に関して、酒造り、経営、法律、広告などの幅広い基礎知識を身につけるとともに、それを通して神戸の地域・文化の一端を理解できるようになること。

授業の概要と計画

神戸の地域・文化を知る神戸学の1科目として、日本酒に関して経営、法律、醸造、広告等を多面的・総合的に学ぶ。灘五郷酒造組合が中心となり酒造関連企業、団体が協力して実施するオムニバス授業である。日本酒造りに携わっている講師を招いて、現場の取り組み等の実例を交えながら、わかりやすく講義していただきます。

1. 日本酒の歴史、文化、灘と日本酒造り（西向）
2. 微生物学、醗酵学（赤尾）
3. 日本酒醸造（日下）
4. 日本酒と酒米（杉本）
5. 酒蔵の経営（飯田）
6. 海外への日本酒情報発信（喜多）
7. 日本酒の関連法律（亀井）
8. レポートの書き方（石村）

成績評価方法

成績評価は毎回の授業に関して提出させる課題とレポートの成績をもとに原則として相対評価で行う。配点は授業に関する課題（3点×7回＝21点）と期末レポートの得点（40点×2＝80点）を合わせた点数をもとに相対評価で成績評価をする。毎回の授業で期末レポートのテーマを説明し、その中から2つを選んで答えさせる。

成績評価基準

日本酒に関して学際的・多面的な知識を習得し、特定のテーマについて掘り下げることができたかを合格基準とする。5回以上出席して授業中の課題を提出し、期末レポートの得点が6割以上であることが目安である。合格者の成績評価は相対評価により、S（卓越、上位1割以内）、A（優秀、3割以内）、B（満足できる水準、5割前後）、C（不十分な点もあるが合格基準を満たしている、1割前後）を決める。

履修上の注意（関連科目情報）

教材・資料の配布・課題提出等は全てBEEFで行う。

事前・事後学修

毎回のテーマについてBEEFにアップされた教材に目を通した上で授業に臨むこと。毎回の授業は異なるテーマで行うので、授業後に興味がある点や疑問点を調べること。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

毎回の講師への質問等はBEEFで受け付ける。

学生へのメッセージ

日本酒、特に、神戸の酒造りについていろいろな視点から学びます。専門家、実務家による味わい深い講義をお楽しみください。

今年度の工夫

対面実施を原則としています。

教科書

毎回の授業の資料は前日までにBEEFにアップする。

参考書・参考資料等

参考文献等は授業中に適宜紹介する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本酒、酒造り、経営、法律、広告、実務

開講科目名	総合科目I (グローバルリーダーシップ育成基礎演習)				
成績入力担当	黒田 千晴			開講区分	単位数
				後期	2.0単位
ナンバリングコード		曜日・時限等	木5	時間割コード	3U905

授業のテーマ

本授業は、一般学生と留学生が第28回神戸大学国際学生交流シンポジウムの企画、立案、準備、運営を協働で行うプロジェクトベースの学習を通して、多様な他者と協働する際に必要な異文化間能力、リーダーシップ、コミュニケーション能力を涵養することを旨とする。本授業は、日本語・英語のバイリンガルで行う。

授業の到達目標

本授業では、神戸大学教育憲章の「教育目的」第3項「国際性の教育」、及び神戸大学の学生が卒業時に身につけるべき共通の能力として定義されている「神戸スタンダード」の内、1) 複眼的に思考する能力の育成、3) 協働して実践する能力の育成に則り、以下の到達目標を設定している。

本授業の履修を通して、受講生が

1. 多様な文化的・言語的背景、価値観を持つ者同士、協働することを通して、社会の様々な事象を多様な視点から捉えなおすことができる。
2. プロジェクト遂行の過程における一連の活動を通して、文化接触に伴う葛藤などを克服しつつ、多様な他者と良好な人間関係を構築し、協働する姿勢・能力を身につける。
3. 多文化・多言語なコミュニティのメンバーと協働するためのコミュニケーション能力を向上させる。日英両言語で聞き手の言語能力に配慮しつつ自らの意見を発信するスキルを向上させる。

授業の概要と計画

1. 授業形態

原則対面

神戸大学が参画している他大学との連携事業 (ICL-Channels) の関係で、対面と遠隔 (リアルタイム) の併用の授業形態で実施する。神戸大学の学生に対しては対面で実施し、他大学の学生 (ICL履修学生) に対してはZoomを用いた遠隔リアルタイムを併用するハイフレックスの形式で実施する。

2. 授業の概要とスケジュール

暫定的な授業スケジュールは以下の通りである。10月の授業開始後もスケジュールを変更する場合がある。その場合は、うりぼーネット及びBEEFにて随時変更を通知する。

1. (10/6) イントロダクション・アイスブレイキング
 2. (10/13) リーダー・サブリーダー、グループ決定、KISS28メインテーマの検討
 3. (10/20) KISS28メインテーマ・サブトピックの検討
 4. (10/27) KISS28メインテーマ・サブトピックの決定
 5. (11/10) サブトピックの資料収集、資料作成 (グループワーク)
 6. (11/17) サブトピックの資料収集、資料作成 (グループワーク) ・ KISS28広報開始
 7. (11/24) 進捗状況の報告
 8. (12/1) サブテーマの資料収集、資料作成 (グループワーク)
 9. (12/8) ディスカッションリハーサル
 10. (12/15) 全体会・交流会実施確認・シンポジウム直前確認・準備
 - 11-12. (12/17-12/18) 第28回神戸大学国際学生交流シンポジウム (1泊2日ホテルロジ舞洲に宿泊) 2回分の授業としてカウント
 13. (12/22) シンポジウムの振り返り、最終グループ発表準備、KISS報告書 (日・英) の作成開始
 14. (1/12) 最終グループ発表準備・KISS報告書作成
 15. (1/19) 最終グループ発表
- ※ (2/2) 個人最終レポート提出
 ※ (2/9) KISS報告書最終原稿提出

成績評価方法

1. 授業・シンポジウムへの参画（各回授業終了後のフィードバックの内容を含む）（35%）
 2. 授業外でのグループワークへの参画（自己評価・ピア評価）（10%）
 3. シンポジウム発表要旨・発表資料・KISS報告書（KISS報告書）（20%）
 4. 最終グループ発表（日・英）（15%）
 5. 個人最終レポート（20%）
- ※出席率90%以上を満たすことが必要。

成績評価基準

1. 多様な文化的・言語的背景、価値観を持つ者同士、協働することを通じ、社会の様々な事象を多様な視点から批判的に考察しているか。
2. プロジェクト遂行の過程における一連の活動を通して、文化接触に伴う葛藤などを克服しつつ、多様な他者と良好な人間関係を構築し、協働する姿勢・能力を身につけたか。
3. 多文化・多言語なコミュニティのメンバーと協働するためのコミュニケーション能力を向上させたか。日英両言語で聞き手の言語能力に配慮しつつ自らの意見を発信するスキルを向上させたか。

履修上の注意（関連科目情報）

1. 12/17(土)-12/18(日)に予定されている1泊2日のシンポジウムに必ず参加すること。1泊2日の宿泊費、食費(2食)は大学が負担する。(履修者は、宿泊費・食費無料)
2. 学部正規留学生・学部交換留学生（特別聴講学生）受講可（N3相当以上の日本語能力を持つことが望ましい。）
3. 一般学生約10名、留学生約10名の履修定員を設定している。履修希望者が大幅に定員を上回る場合は、第1回目の授業終了後、エントリーシートにて選抜を行う可能性があるため、第1回目の授業に必ず参加すること。
4. 一般学生・留学生（学部正規留学生・学部交換留学生）ともに英語力の要件は設定しない。
5. 当該授業は神戸大学国際学生交流シンポジウム実施に向けたプロジェクト遂行型の授業であり、授業に積極的に参画し他の受講生と協働することが不可欠である。

事前・事後学修

授業時間外の事前・事後学習として、シンポジウムテーマに関する文献・資料の収集及び読解、シンポジウムでの発表資料・要旨の作成、シンポジウム終了後の報告書の作成等に取り組む必要がある。授業ごとの事後学習として、BEEFにて自らの授業での発言や自他のコミュニケーションスタイルに関する省察を行うためのフィードバックを提出する。

オフィスアワー・連絡先

黒田千晴 木曜日15:00-16:30（要事前連絡）

kuroda@port.kobe-u.ac.jp

六甲台第2キャンパス（文理農学部キャンパス）神戸大学百年記念館・グローバル教育センター（旧国際教育総合センター）3階黒田研究室

※オンライン会議システムZoomでの面談も対応可。

学生へのメッセージ

本授業は、一般学生と留学生がバイリンガル(英語・日本語)でコミュニケーションを図り、協同作業を行うことを通じて異文化間コミュニケーション能力やリーダーシップを涵養することを目指しています。留学生と交流したいと希望する一般学生、日本人学生と交流したいと希望する留学生の履修を歓迎します。

今年度の工夫

BEEFなどのLMSを活用し、学生の学習成果向上を図る。

教科書

必要に応じて、BEEFに課題論文・図書をアップするので、授業前の予習として読んでくること。（授業中に課題論文・図書の内容について討論する。）

参考書・参考資料等

必要に応じて、BEEFに課題論文・図書をアップするので、授業前の予習として読んでくること。（授業中に課題論文・図書の内容について討論する。）

授業における使用言語

日本語及び英語の併用

日本語・英語の使用比率はおおむね1:1とする。

日本語・英語とも言語使用の正確さや流暢さは成績評価の対象としない。

留学生・一般学生の双方が、日本語・英語でのコミュニケーション能力を向上させるよう教員また受講生同士、相互に援助する。

各受講生は、日本語・英語の双方の言語を活用して、教員や他の受講生と積極的にコミュニケーションを取ること。

キーワード

パソコン、交換留学生（特別聴講学生）可、長文レポート、バイリンガル、異文化間コミュニケーション、リーダーシップ、協働、神戸大学国際学生交流シンポジウム

開講科目名	総合科目I (地域社会形成基礎論)				
成績入力担当	松下 正和	開講区分		単位数	
		第3クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	木5	時間割コード	3U906

授業のテーマ

現在、「地域社会の危機」について様々な分野で議論されており、また一方で地域再生や地域づくりの取り組みが各地で行われている。この授業では、現在、地域が直面している課題について多角的に理解し、地域社会形成の意義や、そのための取り組みについての知識を得ることを目的とし、経済・環境・福祉・歴史・法などの各分野から地域社会形成についての講義をおこなう。

授業の到達目標

地域社会の担い手となるための、地域社会・地域課題についての基礎的な知識や考え方を身につける。

授業の概要と計画

<授業形態> 遠隔授業（リアルタイムの場合もあるためBEEFで確認すること）

10月6日 農業・農村の多面的機能と減災への貢献（田中丸治哉・農学研究科教授）

10月13日 地域経済の課題と地域づくり（中塚雅也・農学研究科教授）

10月20日 地域医療・福祉の課題（小野玲・保健学研究科）

10月27日 事業者・大学・地域との連携（坪田卓巳・灘区地域活動支援コーディネーター）

11月10日 レジリエンスと価値（鶴田宏樹・バリュースクール）

11月17日 災害と地域（北後明彦・都市安全研究センター教授）

11月24日 地域歴史文化の課題（松下正和・地域連携推進室特命准教授）

12月1日 地域活動とキャリアデザイン（田中美恵・キャリアセンター）

成績評価方法

毎回の授業でのコメントペーパー（80%）とレポート試験（20%）で評価する。最終レポートを提出していない場合は、それまでにコメントペーパーが提出されていたとしても不可とする。

成績評価基準

各授業回のテーマに即し、地域社会の現状や課題について正確に理解し、学問的な裏付けをもって適切な課題解決法を提示できているか。

履修上の注意（関連科目情報）

オムニバス授業であるため毎回コメントペーパーを提出すること。なお総合教養科目「ひょうご神戸学」も合わせて履修することが望ましい。

事前・事後学修

事前学習：各回の授業で取り扱う項目について、BEEF上に事前掲載された参考資料（担当教員の論文など）をあらかじめ読んだ上で疑問点・質問点をまとめておくこと。

事後学習：授業中に指示された参考文献、「地域づくりの基礎知識」シリーズ1～5冊（<http://www.org.kobe-u.ac.jp/kupress/pubindex.html>）を入手・参照し、授業で学んだことについてまとめること。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて

事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

随時。メールにて事前に連絡すること。

主担当教員：松下正和・産官学連携本部5階地域連携推進本部

m_matsushita@port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

文部科学省は平成27年度より、人口流出県の大学、行政、企業、団体等が連携して、地域社会に貢献できる人材を育成し、若者の地元定着を促進する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）を開始した。兵庫県では神戸大学が申請校となり「地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」がこれに採択された。この授業は、このCOC+事業の一環でプログラム開発した地域志向科目として開講される。共通教育科目や各学部で開講されている地域志向科目もあわせて履修し、地域社会に対する総合的な理解の上に専門性を身に付けることを期待する。

今年度の工夫

多様な分野から総合的・多面的に地域を理解できるよう、各分野の専門家による講義で授業を構成している。

教科書

使用しない。各回のレジメ・参考資料はBEEF上に事前にアップしているので各自ダウンロードしておくこと。

参考書・参考資料等

『地域づくりの基礎知識』1~5神戸大学出版会のHPを参照のこと。レポート作成時には必ず参照すること。

地域づくりの基礎知識1 地域歴史遺産と現代社会 / 奥村弘・村井良介・木村修二 : 神戸大学出版会, 2018, ISBN:978-4-909364-01-2

地域づくりの基礎知識2 子育て支援と高齢者福祉 / 高田哲・藤本由香里 : 神戸大学出版会, 2018, ISBN:978-4-909364-02-9
農業・農村の資源とマネジメント / 中塚雅也 : 神戸大学出版会, 2019, ISBN:978-4-909364-04-3

授業における使用言語

日本語

キーワード

地域 経済 環境 福祉 医療 歴史 安全（防災・減災） 法 ボランティア NPO 持続可能な発展 実務経験教員 遠隔授業

開講科目名	総合科目Ⅱ(データサイエンス基礎演習B)				
成績入力担当	中村 匡秀	開講区分		単位数	
		第3クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	月5	時間割コード	3U907

授業のテーマ

データサイエンスの効果的な実践には、コンピュータ・ソフトウェアの活用が必須である。本講義では、データサイエンスのためのプログラミング言語として世界で広く普及しているPythonを採り上げ、演習を通してプログラミングの基礎、および、データサイエンスの実践方法について学習する。

授業の到達目標

文系・理系を問わず全学の学生が、Pythonを用いて初等的なデータ分析を自分の手で行えるようになること。特に、pandasフレームワークを用いて、目的・用途に応じたデータセットを自分の手で構築し、基本的な操作が行えるようになることを目指す。

授業の概要と計画

本授業は原則としてオンラインで行う。なお、授業形態が変更となる場合は、BEEF等により連絡する。

以下の内容を「反転学習」を活用した演習形式で学習する。受講生は、各自のノートPCを活用して学習に取り組む。Pythonの実行環境は、Google Colabを利用予定である。

- 第1回： Python イントロダクション
- 第2回： データ型，演算子
- 第3回： 制御構造，関数
- 第4回： オブジェクト，データ構造
- 第5回： Pandas
- 第6回： 可視化，入出力
- 第7回： Hello データサイエンス

成績評価方法

課題提出点によって評価を行う。課題の提出がない場合には、その回の点数が0点になるので注意すること。

成績評価基準

- 秀：講義の内容を十分に理解し、演習に意欲的かつ積極的に参加し、追加課題にも進んで取り組んだと判断される場合。
- 優：講義の内容を十分に理解し、かつ、演習に意欲的かつ積極的に参加したと判断される場合。
- 良：講義の内容を十分に理解したが、積極性が十分でないと判断される場合。
- 可：講義内容についての最低限の基礎知識は習得できたと判断される場合。

履修上の注意（関連科目情報）

講義・演習は学生個人のPCを利用しておこなう。

事前・事後学修

事前学修：講義テキスト・ビデオ（Webに掲載）に目を通して、予習しておくこと
 事後学修：授業時間内に終わらなかった課題を完成させるとともに、復習しておくこと

オフィスアワー・連絡先

毎週月曜日 10:40-12:10 工学部本館 B-403
 masa-n@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

プログラミングは、文系・理系問わず、我が国の未来を担う人材に必須の素養となります。データ分析は、卒業研究や博士課程での研究でも必ず実施することになるでしょう。本授業ではみなさんにプログラミングの楽しさを知ってもらい、興味を持ってもらえるように工夫するつもりです。毎回の課題が少々大変ですが、頑張りましょう。

今年度の工夫

プログラミングだけではなく、分析や設計の手法も織り交ぜて講義する

教科書

基本的には、電子化した講義資料を公開し、それを利用する

参考書・参考資料等

Pythonによるデータ分析入門 第2版 ——NumPy、pandasを使ったデータ処理

Pythonによるデータ分析入門 第2版 ——NumPy、pandasを使ったデータ処理 / Wes McKinney 著、瀬戸山 雅人、小林 儀匡、滝口 開資 訳 : O'Reilly Japan, Inc. , 2018 , ISBN:978-4-87311-845-1

授業における使用言語

日本語及び英語の併用
授業英語化カテゴリーB

キーワード

Python, プログラミング, データ分析, pandas

開講科目名	総合科目Ⅱ（統計学基礎A）				
成績入力担当	福山 克司	開講区分		単位数	
		第3クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	水5	時間割コード	3U908

授業のテーマ

データを正しく扱うためのデータリテラシーを身に着ける事は、日々の暮らしにおいても非常に大切な事である。この講義では、データを読み、視覚化し、整理するデータリテラシーを学んだ後、確率変数、確率分布、統計的推論（推定）について、実例を中心に学ぶ。

授業の到達目標

データを読み、視覚化し、整理するデータリテラシーを身に着け、確率と確率変数、確率分布などを理解し、データを統計的に分析し、正しく理解する方法を身に着ける。

授業の概要と計画

上記の授業の到達目標を達成するために、以下の項目について、課題を交えながら講義する。

- 第1～3回 データの整理（データリテラシー）
- 第4回 確率と確率変数
- 第5回 色々な確率分布
- 第6回 大数の法則と中心極限定理
- 第7回 標本分布と統計的推論（推定）の考え方
- 第8回 取りまとめと試験

成績評価方法

講義中の課題と、最終課題によって評価する。
講義中の課題30%，最終課題70%で評価する。

成績評価基準

1. データを読み、視覚化し、整理する事ができる。
2. 確率と確率変数、確率分布、大数の法則と中心極限定理を正しく理解できる。
3. 統計的推定の考え方を説明できる。

履修上の注意（関連科目情報）

統計学基礎Bも、併せて受講する事が望ましい。
オンデマンド型授業である。BEEFにおいて事前に通知するので、受講時はBEEFに頻繁にアクセスしてほしい。

事前・事後学修

BEEFによって、指示する。
本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

メールでアポイントメントをとる事。

fukuyama@math.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

--

教科書

BEEFで資料を配布します。

参考書・参考資料等

下記の書籍を参考書にあげます。

基礎統計学I 統計学入門 / 東京大学教養学部統計学教室 編 : 東京大学出版会 , 1991年7月10日 , ISBN:978-4130420655

授業における使用言語

日本語

キーワード

データリテラシー 確率変数 確率分布 大数の法則 中心極限定理 統計的推論 推定 遠隔授業

開講科目名	総合科目Ⅱ(データサイエンス基礎演習B)				
成績入力担当	田原 伸彦、山田 明		開講区分	単位数	
			第4クォーター	1.0単位	
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	月5	時間割コード	4U901

授業のテーマ

データサイエンスの効果的な実践には、コンピュータ・ソフトウェアの活用が必須である。本講義では、データサイエンスのためのプログラミング言語として世界で広く普及しているPythonを採り上げ、演習を通してプログラミングの基礎、および、データサイエンスの実践方法について学習する。

授業の到達目標

文系・理系を問わず全学の学生が、Pythonを用いて初等的なデータ分析を自分の手で行えるようになること。特に、pandasフレームワークを用いて、目的・用途に応じたデータセットを自分の手で構築し、基本的な操作が行えるようになることを目指す。

授業の概要と計画

本授業は原則としてオンラインで行う。なお、授業形態が変更となる場合は、BEEF等により連絡する。

以下の内容を「反転学習」を活用した演習形式で学習する。受講生は、各自のノートPCを活用して学習に取り組む。Pythonの実行環境は、Google Colabを利用予定である。

- 第1回： Python イントロダクション
- 第2回： データ型、演算子
- 第3回： 制御構造、関数
- 第4回： オブジェクト、データ構造
- 第5回： Pandas
- 第6回： 可視化、入出力
- 第7回： Hello データサイエンス

成績評価方法

課題提出点によって評価を行う。課題の提出がない場合には、その回の点数が0点になるので注意すること。

成績評価基準

- 秀：講義の内容を十分に理解し、演習に意欲的かつ積極的に参加し、追加課題にも進んで取り組んだと判断される場合。
- 優：講義の内容を十分に理解し、かつ、演習に意欲的かつ積極的に参加したと判断される場合。
- 良：講義の内容を十分に理解したが、積極性が十分でないと判断される場合。
- 可：講義内容についての最低限の基礎知識は習得できたと判断される場合。

履修上の注意（関連科目情報）

講義・演習は学生個人のPCを利用しておこなう。

事前・事後学修

事前学修：講義テキスト・ビデオ（Webに掲載）に目を通して、予習しておくこと
 事後学修：授業時間内に終わらなかった課題を完成させるとともに、復習しておくこと

オフィスアワー・連絡先

毎週月曜日 10:40-12:10 工学部本館 B-403
 masa-n@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

プログラミングは、文系・理系問わず、我が国の未来を担う人材に必須の素養となります。データ分析は、卒業研究や博士課程での研究でも必ず実施することになるでしょう。本授業ではみなさんにプログラミングの楽しさを知ってもらい、興味を持ってもらえるように工夫するつもりです。毎回の課題が少々大変ですが、頑張りましょう。

今年度の工夫

プログラミングだけではなく、分析や設計の手法も織り交ぜて講義する

教科書

基本的には、電子化した講義資料を公開し、それを利用する

参考書・参考資料等

Pythonによるデータ分析入門 第2版 ——NumPy、pandasを使ったデータ処理

Pythonによるデータ分析入門 第2版 ——NumPy、pandasを使ったデータ処理 / Wes McKinney 著、瀬戸山 雅人、小林 儀匡、滝口 開資 訳 : O'Reilly Japan, Inc. , 2018 , ISBN:978-4-87311-845-1

授業における使用言語

日本語及び英語の併用
授業英語化カテゴリーB

キーワード

Python, プログラミング, データ分析, pandas

開講科目名	総合科目Ⅱ（統計学基礎B）				
成績入力担当	福山 克司	開講区分		単位数	
		第4クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	水5	時間割コード	4U908

授業のテーマ

データを正しく扱うためのデータリテラシーを身に着ける事は、日々の暮らしにおいても非常に大切な事である。この講義では、データを読み、視覚化し、整理するデータリテラシーを学んだ後、確率変数、確率分布、推定、仮説検定について、実例を中心に学ぶ。

授業の到達目標

データを読み、視覚化し、整理するデータリテラシーを身に着け、確率と確率変数、確率分布などを理解し、データを統計的に分析し、正しく理解する方法、特に推定と仮説検定の考え方を身に着ける。

授業の概要と計画

上記の授業の到達目標を達成するために、以下の項目について、課題を交えながら講義する。

第1～3回 データの整理

理

第4回 確率変数と確率分布

第5回 推定

第6～7回 仮説検定

第8回 取りまとめと試験

成績評価方法

講義中の課題と、最終課題によって評価する。

講義中の課題30%，最終課題70%で評価する。

成績評価基準

1. データを読み、視覚化し、整理する事ができるようになる。
変数、確率分布、大数の法則と中心極限定理を正しく理解できる。

2. 確率と確率

3. 推定と仮説検定の方法を

理解できる。

履修上の注意（関連科目情報）

統計学基礎Aも、併せて受講する事が望ましい。

オンデマンド型授業である。BEEFにおいて事前に通知するので、受講時はBEEFに頻繁にアクセスしてほしい。

事前・事後学修

BEEFによって、指示する。

本学では1単位あたりの学修

時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

メールでアポイントメントをとる事。

fukuyama@math.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

BEEFで資料を配布します。

参考書・参考資料等

下記の書籍を参考書にあげます。

基礎統計学I 統計学入門 / 東京大学教養学部統計学教室 編 : 東京大学出版会 , 1991年7月10日 , ISBN:978-4130420655

授業における使用言語

日本語

キーワード

データリテラシー 確率変数 確率分布 大数の法則 中心極限定理 統計的推論 推定

開講科目名	総合科目Ⅰ（多文化共生のための日本語コミュニケーション）				
成績入力担当	川上 尚恵、黒田 千晴、齊藤 美穂、朴 秀娟		開講区分	単位数	
			第4クォーター	1.0単位	
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	月5	時間割コード	4U911

授業のテーマ

授業のテーマ：

本授業では、多文化共生社会の概念について知識を深め、その社会の構成員として必要となる基礎知識や能力を涵養することを目指す。留学生を含む地域の定住外国人との交流に興味がある学生を主たる対象とし、外国語としての日本語や日本語学習、やさしい日本語に関する基礎知識を深め、日本語非母語話者との交流に必要な異文化間コミュニケーション能力ややさしい日本語を活用できる能力を育成する。

授業の到達目標

授業の到達目標：

1. 日本における定住外国人（高等教育機関における留学生の受け入れ状況を含む）の現状について把握し、多文化共生社会の概念に関する理解を深める。
2. 外国語としての日本語に関する知識、日本語学習に関する基礎知識を習得する。
3. 日本語のコミュニケーションスタイル及び異文化間コミュニケーションに関する知識を深め、異文化間コミュニケーション能力を向上させる。
4. 日本語非母語話者との交流に有効なやさしい日本語の能力を向上させる。

授業の概要と計画

①授業形態

原則対面授業

神戸大学が参画している他大学との連携事業（ICL-Channels）の関係で、対面と遠隔（リアルタイム）の併用の授業形態で実施する。神戸大学の学生に対しては対面で実施し、他大学の学生（ICL履修学生）に対してはZoomを用いた遠隔リアルタイムを併用するハイフレックスの形式で実施する。

②授業の概要とスケジュール

本授業は、神戸大学において留学生を対象とした日本語教育や国際教育に従事するグローバル教育センター留学生教育部門の専任教員による授業である。

授業はBEEFによる事前学習（参考資料の精読等）、授業（講義及び学生間のディスカッションなど）、事後学習（授業振り返り小レポートの提出）を組み合わせた形式で実施する。事前学習、授業での活動、事後学習の割合は、各回の授業によって異なる。BEEFに掲示する「学習指示書」に、各授業ごとのスケジュールや授業内容の詳細を通知するので必ず確認すること。本授業の暫定的スケジュールは以下の通りである。

1. (12/5) 授業ガイダンス・授業振り返り小レポートの執筆に関するオリエンテーション（黒田）
2. (12/12) 多文化共生社会とは（黒田）小レポート①
3. (12/19) 地域における定住外国人の状況（川上）小レポート②
4. (12/26) 外国語としての日本語（朴）小レポート③
5. (1/16) 日本語のコミュニケーションスタイルと異文化間コミュニケーション（黒田）小レポート④
6. (1/23) やさしい日本語概説（齊藤）小レポート⑤
7. (1/30) やさしい日本語活用演習（黒田）
8. (2/8) 授業の総括・最終課題について（黒田）

成績評価方法

成績評価方法：

1. 5回の授業振り返り小レポート（各800-1000字×5回）50%
2. 最終課題 50%

※出席率80%以上で評価の対象とする。すなわち、2回以上欠席した場合は、自動的に不可となる。

成績評価基準

1. 日本における定住外国人（高等教育機関における留学生の受け入れ状況を含む）の現状について把握し、多文化共生社会の概念に関する理解を深めているか。小レポート①・②
2. 外国語としての日本語に関する知識、日本語学習に関する基礎知識を習得しているか。小レポート③・⑤
3. 日本語のコミュニケーションスタイル及び異文化間コミュニケーションに関する知識を深め、異文化間コミュニケーション能力を向上させているか。小レポート④
4. 日本語非母語話者との交流に有効なやさしい日本語の能力を向上させているか。最終課題

履修上の注意（関連科目情報）

1. 約60名の履修定員を設定している。履修希望者が大幅に定員を上回る場合は、第1回目の授業終了後、エントリーシートにて選抜を行う可能性があるため、第1回目の授業に必ず参加すること。
2. 本授業では、講義に加え担当教員からの質問に回答したり、受講生同士のディスカッションを取り入れる。教員や他の受講生と積極的にコミュニケーションを取ること。
3. 日本語非母語話者の場合、N2レベル以上の日本語能力が必要。

関連科目情報 全学共通授業科目「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」

事前・事後学修

必要に応じて、BEEFに課題論文・図書をアップするので、授業前の予習として読んでくること。（授業中に課題論文・図書の内容について討論する。）授業後には、授業で得た知識を整理し、学びを振り返るための小レポートを合計5回提出することを義務付ける。

オフィスアワー・連絡先

黒田千晴 木曜日15:00-16:30（要事前連絡）

kuroda@port.kobe-u.ac.jp

六甲台第2キャンパス（文理農学部キャンパス）神戸大学百年記念館・グローバル教育センター（旧国際教育総合センター）3階黒田研究室

学生へのメッセージ

本授業は、留学生との交流や海外留学を希望する学生、また卒業後、国際的なキャリア形成を目指す学生を主たる対象としています。主として日本語母語話者の履修を想定していますが、留学生の受講も歓迎します。また、グローバル教育センターにて、留学生を対象とした日本語授業のチュードントアシスタントなどに興味がある学生は申し出てください。他にも、留学生との交流の機会などを積極的に紹介していきます。

今年度の工夫

BEEFでの事前事後学習を有機的に統合し、学生の学習成果向上を図る。

教科書

特定の教科書は用いない。授業ごとに課題文献・図書をBEEFで提供する。

参考書・参考資料等

特定の教科書は用いない。授業ごとに課題文献・図書をBEEFで提供する。

授業における使用言語

日本語
日本語

キーワード

長文レポート、パソコン、交換留学生（特別聴講学生）可、多文化共生、日本語学習、やさしい日本語、異文化理解、異文化コミュニケーション

開講科目名	総合科目Ⅱ（価値創造の考え方）		
成績入力担当	玉置 久、國部 克彦、忽那 憲治、祇園 景子、藤井 信忠、菊池 誠、鶴田 宏樹、内田 浩史、金子 由芳	開講区分	単位数
		第3クォーター	1.0単位
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	月5
		時間割コード	3U909

授業のテーマ

価値および価値創造に関する考え方について様々な観点から講述する。

授業の到達目標

価値の創造がどのようなものであるか、どのように価値が創造されるのか等について議論するための視点・考え方の習得を目標とする。

授業の概要と計画

オムニバス（全8回）の講義を対面にて実施する。各回のテーマは以下の通り。

- 第1回 価値創造スクエア ―価値を創造する考え方―
國部克彦（経営学研究科）
- 第2回 価値創造の原像 ―経済的価値とその他の多様な価値―
内田浩史（経営学研究科）
- 第3回 価値創造の原像 ―発散思考と収束思考―
祇園景子（バリュースクール）
- 第4回 価値創造の理解 ―SDGs に向けた開発と法―
金子由芳（社会システムイノベーションセンター）
- 第5回 価値創造の理解 ―想像力と創造力―
鶴田宏樹（バリュースクール）
- 第6回 価値創造の実践 ―イノベーションとアントレプレナーシップ―
忽那憲治（経営学研究科）
- 第7回 価値創造の実践 ―人が育つ共創の場―
藤井信忠（システム情報学研究科）
- 第8回 価値創造スクエア再訪 ―感性・知性・理性について―
菊池 誠（システム情報学研究科）

成績評価方法

授業時間内あるいは授業後に適宜実施する課題レポートの内容で評価する。

成績評価基準

価値および価値創造に関する基本的な考え方について十分に理解できているか。

履修上の注意（関連科目情報）

事前にLMS BEEFから資料をダウンロードして確認しておくこと。

事前・事後学修

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としている。毎回の授業にあわせて事前学習・事後学習を行うこと。

オフィスアワー・連絡先

電子メールにより、tamaki@al.cs.kobe-u.ac.jp まで連絡して下さい。なお、授業後には質問を受け付けるなど、随時対応します。

学生へのメッセージ

価値創造に関して、それを実現する一般的・具体的なプロセスや方法論・手順はない。価値創造を理解することは難しく、そもそも形式化できるものではないかもしれない。本講義を通して、価値や価値創造にアプローチするためのエッセンスを掴んでもらいたい。

今年度の工夫

教科書

神戸大学 LMS BEEF にて資料（講義スライド等）を配布する。特に教科書は使用しない。

参考書・参考資料等

価値創造の考え方 / 國部・玉置・菊池編 : 日本評論社, 2021, ISBN:

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	総合科目Ⅰ（海外留学のすすめA）				
成績入力担当	黒田 千晴、橋田 力		開講区分	単位数	
			第3クォーター	1.0単位	
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	月5	時間割コード	3U910

授業のテーマ

海外留学は、本学での学びを異なる観点から深める機会となるだけでなく、さまざまな異文化体験を経ることによって、「神戸スタンダード」に示された3つの能力（複眼的に思考する能力・多様性と地球的課題を理解する能力・協働して実践する能力）を高め、グローバル人材として成長していく人生の貴重なチャンスとなります。国際的な文化資本に恵まれた神戸の地で、国際交流が盛んな本学の教員や他の学生との対話を通じて、広く世界に目を向けて何を学び、どのようなキャリアを歩みたいのか考えることにより、交換留学にチャレンジする意欲を高めます。

授業の到達目標

1. 海外留学に関する情報を集め、選択して整理するための基礎知識を得る。
2. 神戸に蓄積された国際的な文化資本に目を向け、本学のさまざまな海外留学プログラムの構成を理解し、継続的に活用できる。
3. 海外の高等教育や専門分野の構成（例えば、工学部に建築専攻や法学部に政治学専攻がない）など日本との違いを理解し、所属学部の教員からアドバイスを受けて交換留学先での履修計画を立てることができる。

授業の概要と計画

以下のとおり各回授業で取り上げるトピックを予定していますが、受講生の関心などに応じて授業内容を変更することもあります。

- 第1回（10月3日） はじめに、「学び合う場」としての授業の進め方
- 第2回（10月17日） 「国際性」（ディプロマ・ポリシー）と語学力の向上
- 第3回（10月24日） 神戸の国際的な文化資本に目を向ける。
- 第4回（10月31日） 海外の大学の成り立ちや専門分野の構成を知る。
- 第5回（11月7日） 交換留学先となる国・地域について調べる。
- 第6回（11月14日） 交換留学先となる大学を探す。
- 第7回（11月21日） 交換留学先での「学びの計画案」骨子を書く。
- 第8回（11月28日） まとめ、期末レポートの提出

成績評価方法

1. フィードバックシート（授業ごとに提出：1回5点×7回＝35点）
授業内容の理解：3点、授業内容の理解と発展・深化：4点以上
2. 期末レポート（交換留学先での「学びの計画案」：50点）
授業内容の理解：30点、授業内容の理解と発展・深化：31点以上
3. 授業への貢献（担当教員が示す事例が唯一の正解ではなく、論点を明らかにする質問、受講生が調べた最新の情報や現世代ならではの観点の提示など、学びの共同体であるクラスを活性化させる貢献：15点）
質問（授業内容の明確化）：5点、最新情報・観点提示など：6点以上

成績評価基準

1. 海外留学に関する情報を集め、選択して整理するための基礎知識を得ているか。
2. 神戸に蓄積された国際的な文化資本に目を向け、本学のさまざまな海外留学プログラムの構成を理解し、継続的に活用できるか。
3. 海外の高等教育や専門分野の構成など日本との違いを理解し、所属学部の教員からアドバイスを受けて交換留学先での履修計画を立て、「学びの計画案」としてレポート作成ができるか。

履修上の注意（関連科目情報）

「海外留学のすすめA」を主に交換留学を想定した基礎編、「海外留学のすすめB」を主に海外インターンシップや大学院留学を想定した応用編としています。

なお、新型コロナ感染状況によっては、Zoomによる遠隔授業に変更する場合があります。授業前にBEEFでリンク先などを確認して下さい。

事前・事後学修

海外留学に関する図書は、以下に示した参考書だけでなく、グローバル教育センター・ラーニングcommons（情報資料室）や社会科学系図書館のグローバル図書コーナーなどがあるので、気になった本に目を通しておくともよいでしょう。また、授業で取り上げた事例のうち、自分の関心に合うものを調べ、最新の情報を得てください。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

グローバル教育センターの留学相談申し込みフォームから予約して下さい。

学生へのメッセージ

海外留学に漠然とした関心があるが何から始めたらよいかわからない状態から、どのように情報を集め、選択して整理すればよいか、などのアイデアやヒントを示し、学生が学部3年後期からの交換留学を主体的に計画し、学部2年後期の学内選考に向けて着実に準備を進めるきっかけにしたいと思います。

今年度の工夫

新型コロナ感染状況を含め、最新の国際動向を注視しながら授業を進めます。

教科書

特定の教科書は用いません。

参考書・参考資料等

参考資料は、BEEFコースサイトにアップロードします。

海外留学支援論 ― グローバル人材育成のために ― / 大西好宣：東信堂，2020，ISBN:

授業における使用言語

日本語

日本語で行いますが、英語などの外国語による資料やホームページなども参照します。

キーワード

海外留学、グローバル人材、異文化理解、実務経験教員、パソコン、対面と遠隔授業の併用

開講科目名	総合科目Ⅰ（海外留学のすすめB）				
成績入力担当	橋田 力	開講区分		単位数	
		第4クォーター		1.0単位	
ナンバリングコード	U1HH100	曜日・時限等	月5	時間割コード	4U910

授業のテーマ

海外留学は、本学での学びを異なる観点から深める機会となるだけでなく、さまざまな異文化体験を経ることによって、「神戸スタンダード」に示された3つの能力（複眼的に思考する能力・多様性と地球的課題を理解する能力・協働して実践する能力）を高め、グローバル人材として成長していく人生の貴重なチャンスとなります。国際的な文化資本に恵まれた神戸の地で、国際交流が盛んな本学の教員や他の学生との対話を通じて、広く世界に目を向けて何を学び、どのようなキャリアを歩みたいのか考えることにより、海外インターンシップや大学院留学への挑戦を視野に入れます。

授業の到達目標

1. 海外インターンシップや大学院留学に関する情報を集め、選択して整理するための基礎知識を得る。
2. 海外インターンシップや大学院留学に向けた準備の大筋を考えることができる。
3. 「ジョブ型雇用」など日本型雇用システムの変化を念頭に置き、大学院留学を起点とする国際機関や多国籍企業などのキャリアの可能性を考えることができる。

授業の概要と計画

以下のとおり各回授業で取り上げるトピックを予定していますが、受講生の関心などに応じて授業内容を変更することもあります。

- 第1回（12月 5日） はじめに、欧米型キャリア形成と日本型雇用システムの変化
- 第2回（12月12日） 海外インターンシップ（学内選考によるもの）
- 第3回（12月19日） 海外インターンシップ（国連やEUなど国際機関の公募型）
- 第4回（12月26日） 海外インターンシップに向けた準備の大筋を考える。
- 第5回（ 1月16日） 大学院留学（ダブルディグリーなどを含む）
- 第6回（ 1月23日） 大学院留学に向けた準備の大筋を考える。
- 第7回（ 1月30日） グローバルなキャリアの入口を目指す。
- 第8回（ 2月 6日） まとめ、期末レポートの提出

成績評価方法

1. フィードバックシート（授業ごとに提出：1回5点×7回＝35点）
授業内容の理解：3点、授業内容の理解と発展・深化：4点以上
2. 期末レポート（国際公募型インターンシップ／大学院留学に向けた準備計画案：50点）
授業内容の理解：30点、授業内容の理解と発展・深化：31点以上
3. 授業への貢献（担当教員が示す事例が唯一の正解ではなく、論点を明らかにする質問、受講生が調べた最新の情報や現世代ならではの観点の提示など、学びの共同体であるクラスを活性化させる貢献：15点）
質問（授業内容の明確化）：5点、最新情報・観点提示など：6点以上

成績評価基準

1. 海外インターンシップや大学院留学に関する情報を集め、選択して整理するための基礎知識を得ているか。
2. 海外インターンシップや大学院留学に向けた準備の大筋を考えることができるか。
3. 「ジョブ型雇用」など日本型雇用システムの変化を念頭に置き、大学院留学を起点とする国際機関や多国籍企業などのキャリアの可能性を考え、国際公募型インターンシップ／大学院留学に向けた準備計画案としてレポート作成ができるか。

履修上の注意（関連科目情報）

「海外留学のすすめA」を主に交換留学を想定した基礎編、「海外留学のすすめB」を主に海外インターンシップや大学院留学を想定した応用編としています。

なお、新型コロナウイルス感染状況によっては、Zoomによる遠隔授業に変更する場合があります。授業前にBEEFでリンク先などを確認して下さい。

事前・事後学修

海外留学に関する図書は、以下に示した参考書だけでなく、グローバル教育センター・ラーニングcommons（情報資料室）や社会科学系図書館のグローバル図書コーナーなどがあるので、気になった本に目を通しておくとよいでしょう。また、授業で取り上げた事例のうち、自分の関心に合うものを調べ、最新の情報を得るとよいでしょう。
本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

グローバル教育センターの留学相談申し込みフォームから予約して下さい。

学生へのメッセージ

海外インターンシップや大学院留学など、どのようにグローバルなキャリア形成につなげていけばよいか、「ジョブ型雇用」など日本型雇用システムの変化も踏まえて考えてみましょう。

今年度の工夫

新型コロナウイルス感染状況を含め、最新の国際動向を注視しながら授業を進めます。

教科書

特定の教科書は用いません。

参考書・参考資料等

参考資料は、BEEFコースサイトにアップロードします。

ジョブ型雇用社会とは何か ― 正社員体制の矛盾と転機 / 濱口桂一郎 : 岩波書店, 2021, ISBN:

「国連式」世界で戦う仕事術 / 滝澤三郎 : 集英社, 2019, ISBN:

異文化理解力 ― 相手と自分の真意がわかるビジネスパーソン必須の教養 / エリン・メイヤー / 樋口武志訳 : 英治出版, 2015, ISBN:

授業における使用言語

日本語

日本語で行いますが、英語などの外国語による資料やホームページなども参照します。

キーワード

海外留学、グローバル人材、異文化理解、実務経験教員、パソコン、対面と遠隔授業の併用

4. 令和4年度（2022年度）TA・SA配分時間

■【学際】令和4年度 TA、SA配分時間

部会	授業名	担当教員	配分時間	使用時間				実際使用時間	最終残時間	SA	TA(M)	TA(D)	備考
				1Q	2Q	3Q	4Q						
学際	神戸大学の研究最前線B	葛城浩一	15		15			15	0		1		
	海への誘い	廣野康平	48		48			48	0	3			9月集中講義
	神戸大学史A	菊地真	15	15				15	0	1			
	神戸大学史B	菊地真	15		15			15	0	1			
	瀬戸内海学入門	上井進也	64		64			64	0	1	4		6月集中講義
	神戸大学の研究最前線A	葛城 浩一	15			8	7	15	0		1		
	職業と学び	北村 雅季	16				16	16	0		1		

5. 令和3年度（2021年度）後期、同4年度（2022年度）前期

授業振り返りアンケート結果

■令和3年度後期 学際教育部会授業振り返りアンケート結果

◇記述式回答結果

時間割コード	開講科目名称	担当教員	担当教員所属	曜日	時限	開講区分	教育部会	回答
3U081	社会と人権A	塚田 哲之	非常勤講師	水	2	第3クォーター	学際	資料がたくさんあってわかりやすかった。学びたいと思った分野を取り上げくれたので、熱心に取り組むことが出来たと思う。
3U081	社会と人権A	塚田 哲之	非常勤講師	水	2	第3クォーター	学際	先制が取り上げてくださったニュースや記事は目を通したが、自分から他のニュースや事件等を調べる時間が取れず、知識を深めきれなかった。社会に残る人権問題について、どのように改善していけばよいのかということまで深く考えることができたので良かったと思う。また、LGBTの問題について、同性婚が認められていないことの理由などについて考えてみると、日本社会や日本の法律は様々な問題点を抱えていると感じた。今回の学習でさまざまな人権問題について認識することができたので良かったと思う。
3U098	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	月	5	第3クォーター	学際	毎講義、各方面で活躍されている講師の先生方から生の声を聞かせていただけるので、大変楽しく、有意義な時間を過ごしております。今まで、関わったことのない分野の先生方が多いので、見識が広がり、その度にいろんなことを考えることが出来るため履修して本当に良かったです。
3U098	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	月	5	第3クォーター	学際	初回の授業動画の中で触れていた、授業スケジュールの資料(日程、対面かオンラインかなど)をpdfの形でbeefに上げていただければありがたかったです。
3U098	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	月	5	第3クォーター	学際	様々な分野の方々のお話が聞けてとても楽しかったです。ここで得た学びを今後の生活で活かせるよう努力したいと思います。
3U098	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	月	5	第3クォーター	学際	色々な方のお話を聞くことができたという点でとても光栄でした。私は自分の人生を常により良いものにしたいと思っています。そのために何が出来るのか何をすべきなのかということを考える上で、今後、先生方のお話が役に立つと思っています。何よりも、それぞれの人の人生観を聞くことがとても楽しかったです。個人的には、林久美子さんのお話が好きでした。彼女の明るさと楽しそうな姿に私まで元気を分けていただきました。特に、タイミングは早かれ遅かれ、自分のやりたいと思ったことに対してどこかで挑戦し、きちんと結果が出るまで諦めずに取
3U098	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	月	5	第3クォーター	学際	質問するのにzoomのカメラオンにするのは質問しにくいです。
3U098	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	月	5	第3クォーター	学際	色々な方々の話が聞けて面白かったです。5限の授業でしたが、受けて良かったなと思いました。
3U098	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	月	5	第3クォーター	学際	これまでの己の考えがいかにも偏っていたかを実感できる良い機会になりました。ありがとうございました。
3U101	環境学入門A	神尾 英治	工学研究科	火	5	第3クォーター	学際	提出忘れがなくなるのでそれはいいのだが、課題の提出期限がやや早かった。
3U101	環境学入門A	神尾 英治	工学研究科	火	5	第3クォーター	学際	課題の提出期限が授業のある火曜日中というのが、個人的には火曜日の夜に予定が入っていたので厳しく感じられました。よりクオリティの高いレポートを求めるとすれば、1日は作成期間があるとありがたいです。
3U101	環境学入門A	神尾 英治	工学研究科	火	5	第3クォーター	学際	当日中に課題提出期限を設定されているのが有益ではあったが、厳しくも感じた。
3U101	環境学入門A	神尾 英治	工学研究科	火	5	第3クォーター	学際	その日中に提出するのが大変だった
3U101	環境学入門A	神尾 英治	工学研究科	火	5	第3クォーター	学際	環境について、知っていたことも出てきましたが、大半は知らないことだったので、環境についてたくさん知識を得られたことがとてもうれしかったです。いろいろな視点からの環境問題が見られたことも面白かったです。
3U101	環境学入門A	神尾 英治	工学研究科	火	5	第3クォーター	学際	最終レポートの期間で一部の過去資料が見れなくなっていたことがありこれは最終レポートにも支障が出たため掲載期間を延ばしてほしかった。興味深い内容で意欲的に行えてよかった。
3U101	環境学入門A	神尾 英治	工学研究科	火	5	第3クォーター	学際	面白かった
3U101	環境学入門A	神尾 英治	工学研究科	火	5	第3クォーター	学際	この授業ではいろいろな先生のお話を聴けて良かった。授業をよりよくするための意見や要望は特にない。
3U101	環境学入門A	神尾 英治	工学研究科	火	5	第3クォーター	学際	環境問題に関して以前より興味を持った。
3U101	環境学入門A	神尾 英治	工学研究科	火	5	第3クォーター	学際	農業の話に現実味があってなかなかスリルのある内容だと思った。
3U101	環境学入門A	神尾 英治	工学研究科	火	5	第3クォーター	学際	農業の話はとても興味深いものであった。日本が農業大国であることを初めて知ったので、摂るべき食材というのを考えないと思いました。
3U103	グローバルリーダーシップ育成基礎演習	黒田 千晴	グローバル教育センター	木	5	後期	学際	非常に有意義でした
3U103	グローバルリーダーシップ育成基礎演習	黒田 千晴	グローバル教育センター	木	5	後期	学際	特に、国際的な環境が良くて個人的に新しい体験になってとても満足しています。
3U103	グローバルリーダーシップ育成基礎演習	黒田 千晴	グローバル教育センター	木	5	後期	学際	グローバル・リーダーシップの授業では、異文化理解に必要なスキルが得られる機会がいっぱいあったし、日本人の学生といっぱいやり取り出来て非常に面白かったと思います。
3U103	グローバルリーダーシップ育成基礎演習	黒田 千晴	グローバル教育センター	木	5	後期	学際	日本人の友達ができて、とてもよかったです。先生も学生同士もいろいろ助かって下さって成功になりました。
3U103	グローバルリーダーシップ育成基礎演習	黒田 千晴	グローバル教育センター	木	5	後期	学際	自由なのが良かった。でも自由すぎてたまにあいまいでどうしたらいいかわからない部分や、他のグループがどのようにしているのか、かぶっている部分がないかなど気になる部分があったので、もう少し指示してもらって、全員で同じ認識を共有しておきたかった。

3U103	グローバルリーダーシップ育成基礎演習	黒田 千晴	グローバル教育センター	木	5	後期	学際	半年のあいだ、大変お疲れ様でした。
3U108	職業と学びーキャリアデザインを考えるA	北村 雅季	工学研究科	木	5	第3クォーター	学際	自分の将来を見つめなおすいい機会になりました。
3U108	職業と学びーキャリアデザインを考えるA	北村 雅季	工学研究科	木	5	第3クォーター	学際	自分の将来についてこのタイミングでじっくりと考えられたのは非常に良かった。また様々な人の話が聞けて自分に足りていないところやどういう姿勢でこれまで取り組んでこれたかがわかったので非常に興味深かった。
3U108	職業と学びーキャリアデザインを考えるA	北村 雅季	工学研究科	木	5	第3クォーター	学際	自分の将来のキャリアに向き合うとても良い機会になった。毎週この授業を受ける時間が楽しみで仕方なかった。
3U111	ひょうご神戸学	松下 正和	地域連携推進室	月	5	第3クォーター	学際	地方から神戸に来たため兵庫県のことを全く理解していなかったため、様々な知識を知ることができてよかった。
3U111	ひょうご神戸学	松下 正和	地域連携推進室	月	5	第3クォーター	学際	この講義を受けて、様々な教授・分野から知見を得て、視界を広げ、理解を深めるとともに、神戸と地元を振り返り、見つめ直すことができた。
3U111	ひょうご神戸学	松下 正和	地域連携推進室	月	5	第3クォーター	学際	オムニバス形式によって、さまざまな分野から神戸という町について知ることができ、とても有益な講義だった。
3U111	ひょうご神戸学	松下 正和	地域連携推進室	月	5	第3クォーター	学際	色々な先生のお話を聞けて良かった。授業をよりよくするための意見や要望は特にない。
3U111	ひょうご神戸学	松下 正和	地域連携推進室	月	5	第3クォーター	学際	楽しかったです
3U111	ひょうご神戸学	松下 正和	地域連携推進室	月	5	第3クォーター	学際	自前の資料を買うことを進めるくらいなら、教科書指定にしてほしかった。わざわざわざわざ取りに行くのが面倒です。
3U111	ひょうご神戸学	松下 正和	地域連携推進室	月	5	第3クォーター	学際	講師の方の音声が悪く聞き取りづらい時があった
3U111	ひょうご神戸学	松下 正和	地域連携推進室	月	5	第3クォーター	学際	授業中に疑問に思ったことを、zoom内で質問することで、より深い理解に努めた。
3U112	地域社会形成基礎論	松下 正和	地域連携推進室	木	5	第3クォーター	学際	特にありません。
3U112	地域社会形成基礎論	松下 正和	地域連携推進室	木	5	第3クォーター	学際	さまざまな分野の教授の話聞いたのが有益だった。
3U112	地域社会形成基礎論	松下 正和	地域連携推進室	木	5	第3クォーター	学際	地域での活動について知れたので地元で仕事につく際に役立てられると感じ、よかった。
3U112	地域社会形成基礎論	松下 正和	地域連携推進室	木	5	第3クォーター	学際	特になし
3U112	地域社会形成基礎論	松下 正和	地域連携推進室	木	5	第3クォーター	学際	たくさんの教授による、様々なトピックに関する講義を受けて、地域社会について学び、この神戸と地元の地域社会とのかかわり方について、より広い視点・知識をもって考えるようになった。
3U112	地域社会形成基礎論	松下 正和	地域連携推進室	木	5	第3クォーター	学際	自身の住む地域について改めて見直す良い機会となった。全講義においてとても興味深い内容であった。
3U113	日本酒学入門	米谷 淳	非常勤講師	水	5	第3クォーター	学際	特になし
3U113	日本酒学入門	米谷 淳	非常勤講師	水	5	第3クォーター	学際	まだ酒が飲めない年齢なので、2年生になってから受けた方が良かったかなとは少し思った。
3U113	日本酒学入門	米谷 淳	非常勤講師	水	5	第3クォーター	学際	未成年なので、お酒のことについてはほとんど知らなかったけれど、日本酒に関わっている方達から色々な話を聞けてとても良かったし、日本酒がどうしたら広まるかなど考え、思考力を鍛えることもできた。授業に出られない時用のアーカイブ配信もありがたかった。
3U113	日本酒学入門	米谷 淳	非常勤講師	水	5	第3クォーター	学際	とても面白かったです。灘の酒は知っていましたが、授業を受けていくうちに、全国的にも有名な地位にいることに気づきました。せっかく神戸にいるならば、ぜひ今のうちに日本酒を楽しんでおきたいと思いました。また、例年の酒蔵体験が今年はなかったのが残念でした。コロナが収まれば再開していただきたいです。
3U904	総合科目I	村中 泰子	キャンパスライフ支援センター	火	5	第3クォーター	学際	テストの解答欄がホッチキスと重なっているところがあり、書きにくかったため少し位置をずらしてほしい。
3U904	総合科目I	村中 泰子	キャンパスライフ支援センター	火	5	第3クォーター	学際	この授業の存在の認識があまりされていないような気がしますが、この授業を通して自身の考え方にも影響を与えるのではないかと考えますので広く周知されてほしいと感じました。
3U904	総合科目I	村中 泰子	キャンパスライフ支援センター	火	5	第3クォーター	学際	フィールドワークを行うことで、より自分の中で当事者意識が高まって良かった。
3U904	総合科目I	村中 泰子	キャンパスライフ支援センター	火	5	第3クォーター	学際	変わった授業だったので面白かった。しかも、普通の授業とは違った重要なものを得られた気がした。教員のキャラクターも親しみやすく良かった
3U904	総合科目I	村中 泰子	キャンパスライフ支援センター	火	5	第3クォーター	学際	上記に関して、私が悪いのですが、オンライン学習を最後の方に溜めてしまいまとめて行ったので、定期的に締め切りがあると授業と並行して行えるのではと思う。

3U904	総合科目I	村中 泰子	キャンパスライフ支援センター	火	5	第3クォーター	学際	レゴブロックを使うプログラムは創造性を要するので苦手に感じた。どちらかといえば、車椅子実習のようなバリアやアクセシビリティを体験する実習がほしいと思う
3U904	総合科目I	村中 泰子	キャンパスライフ支援センター	火	5	第3クォーター	学際	実習が多く、有益だった。
3U904	総合科目I	村中 泰子	キャンパスライフ支援センター	火	5	第3クォーター	学際	アクセシビリティやダイバーシティといった社会における多様な価値観、あり方、また誰もがアクセスできることの重要性について学ぶ科目があり大変ありがたかった。元々興味のある内容ではあったが興味関心に関係なく必修科目にしてもいいぐらいみんなが知っておくべきことを学ぶことが出来た。
3U904	総合科目I	村中 泰子	キャンパスライフ支援センター	火	5	第3クォーター	学際	車いす実習やバリアフリー調査を通して今まで意識していなかったバリアに気づき、考えるようになりました。良い経験ができたと思います。
4U080	社会と人権B	塚田 哲之	非常勤講師	水	2	第4クォーター	学際	1トピックにつき1回の授業時間しか割かれなかったため、説明が物足りないように感じたが、様々な観点から詳しく説明がされていたと思う。
4U080	社会と人権B	塚田 哲之	非常勤講師	水	2	第4クォーター	学際	社会問題と法律への関心が高まったため、有意義な講義だったと思います。最初の人権に関する知識を深める講義は条文などを見るだけの淡白な内容でした。リアルタイムの講義であることを活かし、ディスカッションなどを加えたほうがより刺激の多いものになるのではないかと思います。
4U101	環境学入門B	神尾 英治	工学研究科	火	5	第4クォーター	学際	いい授業でした
4U101	環境学入門B	神尾 英治	工学研究科	火	5	第4クォーター	学際	課題がある程度難しすぎて、内容も同じで、難しかったです。ただし、いくつかの内容は楽しくて、いい勉強になりました。
4U101	環境学入門B	神尾 英治	工学研究科	火	5	第4クォーター	学際	最終レポートであんな量をまとめて出すくらいなら、各回ごとに提出させてほしかった。
4U101	環境学入門B	神尾 英治	工学研究科	火	5	第4クォーター	学際	3クォーターに引きつづき受講したが、どの授業も内容が非常に充実していた。環境問題について深く考えるきっかけになった。
4U101	環境学入門B	神尾 英治	工学研究科	火	5	第4クォーター	学際	ないです
4U101	環境学入門B	神尾 英治	工学研究科	火	5	第4クォーター	学際	大学の取り組みについて理解できた。
4U101	環境学入門B	神尾 英治	工学研究科	火	5	第4クォーター	学際	自分の専門分野と環境学の内容を関連させて学ぶことができました。
4U101	環境学入門B	神尾 英治	工学研究科	火	5	第4クォーター	学際	環境問題について、技術的な分野からの話はよく聞きますが人文系系の講義を聞くことができよかったです。文系の自分が勉強している分野も環境問題に役立つのだと感じられました。
3U909	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	火	5	第3クォーター	学際	積極的に取り組めた
3U909	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	火	5	第3クォーター	学際	特になし
3U909	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	火	5	第3クォーター	学際	様々な専門分野の先生方の貴重な話を聞いて有意義だった。
3U909	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	火	5	第3クォーター	学際	特にありません。
3U909	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	火	5	第3クォーター	学際	毎回予習のビデオを見なければいけないのが大変だった。
3U909	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	火	5	第3クォーター	学際	授業以外にも授業時間並みのビデオを見なければならなかったのは負担が大きすぎたように感じられる。また、提出期限が20時ということで異質であったのを、他の授業のように日付が変わるぐらいにしてほしかった。
3U909	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	火	5	第3クォーター	学際	昨年の映像を見たりして授業が繰り返しになることも多く、質疑応答の時間が長く集中しがたい時があった。
3U909	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	火	5	第3クォーター	学際	これからより多くの関心が集まるであろうデータサイエンスについて深く学ぶことが出来たとともに、今後の発展について関心を持つきっかけとなった
3U909	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	火	5	第3クォーター	学際	データを扱う手法など初めて学ぶことが多かったが、予習をして授業を受けることができ良かった。
3U909	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	火	5	第3クォーター	学際	ある回の授業で講義の先生が質問に対する答えとしてわからない、知らないを連発していて、受講していること自体に疑問を持った。せめて自分の分野に持ち込んで話してほしい。
3U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第3クォーター	学際	先生は優しく授業スタイルも良かった。4クォーターの統計学基礎Bでは参考図書などを使ってもっと自己学修に取り組みたい。
3U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第3クォーター	学際	特になし
3U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第3クォーター	学際	例題を授業内で設けているのが良かった。
3U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第3クォーター	学際	コミュニケーションシートをもう少し早く提出できるようにしてほしいです。
3U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第3クォーター	学際	お忙しいとは思いますが、授業の準備が遅い点を除いても、最終課題掲出予定日から1週間後に掲出するのはさすがにどうかと思う。
3U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第3クォーター	学際	コミュニケーションシートの設定が遅かったのが、取り組みにくかったです。
3U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第3クォーター	学際	置いてかれている感を感じた
3U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第3クォーター	学際	文系学生にもう少し配慮した内容であってほしかった。課題を提出したら問題の内容が見えなくなってしまうので、後から見返せるような作りしてほしいです。
3U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第3クォーター	学際	確認テストが忘れた頃にアップロードされている。
3U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第3クォーター	学際	統計学で具体的に何が行われているのかが多く知れた。統計の計算問題が演習でもっとあって面白いと思った。
3U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第3クォーター	学際	統計学の初歩の内容をざっくり捉えられたと感じます。仮説検定を最後にやりましたが、個人的には正規分布以外の分布を紹介してほしいと思います。(シラバスにも仮説検定は計画に載っていないなかったので、ちょっと急に感じました)
4U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第4クォーター	学際	途中からZoomのリンクがめっちゃくちゃになっていて、入るのに苦労した。課題を出すのが基本的に遅い。
4U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第4クォーター	学際	授業内容が高度で、微分積分や線形代数を履修していない自分には難しいところもあった。しかし、母平均の推定や仮説検定の考え方などの基礎的な部分はしっかり身につけられた。また、この授業をきっかけに統計学に興味を持ち、参考書やYouTubeの講義などを使って統計学に関する自学自習ができた。
4U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第4クォーター	学際	3Qの統計学基礎Aとかなり内容が重なっている部分が残念だったが、齋藤先生は優しく、コミュニケーションシートの提出期限も余裕があったのでストレスなく課題に取り組めた。課題の難易度もちょうどよかったと思う。
4U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第4クォーター	学際	Aとかぶっているところが多く、扱う内容を見直してほしいと感じた。
4U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第4クォーター	学際	いい授業でした
4U910	総合科目II	齋藤 政彦	理学研究科	水	5	第4クォーター	学際	課題を早めにだしていただきかったです。
3U104	EU基礎論	吉井 昌彦	経済学研究科	月	5	第3クォーター	学際	EUのことについて知ることが出来た。先生方で内容が被らないようにしていたが、復習にもなるので時間に余裕があるのであればそれらを別観点で見ることが出来るのでそちらのほうが良いと思う。

3U104	EU基礎論	吉井 昌彦	経済学研究科	月	5	第3クォーター	学際	以前まで、EUについて詳しいことは何も知りませんでした。しかし、この授業を通して、基礎知識を学んだことで、EUの在り方、政治の方法は、日本がこれから諸問題を解決する上で参考になると感じるようになりました。授業では各分野の一部を学んだだけだと思うので、これから自分でも関心を持ち続けて、学びを深めたいです。
3U104	EU基礎論	吉井 昌彦	経済学研究科	月	5	第3クォーター	学際	zoomのミーティングコードは、メールではなくbeefに残しておいてほしいと感じた。
3U104	EU基礎論	吉井 昌彦	経済学研究科	月	5	第3クォーター	学際	もう少しテストについての対策方法を明示して頂きたかったです。
4U102	男女共同参画とジェンダーB	青山 薫	国際文化学研究科	木	5	第4クォーター	学際	男女の性差別問題などが日本だけではなく世界において問題となっているので、それについて学ぶことの出来る講義であってとても有益だと感じた。社会問題への意識が高まった。
4U102	男女共同参画とジェンダーB	青山 薫	国際文化学研究科	木	5	第4クォーター	学際	先生が毎回変わったので、色々な視点からジェンダーについて学ぶことが出来て面白かった。
4U102	男女共同参画とジェンダーB	青山 薫	国際文化学研究科	木	5	第4クォーター	学際	ジェンダーについて広範囲の研究を知ることができ、有意義な授業だったと思います。さらに、私たちに身近な問題のひとつである性暴力について、講演していただいたことが最大の収穫だったと思います。一方で、ジェンダー学をさらに学びたい学生への案内が少ない気がします。また、ジェンダー学を専門的に学ぶ機会が多くこの学部で整っていないことも、改善してほしいと思います。
4U102	男女共同参画とジェンダーB	青山 薫	国際文化学研究科	木	5	第4クォーター	学際	ジェンダー問題には関心があるので興味深い内容だけでした。
3U102	男女共同参画とジェンダーA	青山 薫	国際文化学研究科	木	5	第3クォーター	学際	外部の方の話を聞けたり、課題を通して様々な視点からジェンダーを考察したりできたのがよかったです。
3U102	男女共同参画とジェンダーA	青山 薫	国際文化学研究科	木	5	第3クォーター	学際	概ね真面目に取り組むことができた。
3U102	男女共同参画とジェンダーA	青山 薫	国際文化学研究科	木	5	第3クォーター	学際	特にありません
3U110	神戸大学の研究最前線A	山内 乾史	大学教育推進機構	火	5	第3クォーター	学際	私が文系学部にも所属する生徒だからであるが、理系科目の授業が難しすぎる。特に、石鹼膜の授業などは、全然理解することができなかった。
3U110	神戸大学の研究最前線A	山内 乾史	大学教育推進機構	火	5	第3クォーター	学際	時々難しすぎる内容があったように感じた。神戸大学の研究において、どんなことが行われているのかを知るきっかけとなる良い授業だった。
3U110	神戸大学の研究最前線A	山内 乾史	大学教育推進機構	火	5	第3クォーター	学際	視野を広げることにつながる授業だった
3U914	総合科目Ⅱ	齋藤 政彦	理学研究科	月	5	第3クォーター	学際	エクセルの関数の使い方はある程度知っていたが、より効率的に計算をおこなう関数など、新しいものを知ることができた。
3U914	総合科目Ⅱ	齋藤 政彦	理学研究科	月	5	第3クォーター	学際	実践的でよかった
3U914	総合科目Ⅱ	齋藤 政彦	理学研究科	月	5	第3クォーター	学際	統計学の内容はあらかじめ学習していたので復習として学べた。この授業ではexcelへの応用が新たに学習できたため実践的かつ有益であった
3U914	総合科目Ⅱ	齋藤 政彦	理学研究科	月	5	第3クォーター	学際	エクセルの使い方について基本的なこと、特に関数の使い方について理解が深まったのでとても良かったです。統計の部分の理解が少し難しかったのももう少しゆっくり解説してもらえたらもっと良かったです
3U914	総合科目Ⅱ	齋藤 政彦	理学研究科	月	5	第3クォーター	学際	エクセルの具体的な使い方を学ぶことができて良かった。
3U914	総合科目Ⅱ	齋藤 政彦	理学研究科	月	5	第3クォーター	学際	とても分かりやすい授業でした！
3U914	総合科目Ⅱ	齋藤 政彦	理学研究科	月	5	第3クォーター	学際	とくになし
3U914	総合科目Ⅱ	齋藤 政彦	理学研究科	月	5	第3クォーター	学際	もう少し詳しく説明を書いてほしいです。
4U903	総合科目Ⅱ	齋藤 政彦	理学研究科	月	5	第4クォーター	学際	python自体が高度なものを扱うものであるため、理解が難しかったのですが、充実した解説動画があったため、意外と理解に苦労した場面が多くなかったです。
4U903	総合科目Ⅱ	齋藤 政彦	理学研究科	月	5	第4クォーター	学際	概ね真面目に取り組むことができた。
4U903	総合科目Ⅱ	齋藤 政彦	理学研究科	月	5	第4クォーター	学際	時間割が空いているからという軽い気持ちで受講してはいけな、と思った。難しすぎる。
4U903	総合科目Ⅱ	齋藤 政彦	理学研究科	月	5	第4クォーター	学際	なし
4U903	総合科目Ⅱ	齋藤 政彦	理学研究科	月	5	第4クォーター	学際	一回分授業を飛ばしたせいでその後があまり理解できなかった。
4U903	総合科目Ⅱ	齋藤 政彦	理学研究科	月	5	第4クォーター	学際	数理統計の知識がなかったので、後半の授業の理解が難しかったです。
4U903	総合科目Ⅱ	齋藤 政彦	理学研究科	月	5	第4クォーター	学際	特になし

令和4年度前期 学際教育部会授業振り返りアンケート結果

◇選択式回答結果

時間割コード	開講科目名称	主担当教員	主担当教員所属	曜日	時限	開講区分	教育部会	回答率	【設問1】この授業に関して、平均して毎週どれくらい自己学修(予習、復習を含む)をしましたか。 1. 180分以上、2. 120分以上-180分未満、3. 60分以上-120分未満、4. 30分以上-60分未満、5. 0-30分未満						【設問2】この授業の内容はよく理解できましたか。 1. そう思う、2. どちらかといえばそう思う、3. どちらともいえない、4. どちらかといえばそう思わない、5. そう思わない						【設問3】シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。 1. 十分に達成できた、2. ある程度達成できた、3. どちらともいえない、4. あまり達成できなかった、5. 達成できなかった、6. 到達目標が分からない、7. シラバスを読んでいない							【設問5】この授業でより工夫してほしい事項があればチェックしてください(複数可)。 1. 担当教員の授業への熱意、2. 担当教員の学生に対する接し方、3. 担当教員の話し方、4. BEEF等の学修支援システムの内容、板書、教材等、5. シラバス、6. 授業の進み方・計画性、7. 特になし							【設問7】総合的に判断して、この授業は有益であったと思いますか。 1. 有益であった、2. どちらかといえば有益であった、3. どちらともいえない、4. どちらかといえば有益ではなかった、5. 有益ではなかった											
									回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	総計	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	総計	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6	回答7	総計	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6	回答7	総計										
1U081	社会と人権A	武 寛子	非常勤講師	火	2	第1クォーター	学際	23.8%	1		17	12	4	34	12	20	1	1		34	5	22	4	1		1	1	34	1										19	13	1	1				34
1U082	国際協力の現状と課題A	木村 幹	国際協力研究科	木	1	第1クォーター	学際	64.7%			2	7	2	11	4	6	1			11	3	6	1			1		11				2		1	8	11	9	2						11		
1U099	神戸大学史A	菊地 真	人文学研究科	月	2	第1クォーター	学際	16.9%			6	12	12	30	9	11	5	3	2	30	2	15	6	2		1	4	30				8		3	21	32	9	12	4	2	3			30		
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育セン	木	5	第1クォーター	学際	36.7%	4	3	11	30	42	90	51	26	10		3	90	31	43	11	3	1	1		90	4	2	5	3	1	10	72	97	63	17	8	1	1			90		
2U078	社会と人権B	武 寛子	非常勤講師	火	2	第2クォーター	学際	32.2%	1	6	25	22	10	64	36	28				64	25	35	3				1	64			2					64								64		
2U079	国際協力の現状と課題A	木村 幹	国際協力研究科	木	1	第2クォーター	学際	22.4%	1			4	12	17	5	10	1	1		17	5	8	2	2				17		1	1	1	2		14	19	13	2	2					17		
2U099	神戸大学史B	菊地 真	人文学研究科	月	2	第2クォーター	学際	24.0%	2	3	4	7	8	24	8	6	6	2	2	24	6	9	5	1		1	2	24	1		2	7	1	1	15	27	10	7	3	1	3			24		
2U103	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーシ	水	5	第2クォーター	学際	44.2%	1	7	10	17	30	65	35	23	7			65	27	29	8			1		65		1	2		1	3	60	67	48	15	2					65		
2U104	神戸大学の研究最前線B	葛城 浩一	大学教育推進機構	火	5	第2クォーター	学際	13.8%	1	2	5	1	2	11	3	5	1	2		11		11						11		2	1	2		1	6	12	5	5					1	11		
2U105	ひょうご神戸学	田中丸 治哉	農学研究科	木	5	第2クォーター	学際	33.3%	2	5	14	28	17	66	18	37	9	1	1	66	12	43	7	1		1	2	66	2			4	3	1	4	53	67	22	31	8	3	2			66	
2U106	地域社会形成基礎論	奥村 弘	人文学研究科	木	5	第2クォーター	学際	28.7%	1	4	12	23	16	56	18	30	6		2	56	8	32	12	1		1	2	56	1			3			52	56	19	29	7					56		
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可	西原 圭志	学術・産業イノベーシ	他	0	第2クォーター	学際	52.9%	1	2	4	28	38	73	31	32	9	1		73	24	33	11	4			1	73			1	4		7	61	73	53	14	4	2				73		
2U109	海への誘い	廣野 康平	海事科学研究科	他	0	第2クォーター	学際	11.1%			1	1	2	4	1	3				4		4						4				4	4			4								4		
2U901	総合科目 I	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーシ	火	5	第2クォーター	学際	31.8%				2	5	7	3	3	1			7	3	2	1	1				7				1		1	5	7	6		1					7		

■令和4年度前期 学際教育部会授業振り返りアンケート結果

◇記述式回答結果 設問4:この授業を振り返って、自らの学修に関する感想があれば書いてください。

時間割コード	開講科目名称	主担当教員	主担当教員所属	曜日	時限	開講区分	教育部会	回答
1U081	社会と人権A	武 寛子	非常勤講師	火	2	第1クォーター	学際	ジェンダーや人権について自分の立場や考え方を文章化する機会を得ることができて有益であった。
1U082	国際協力の現状と課題A	木村 幹	国際協力研究科	木	1	第1クォーター	学際	最高の講義でした。
1U082	国際協力の現状と課題A	木村 幹	国際協力研究科	木	1	第1クォーター	学際	授業内の質問や意見交換の際に、意欲的に取り組み、知見を広げることができた。
1U082	国際協力の現状と課題A	木村 幹	国際協力研究科	木	1	第1クォーター	学際	指定の参考書は購入せずに授業に臨んだが、授業を通してより詳しく授業で取り上げられた事態について触れたいと感じ、購入した方が良かったなど感じた。
1U099	神戸大学史A	菊地 真	人文学研究科	月	2	第1クォーター	学際	神戸大学について詳しく知るきっかけとなり、非常に有益であったと感じる。
1U099	神戸大学史A	菊地 真	人文学研究科	月	2	第1クォーター	学際	授業を毎回しっかり聞いて、毎回の課題を提出することができたので良かった。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	毎回出席し、講義内容に向き合うことができたと思う。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	様々なゲストスピーカーから最新の知見をえることが出来たので良かった。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	様々な人の考え方、世界の現状を知れた
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	様々な知見が得られ、非常に刺激が貰えた
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	毎回の授業で自分にとって、視野を広げてくれ、あらゆることを学ぶことができる講義であったため、毎回の復習レポートの提出もとても身になった。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	一回だけ提出し忘れたのが惜しい。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	ゲストスピーカーの方に貴重な話をたくさん聴くことができた。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	グローバルに学び、活動していきたいと考える中で、今の自分に必要なことに気づくことができたので、それらを達成するための行動をしていきたい。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	グローバルな問題に関して多くの情報をしることができ、そこから自分で問題について考えることができた。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	グローバルな課題について今まで知らなかったことや、知っていたけど、より深いところまで学習することができました。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	しっかりスライドの内容と照らし合わせて学習で来た。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	90分間集中力を持続させるのが難しかった。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	授業後レポートを2度も出し忘れてしまった。次の日の10時まで、というのを忘れてしまっていた。これからはこんなことを起こさないように、付箋に書くなどして対策したい。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	具体的な国際的に掘り組まなければならない問題について、定期的に学ぶ機会を得ることが出来た。専門家の話を聞くことで、高校生まででなんとなく知っていた内容をより具体的に学べた。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	講義を受け入れるだけではなく、講義の内容から自分が考えることなどを入れ込めたら、さらにいい学習になったと思いました。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	素晴らしい
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	取り上げられたトピックについてさらなる自学習を進めたい。
2U078	社会と人権B	武 寛子	非常勤講師	火	2	第2クォーター	学際	人権を、様々な角度からとらえなおすことでより人権に対する意識を高めることができた。
2U078	社会と人権B	武 寛子	非常勤講師	火	2	第2クォーター	学際	人権に関して様々な側面から議論され、多種多様な知識を得ることができた。
2U079	国際協力の現状と課題A	木村 幹	国際協力研究科	木	1	第2クォーター	学際	教科書を買って読んだのでえらい。
2U079	国際協力の現状と課題A	木村 幹	国際協力研究科	木	1	第2クォーター	学際	前半の斎藤先生、後半の木村先生どちらも豊富な経験をもとにしたお話をされていて、様々な考えさせられる講義でした。
2U099	神戸大学史B	菊地 真	人文学研究科	月	2	第2クォーター	学際	神戸大学のことをよく知れたと思う。
2U099	神戸大学史B	菊地 真	人文学研究科	月	2	第2クォーター	学際	大学ができた経緯やその順番についても話が面白かった
2U103	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	水	5	第2クォーター	学際	普段お話を聞けないような色々な職種の方や代表の方にお話を聞けて、視点が増えた。

2U103	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	水	5	第2クォーター	学際	よくメモを取りトピックについて考えることができた。
2U103	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	水	5	第2クォーター	学際	とくになし
2U103	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	水	5	第2クォーター	学際	初回の授業で鶴田先生が仰っていた、「すごい、私もこんな風にならなきゃ」と思うのが目的ではない、という点を意識して毎回講義を受けた。すると、盲目的に講師の方の考えを受け入れてしまうのではなく、批判的に捉えてより高次の視点で見ることができた。
2U103	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	水	5	第2クォーター	学際	子の授業程意欲的に取り組んだものはほかにないと思う。毎回刺激的で、この上なく有用であった。
2U104	神戸大学の研究最前線B	葛城 浩一	大学教育推進機構	火	5	第2クォーター	学際	様々な分野の講義が受けられてとても勉強になったし、知識の幅が広がったと思う。
2U105	ひょうご神戸学	田中丸 治	農学研究科	月	5	第2クォーター	学際	兵庫や神戸のいろいろな情報を知ることができた。大学生になってからこっちに来たが、自分の住んできた富山県と比較して考えるのはとても楽しかった。
2U105	ひょうご神戸学	田中丸 治	農学研究科	月	5	第2クォーター	学際	とても分かりやすかった。
2U105	ひょうご神戸学	田中丸 治	農学研究科	月	5	第2クォーター	学際	神戸の抱える問題について当事者意識が芽生えた
2U105	ひょうご神戸学	田中丸 治	農学研究科	月	5	第2クォーター	学際	難しかった。
2U105	ひょうご神戸学	田中丸 治	農学研究科	月	5	第2クォーター	学際	私は大阪出身なので、兵庫のことについて知ることができて良かったと感じました。これから神戸にいたことが増えると思いますが、授業で習ったことを思い出しつつ生活していきたいと思いました。
2U105	ひょうご神戸学	田中丸 治	農学研究科	月	5	第2クォーター	学際	地域社会について考えが深まった。
2U106	地域社会形成基礎論	奥村 弘	人文学研究科	木	5	第2クォーター	学際	頑張って取り組めた。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	本当にこの授業をとって良かったと思います。入学前からこの授業をとろうと決めていましたが、いざ2Qが始まって6時間土曜日に大学に行くという事はなかなかしんどい時もありました。しかし、それ以上の学びを講師の先生方から得られる授業だったと思います。講義をしてくださる講師の先生方も、この機会がなかったら簡単にお話を聞いたり質問する機会が得られないような方ばかりで、ぜひ、来年以降の履修を少しでも検討される方はこの貴重な機会を活かしてほしいと思います。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	予習の時間をもっと取るべきだったと思う。自分の知識不足のために疑問点を質問できなかったのは残念だった。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	たくさんの人々の話を聞くことができるとても貴重な機会だった。この学びは必ず授業での学習やこれからの人生において役に立つと思った。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	いろんなグローバル企業の話聞いてよかった
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	私は教員を目指しているので企業に就職するつもりはないが、だからといって企業やグローバル化のことを何も知らないのはだめだと思い勉強した
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	社会的に成功されている人たちの話はとても説得力があり、自分から行動するという気持ちを持つことができた。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	質問できなかったな
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	今の社会情勢を広く、効果的に学べる機会だった。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	自分の専門分野でないことだけどとても大事で生活に関わることを詳しく知ることができた。とても有意義であった。

2U108	社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	自分が今までかかわったことのない分野のエキスパートのお話を聞いて自分の視野・選択肢は広がった。
2U108	社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	経済学や経営学を自学習するべきだった。
2U108	社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	講師の方々の話を聞き、自分のものにできた
2U109	海への誘い	廣野 康平	海事科学研究科	他	0	第2クォーター	学際	非常に楽しく学ぶことができ、大変ためになった
2U109	海への誘い	廣野 康平	海事科学研究科	他	0	第2クォーター	学際	自分にはない観点から海を知ることができた。
2U109	海への誘い	廣野 康平	海事科学研究科	他	0	第2クォーター	学際	神戸大学独自の授業だと感じました。
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	学際	グラフが書くのが遅かったのでさっさとかければよかった。
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	学際	楽しく実習に参加でき、良かったです。
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	学際	専門性が高くなるとうしても理解が薄くなってしまふことがあったし、それをさらに理解に繋げようとするのができなかった。しかし、気になるところは直接質問をして理解することができたので良かった。
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	学際	大阪湾について実験結果から考察することが出来たと思う。
2U901	総合科目 I	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	火	5	第2クォーター	学際	とてもおもしろい授業で楽しく勉強させていただきました。
2U901	総合科目 I	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	火	5	第2クォーター	学際	自分で問題を設定して、答えのない問に対して課題解決の仕方を自分で考えるのは楽しかった。

時間割コード	開講科目名称	主担当教員	主担当教員所属	曜日	時限	開講区分	教育部会	回答
1U081	社会と人権A	武 寛子	非常勤講師	火	2	第1クォーター	学際	毎回のレポートに対してフィードバックを下さったことでモチベーションを保つことができました。
1U081	社会と人権A	武 寛子	非常勤講師	火	2	第1クォーター	学際	フィードバックを丁寧かつ迅速にして下さったこと。
1U081	社会と人権A	武 寛子	非常勤講師	火	2	第1クォーター	学際	何回目かの動画に大きい雑音が入っていて、先生の声が聞き取りにくかったです。
1U081	社会と人権A	武 寛子	非常勤講師	火	2	第1クォーター	学際	フィードバックをくださったのがよかったです。
1U081	社会と人権A	武 寛子	非常勤講師	火	2	第1クォーター	学際	オンデマンドで受講できたこと
1U081	社会と人権A	武 寛子	非常勤講師	火	2	第1クォーター	学際	リアクションペーパーを通じて授業内容について深く考えることができたと思う。授業を受けるだけではなかなか深く考えることは難しいと思うが、文章にまとめることによって自分の考えや理解の程度を再認識することができると感じた。
1U082	国際協力の現状と課題A	木村 幹	国際協力研究科	木	1	第1クォーター	学際	普段用いる情報媒体からは得られない知見や視点を、授業を通じて得ることができ、国際協力の現状と課題に対する理解と自分の考えを持つことができた。
1U082	国際協力の現状と課題A	木村 幹	国際協力研究科	木	1	第1クォーター	学際	内容のすべてが面白かったです。
1U082	国際協力の現状と課題A	木村 幹	国際協力研究科	木	1	第1クォーター	学際	授業を通して、日本が抱える国際関係に関わる問題の現状や実態を理解することが出来た。これからそれらの問題に携わるような状況になった際の土台となりうるような授業だった。
1U099	神戸大学史A	菊地 真	人文学研究科	月	2	第1クォーター	学際	毎回のスライドをビーフに掲載ほしい。
1U099	神戸大学史A	菊地 真	人文学研究科	月	2	第1クォーター	学際	課題は授業を受けていれば解ける者が多かったので良かった。しかし、神戸大学史という科目で試験を実施する意図はよく分からなかった。
1U099	神戸大学史A	菊地 真	人文学研究科	月	2	第1クォーター	学際	スライドをBEEF上に載せてほしい。復習するのにプリントだけでは聞き逃した、見逃したところもあり不十分だった。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	様々な方のお話が聞けて、大変勉強になった。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	幅広く国際的に活躍されている方々の話を聞くことが出来てとても有益だったし留学が少し身近になった。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	普段は聞けないようなお話を聞く機会に巡り合えたこと
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	毎回あらゆる業種の方々から、お話を聞くことができ、毎回自分の将来や物事の考え方を見直すきっかけになり、とても有意義なものであると感じている。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	優しかった

1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	グローバルに活躍している方のお話を生で聞くことができたのがよかったです。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	トピックがどれも非常に面白かった。またオンライン・対面を選択することができ、オンラインではでスライドが見やすく質問もしやすかった。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	永井先生の熱意が伝わってくる、興味深い授業の数々だった。要望としては、講義をしてくださる先生に授業内容を丸投げするのではなく、「こういうことを話してほしい」というのを明確に先生に伝えたほうがいい。全然面白くない内容をいつまでも話す先生もいて、それはつまらなかった。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	永井先生が授業内ずっと英語で説明するのを期待していました
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	貴重な話をたくさん聞くことができてよかった。課題の提出期限が早い。ゲストスピーカーの方の自己紹介が長いと思った。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	各回で専門家の話が聞けてとても有益だった。先生の授業への熱意が伝わった。また、たくさんの生徒が受講していて、授業最後によく学生の質問や意見が聞けたので、同年代の人がある問題に対してどういう考えを持っているのかを知れてよかった。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	Zoom配信が不安定で、所々聞き取れませんでした。今後は、通信環境を完全に整えてタイムロスのないようにして頂ければ幸いです。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	各授業ごとのまとめが短かったので、しっかりと内容を振り返って書く必要があり、授業自体にも集中できた。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	感想100字はきついです
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	内容が分かりやすかった。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	色々な経験を持った方に講演をしていただけるので、新しい発見を見つけたり異なる考え方を聞けたりできてとても良かった。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	単調な口調のゲスト講師さんが多かったように思える。プレゼンを聞いていて、楽しみなさそうに見える。担当教員の方は、ゲスト講師と学生の橋渡しがよくできていたと思う。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	講師の方の何人かの話は、時間内に収まらず、テーマと関連した重要な学びを理解しにくかったので残念だった。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	講義の内容だけでなく、振り返りや質問も含め授業全体がグローバルに活動するための学びとなった点が良かったと思う。振り返りもしっかりと評価していただき、次の授業や他の授業の振り返りを書く際にも役立った。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	授業でないとお会いできない方々のお話を聞くことができたし、とても興味がわく話題ばかりだった。
1U903	総合科目 I	永井 敦	グローバル教育センター	木	5	第1クォーター	学際	専門的過ぎて参考にならない先生がいた。
2U078	社会と人権B	武 寛子	非常勤講師	火	2	第2クォーター	学際	オンデマンド形式のため、授業を何度も見返すことができてよかった。
2U078	社会と人権B	武 寛子	非常勤講師	火	2	第2クォーター	学際	オンデマンドで何度も動画を見返して、復讐することができ、また参考資料も豊富にあり、講義の内容を拡充するのに非常に役立った。
2U078	社会と人権B	武 寛子	非常勤講師	火	2	第2クォーター	学際	人権に関する様々な問題について知り、考えることができた。
2U078	社会と人権B	武 寛子	非常勤講師	火	2	第2クォーター	学際	授業の中で、先生の研究されていることであったり具体的な事例などを口頭で説明されていることが多かったことが理解を促進してくれてよかった。
2U079	国際協力の現状と課題A	木村 幹	国際協力研究科	木	1	第2クォーター	学際	後半の木村先生の授業でのレジュメについて、グラフの色が白黒だと判別が難しくどれがどの国かわかりにくかったので、点線などにして見やすくしていただきたいです。
2U079	国際協力の現状と課題A	木村 幹	国際協力研究科	木	1	第2クォーター	学際	説明が細かく、分かりやすかった。専門知識が何もない私にとっては難しい話もあった。スクリーンに映し出されるスライドが文字が小さく見にくかったので、授業日のみなどでいいのでスライドをBEEFに掲載して欲しかったなどおもいます。
2U099	神戸大学史B	菊地 真	人文学研究科	月	2	第2クォーター	学際	スクリーンに映し出されるスライドが文字が小さく見にくかったので、授業日のみなどでいいのでスライドをBEEFに掲載して欲しかったなどおもいます。
2U099	神戸大学史B	菊地 真	人文学研究科	月	2	第2クォーター	学際	試験が30点満点と聞いていたのに、50点満点であったことは少し驚いた。
2U103	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	水	5	第2クォーター	学際	様々な立場の人のお話が聞けたこと。
2U103	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	水	5	第2クォーター	学際	普通に生きていては決してまみえることのなかったであろう猛者たちのお話を聞ける、それはそれは素晴らしい授業であった。神戸大学に入ってよかったと思えるほどに好きだった。
2U103	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	水	5	第2クォーター	学際	とくになし
2U103	企業社会論A	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	水	5	第2クォーター	学際	質問の時間が十分に確保されていることで、講師の方と学生が相互に意見を交わして考察を深められる場があったのがよかったと思う。
2U104	神戸大学の研究最前線B	葛城 浩一	大学教育推進機構	火	5	第2クォーター	学際	毎回授業の最後に課題についてやレポートについてなどの情報をリマインドしてくださるのがとてもありがたかったです。
2U104	神戸大学の研究最前線B	葛城 浩一	大学教育推進機構	火	5	第2クォーター	学際	自身の知らない内容ばかりで勉強になり大変面白かった。
2U105	ひょうご神戸学	田中丸 治	農学研究科	月	5	第2クォーター	学際	オンデマンド授業であったので自分のしたいタイミングで課題に取り組むことができたので良かった。

2U105	ひょうご神戸学	田中丸 治	農学研究科	月	5	第2クォーター	学際	この授業の良かった点は、youtubeのオンデマンド授業だったので、何回も動画を見返すことが出来たところです。
2U105	ひょうご神戸学	田中丸 治	農学研究科	月	5	第2クォーター	学際	神戸について様々な教授からのお話を聞けること
2U105	ひょうご神戸学	田中丸 治	農学研究科	月	5	第2クォーター	学際	授業資料が非常にわかりやすかった。
2U106	地域社会形成基礎論	奥村 弘	人文学研究科	木	5	第2クォーター	学際	何度も見返したいので映像を残していただけるとありがたかった。
2U106	地域社会形成基礎論	奥村 弘	人文学研究科	木	5	第2クォーター	学際	一定期間が経過した後も資料をbeefに残しておいて欲しいです。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	様々な職種のお話が聞けて、とても興味深かったです。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	様々な人の視点から話を聞いたこと、レベルの高い同級生の存在が大きい。今すぐにはないが、この授業での学びは必ず生きてくると思う。この授業について懸念する声があるとのことだが、なくさないでいただきたい。しかし、私は改善点もあると考える。まず、講義をされる方がほとんど男性だったことだ。今の日本の社会構造上やむを得ないのかもしれないが、もう少し女性の比率を増やす必要があると思う。また、期末試験について、これは私だけかもしれないが、90分に3題の論述試験は時間が足りなかった。もう少し分量を少なくするか、時間を延ば
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	様々な業界で活躍する先生方からグローバル化についての私見を聞くことができる機会はとても貴重で、自分のこれからの生き方を考えるきっかけになりました。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	様々な業界のトップに近い方々から直接話を拝聴できる点が最もよかった。テストは重かったものの良い経験となった。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	感想シートの量が多く、授業中に多くの人が書きながら聞いているという印象だった。私は感想を書くことよりも内容の理解に時間を使いたいため、あの量の感想を求められるのは辛かった。短時間で量を求められると、どうしても薄い内容になってしまうので、今の量の半分程度でよいと思う。書きたい人は今の量を書いてもよいというくらいが適切だと感じた。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	コミュニケーションシートを書く時間をもう少し欲しいです。しかし、授業内容は申し分ありません。少し難しい内容もありましたが、現場の最前線の生の声を聴けるので、今後も続けてほしいと思います。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	コミュニケーションシートを毎時間ごとに書かなければならないことに対して、質疑応答まで聞き終わってから書こうとすると時間がなく、聞きながら書かなければならないことが大変であった。書くことも大切だと思うが集中して聞きたかったので、もう少し各分量を減らしたりしてほしい。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	各界のスペシャリストに対して直接質問できる機会というのは大変有用な機会であったと思う。しかしながら、出席確認のためのコミュニケーションペーパーが手書きであるのは、積極的な質問の機会を奪っている点で改善すべきであると考え。この講義で一番重要なのは、各界のスペシャリストが直接講演されることによって学生達が直接、そのスペシャリスト達と対話できる点にあると考える。しかし、実際には手書きのコミュニケーションペーパーを書く時間によってそのような対話の時間というのはかなり限られていた。さらには先生方のお話の最中にコミ
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	BEEFに資料を載せてくれるとわかりやすいと思いました
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	オムニバス形式の講義で、登壇者も普段は話を聞けないような人ばかりでとても貴重な時間だったと思います。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	学部一年のうちこのような講義を受けられる機会を得られたこと、とても感謝しています。是非、次の一年次のために来年以降も開催していただきたいと思います。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	さまざまな分野の先生方の話を聞くことができ、自分の将来について考える良い時間になりました。
2U108	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	時事的な内容も多く、他の授業や普段の生活の中でもお話の内容を実感することがありました。また、講義してくださる先生の女性の比率を増やして欲しいと思いました。

2U108	社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	内容が多岐にわたり面白かった。
2U108	社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	自分には無かった視点からの話がたくさんあり、自分の考え方が変わった。 自分の専門分野だけでなく、さまざまな分野の先生が講義をしてくださり、思ったより色々な分野は繋がっているんだと思ったし、その意味では自分の専門分野を学ぶことは、色々な分野を学ぶことにも繋がるのかなと思った。 マーケティングなどの経済経営的なものはその学部には居ないとなかなか学べないと思うし、そもそも成功されている方から話を聞く機会は滅多にあることではないので、貴重な機会でした。 テストがあるのは理解度を測る意味でも重要だと思うが、ある決めら
2U108	社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	豪華な先生方。
2U108	社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	質問時間がまちまちだったので改善されたい
2U108	社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	経済はお腹いっぱいです
2U108	社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	地位を獲得した人の話は有益であったり、なかったりする。
2U108	社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)	西原 圭志	学術・産業イノベーション創造本部	他	0	第2クォーター	学際	推薦図書を紹介がほとんどなかったのが残念だった。また、質問時間は限られているのに時々聞く対象が異なっていると思われるような質問をして、講師の方も私が実際に勤めているわけではないのでわかりませんが、、、などの解答を返されていてそこは残念だった。ゴールドマンサックスの方や東京海上日動の方など普通に生活していたら話を聞くことはできないような方々の講演が聞けるので土曜日をつぶしてでも授業を取ってよかったと思う。大学生になって先生にも時々就活の話をされるが、何をすればいいのかわからず何もせず日々を過ごしてきた中で
2U109	海への誘い	廣野 康平	海事科学研究科	他	0	第2クォーター	学際	とても楽しかったです。
2U109	海への誘い	廣野 康平	海事科学研究科	他	0	第2クォーター	学際	海事科学部でもないのに、3種類の船に乗せていただき、総合教養科目2単位もいただくことができる点。
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	学際	非常に良い経験をさせていただきました。プランクトンの観察が楽しかったです。
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	学際	法学部生なので、海神丸の利用や理科の実験などは普通の講義ではする機会がほほないため、貴重な経験となりました。
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	学際	フィールドワークであったので、とても身に染みて環境について理解を深めることができた。
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	学際	観測や顕微鏡観察が楽しい。
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	学際	基礎知識を初日に確認した後に二日目、三日目に実習だったので、実習の際に瀬戸内海の調査によって得たデータとイメージを一致させることができたことがよかった。実習一日目に天候の影響で午前中のみしか乗船実習を行えなかったことが残念であった。
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	学際	なかなか体験できないことをさしてもらいとても楽しかった。
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	学際	海神丸の見学もできたこと。
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	学際	今までに体験したことのない事をたくさんできて楽しかったし、勉強にもなりました。
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	学際	実際に船に乗って瀬戸内海の調査をすることができ、とても良かったです。ただ、レポートの提出期限が早いので、もう少し余裕が欲しいです。
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	学際	実習での測定や海神丸の内部を見学できたことで、海洋環境や船舶について、より興味が湧いた。
2U110	瀬戸内海学入門	上井 進也	理学研究科	他	0	第2クォーター	学際	単純に海神丸に乗れるのが楽しかった。 調査もていねいに教えてくださったのでスムーズに行えました。
2U901	総合科目 I	鶴田 宏樹	学術・産業イノベーション創造本部	火	5	第2クォーター	学際	実際に実験したりプロトタイプしたりするなどして、問題やシステムのイメージをつかめたこと。

6. 令和3年度（2021年度）後期、同4年度（2022年度）前期
履修者数および成績分布

■教養教育院開講科目 成績分布(令和3年度第3Q、第4Q、後期(セメスター))科目別

- ◆履修者20名以上で、「秀」評価が50%以上の授業科目(ピンク色セル塗) → 7/15(金)までに原因とその対応の報告ください。
(除外科目は、黄色セル塗 → 必要に応じて対応ください。)
- ◆秀評価が10%を超える科目(「秀」評価の数値が赤字) → 10%を超える科目は赤字にしていますが、「秀」評価は履修者の概ね10%程度を上限とすることを全学的な目安としていますので状況をご確認いただき必要に応じて対応願います。
(除外科目は、青色 → 必要に応じて対応ください。)
- ◆教育部会全体で「秀」と「優」の評価の合計比率が40%を超える科目(「秀」「優」評価のセルをオレンジセル塗) → 確認及び必要に応じて対応ください。

※可否評価を行う科目を除く。

※読替え(新旧コードが存在する)がある科目は新旧それぞれの科目コードを1科目として集計しているため、表中のパーセンテージは実際と異なる場合がある。

部会	時間割コード / 科目名	開講区分	担当教員名	履修者数	合格				不合格
					秀	優	良	可	
19学際/				1664	5.0%	34.3%	35.2%	12.4%	13.0%
19学際/	3U081 / 社会と人権A	第3クォーター	塚田 哲之	59	8.5%	20.3%	27.1%	32.2%	11.9%
19学際/	3U098 / 企業社会論A	第3クォーター	鶴田 宏樹	48	4.2%	75.0%	6.3%	6.3%	8.3%
19学際/	3U101 / 環境学入門A	第3クォーター	神尾 英治	216	4.6%	60.2%	21.8%	6.5%	6.9%
19学際/	3U102 / 男女共同参画とジェンダーA	第3クォーター	青山 薫	92	0.0%	31.5%	50.0%	10.9%	7.6%
19学際/	3U104 / EU基礎論	第3クォーター	吉井 昌彦	21	0.0%	28.6%	47.6%	23.8%	0.0%
19学際/	3U107 / 企業社会論B	第3クォーター	鶴田 宏樹	19	15.8%	63.2%	5.3%	15.8%	0.0%
19学際/	3U108 / 職業と学びーキャリアデザインを考えるA	第3クォーター	北村 雅季	117	1.7%	41.0%	42.7%	1.7%	12.8%
19学際/	3U109 / ボランティアと社会貢献活動A	第3クォーター	ALEXANDER Ronni	11	36.4%	36.4%	18.2%	0.0%	9.1%
19学際/	3U110 / 神戸大学の研究最前線A	第3クォーター	山内 乾史	166	1.8%	44.0%	31.9%	4.2%	18.1%
19学際/	3U111 / ひょうご神戸学	第3クォーター	松下 正和	182	0.5%	13.2%	52.7%	13.2%	20.3%
19学際/	3U112 / 地域社会形成基礎論	第3クォーター	松下 正和	187	3.7%	13.4%	52.9%	18.2%	11.8%
19学際/	3U113 / 日本酒学入門	第3クォーター	米谷 淳	192	8.9%	35.4%	31.3%	9.9%	14.6%
19学際/	4U080 / 社会と人権B	第4クォーター	塚田 哲之	50	8.0%	14.0%	32.0%	24.0%	22.0%
19学際/	4U101 / 環境学入門B	第4クォーター	神尾 英治	188	10.1%	26.6%	25.5%	24.5%	13.3%
19学際/	4U102 / 男女共同参画とジェンダーB	第4クォーター	青山 薫	82	0.0%	46.3%	30.5%	9.8%	13.4%
19学際/	4U107 / ボランティアと社会貢献活動B	第4クォーター	ALEXANDER Ronni	14	28.6%	35.7%	7.1%	0.0%	28.6%
19学際/	3U103 / グローバルリーダーシップ育成基礎演習	後期	黒田 千晴	20	15.0%	20.0%	60.0%	5.0%	0.0%
19学際/上限適用外				787	8.8%	33.4%	27.2%	14.1%	16.5%
19学際/上限適用外	3U901 / 総合科目I(ひょうご神戸学)	第3クォーター	松下 正和	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
19学際/上限適用外	3U904 / 総合科目I(アクセシビリティリーダー論1)	第3クォーター	村中 泰子	40	2.5%	40.0%	42.5%	15.0%	0.0%
19学際/上限適用外	3U905 / 総合科目 I (日本酒学入門)	第3クォーター	米谷 淳	5	0.0%	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%
19学際/上限適用外	3U906 / 総合科目I(地域社会形成基礎論)	第3クォーター	松下 正和	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
19学際/上限適用外	3U909 / 総合科目 II (データサイエンス基礎)	第3クォーター	齋藤 政彦	108	6.5%	30.6%	30.6%	19.4%	13.0%
19学際/上限適用外	3U910 / 総合科目 II (統計学基礎A)	第3クォーター	齋藤 政彦	126	10.3%	34.9%	19.0%	17.5%	18.3%
19学際/上限適用外	3U911 / 総合科目 II (データサイエンス基礎)	第3クォーター	齋藤 政彦	86	5.8%	23.3%	27.9%	17.4%	25.6%
19学際/上限適用外	3U914 / 総合科目 II (データサイエンス基礎演習A)	第3クォーター	齋藤 政彦	125	3.2%	38.4%	38.4%	8.0%	12.0%
19学際/上限適用外	4U903 / 総合科目 II (データサイエンス基礎演習B)	第4クォーター	齋藤 政彦	120	5.8%	32.5%	24.2%	11.7%	25.8%
19学際/上限適用外	4U905 / 総合科目 II (データサイエンス概論1)	第4クォーター	齋藤 政彦	7	0.0%	0.0%	14.3%	42.9%	42.9%
19学際/上限適用外	4U910 / 総合科目 II (統計学基礎B)	第4クォーター	齋藤 政彦	123	10.6%	29.3%	26.8%	16.3%	17.1%
19学際/上限適用外	3UG09 / グローバルチャレンジ実習(ギャップタム海外協定校派遣コース(オンライン))・2019年	後期	小池 淳司	14	92.9%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%
19学際/上限適用外	3UG03 / グローバルチャレンジ実習(KUPESコース)	後期	橋田 力	5	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%
19学際/上限適用外	3UG07 / グローバルチャレンジ実習(理学UPLBオンラインコース)	後期	茶谷 絵理	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
19学際/上限適用外	3UG06 / グローバルチャレンジ実習(インターンシップチャレンジコース:ルーマニア)	後期	野上 恵美	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
19学際/上限適用外	3UG08 / グローバルチャレンジ実習(UPLBオンラインコース)	後期	金丸 研吾	21	19.0%	81.0%	0.0%	0.0%	0.0%
19学際/上限適用外	3UG05 / グローバルチャレンジ実習(海外ボランティアチャレンジコース:インドネシア・春実施)	後期	野上 恵美	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

■教養教育院開講科目 成績分布(令和4年度第1Q、第2Q、前期(セメスター))科目別

- ◆履修者20名以上で、「秀」評価が50%以上の授業科目(緑色セル塗) → 1/17(火)までに原因とその対応の報告ください。
(除外科目は、黄色セル塗 → 必要に応じて対応ください。)
- ◆秀評価が10%を超える科目(「秀」評価の数値が赤字) → 10%を超える科目は赤字にしていますが、「秀」評価は履修者の概ね10%程度を上限とすることを全学的な目安としていますので状況をご確認いただき必要に応じて対応願います。
(除外科目は、青色 → 必要に応じて対応ください。)
- ◆教育部会全体で「秀」と「優」の評価の合計比率が40%を超える科目(「秀」「優」評価のセルをオレンジセル塗) → 確認及び必要に応じて対応ください。

※合否評価を行う科目を除く。

※読替え(新旧コードが存在する)がある科目は新旧それぞれの科目コードを1科目として集計しているため、表中のパーセンテージは実際と異なる場合がある。

部会	時間割コード / 科目名	開講区分	担当教員名	履修者数	合格				不合格
					秀	優	良	可	
19学際/	19学際/			1540	14.5%	31.0%	29.3%	12.0%	13.2%
19学際/	1U081 / 社会と人権A	第1クォーター	武 寛子	143	25.9%	45.5%	16.8%	1.4%	10.5%
19学際/	1U082 / 国際協力の現状と課題A	第1クォーター	木村 幹	17	23.5%	17.6%	23.5%	11.8%	23.5%
19学際/	1U099 / 神戸大学史A	第1クォーター	菊地 真	178	7.9%	21.3%	21.9%	33.1%	15.7%
19学際/	2U078 / 社会と人権B	第2クォーター	武 寛子	199	59.3%	16.6%	11.6%	4.0%	8.5%
19学際/	2U079 / 国際協力の現状と課題A	第2クォーター	木村 幹	76	1.3%	36.8%	46.1%	5.3%	10.5%
19学際/	2U099 / 神戸大学史B	第2クォーター	菊地 真	100	6.0%	21.0%	33.0%	23.0%	17.0%
19学際/	2U103 / 企業社会論A	第2クォーター	鶴田 宏樹	147	2.0%	74.8%	15.0%	6.8%	1.4%
19学際/	2U104 / 神戸大学の研究最前線B	第2クォーター	葛城 浩一	80	3.8%	28.8%	22.5%	3.8%	41.3%
19学際/	2U105 / ひょうご神戸学	第2クォーター	田中丸 治哉	198	0.5%	25.3%	48.0%	13.6%	12.6%
19学際/	2U106 / 地域社会形成基礎論	第2クォーター	奥村 弘	194	0.5%	18.6%	47.9%	13.4%	19.6%
19学際/	2U108 / 社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	第2クォーター	西原 圭志	138	9.4%	34.8%	30.4%	15.2%	10.1%
19学際/	2U109 / 海への誘い	第2クォーター	廣野 康平	36	58.3%	22.2%	19.4%	0.0%	0.0%
19学際/	2U110 / 瀬戸内海学入門	第2クォーター	上井 進也	31	3.2%	41.9%	51.6%	0.0%	3.2%
19学際/	1U953 / 国際協力アクティブ・ラーニングA	前期	川畑 康治	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
19学際/	1U954 / 国際協力アクティブ・ラーニングB	前期	土佐 弘之	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
19学際/上限適用外	19学際/上限適用外			277	17.5%	44.1%	22.9%	9.4%	6.1%
19学際/上限適用外	1U903 / 総合科目 I (神戸GCP基礎論)	第1クォーター	永井 敦	244	18.9%	37.3%	27.0%	11.1%	5.7%
19学際/上限適用外	2U901 / 総合科目 I (CreativeSchool基礎編(課題解決の考え方の考え方))	第2クォーター	鶴田 宏樹	22	9.1%	72.7%	4.5%	4.5%	9.1%
19学際/上限適用外	2U902 / 総合科目 I (CreativeSchool応用編(オープンイノベーションコース))	第2クォーター	鶴田 宏樹	10	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
19学際/上限適用外	2U904 / 総合科目I(地域社会形成基礎論)	第2クォーター	奥村 弘	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
19学際/上限適用外	1UG04 / グローバルチャレンジ実習(サマースクールチャレンジコース(ハノイ貿易大学))	前期	永井 敦	5	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%
19学際/上限適用外	1UG08 / グローバルチャレンジ実習(シンガポール サステナビリティプログラム(オンライン))	前期	横川 博一	15	13.3%	73.3%	6.7%	0.0%	6.7%